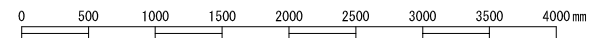


マンホール  
(S30101～)

# 特1号マンホール（内法90cm×60cm）構造図

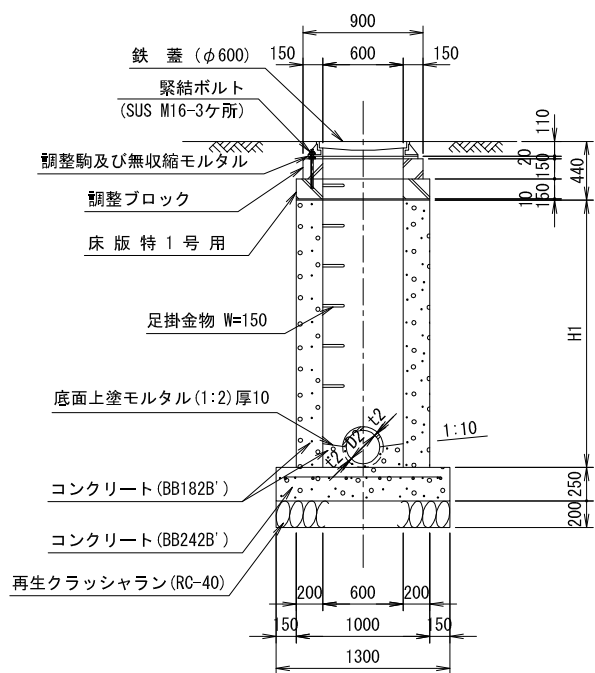
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	現場打ち 矩形	特1号 内法90cm×60cm	H	1:40 (A3版印刷時)	2011年度



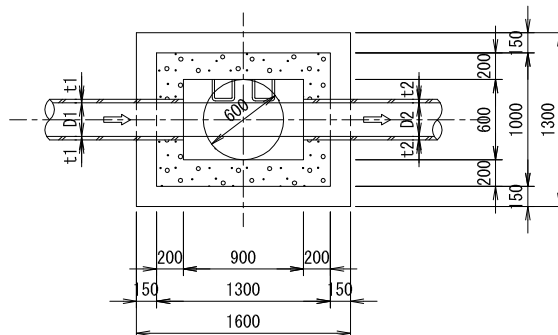
横断面図

平面図

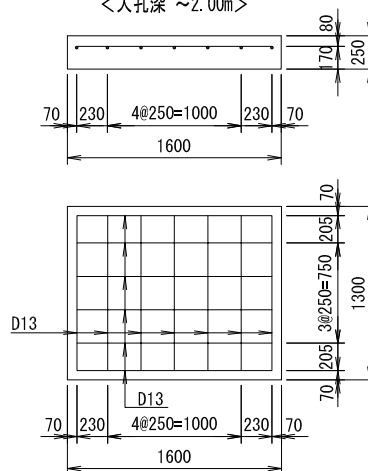
縦断面図



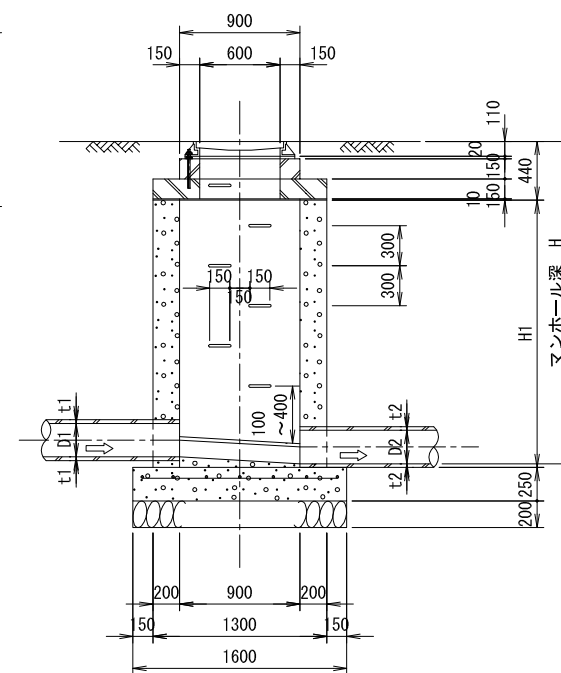
※ 受枠から床版までを緊結施工とする。



配筋図 (参考)  
＜人孔深～2.00m＞



※ 配筋はあくまで参考であり、構造計算を行い、配筋検討すること。



管の躯体コンクリート控除容積

管種	管径 (cm)							
	20	25	30	35	40	45	50	60
鉄筋コンクリート管	0.01	0.01	0.02	0.03	0.04	0.04	0.05	0.08
硬質塩化ビニル管	0.01	0.01	0.02	0.02	0.03	0.03	0.04	0.06

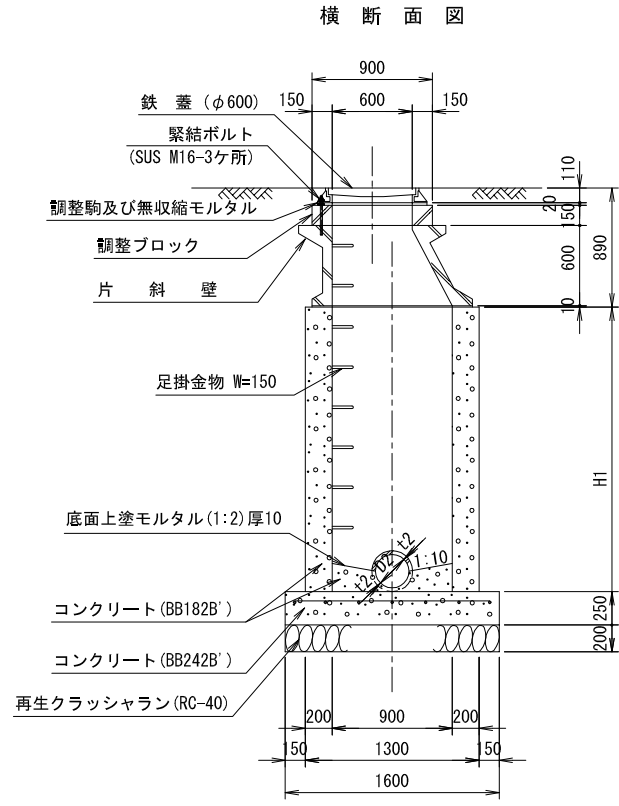
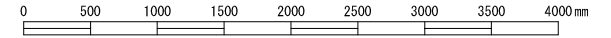
材料表

基礎 (m)	コンクリート (m <sup>3</sup> )		モルタル1:2 (m <sup>3</sup> )	鉄蓋 (組)	型枠 (m <sup>2</sup> )	
	BB242B'	BB182B'			基礎用	下部壁用
再生クラッシュラン RC-40	基礎用	下部壁用	調整ブロック用 側塊用	鉄蓋受枠共	基礎用	下部壁用
2.08	0.52	0.76×H1	0.01	1.0	1.45	7.60×H1

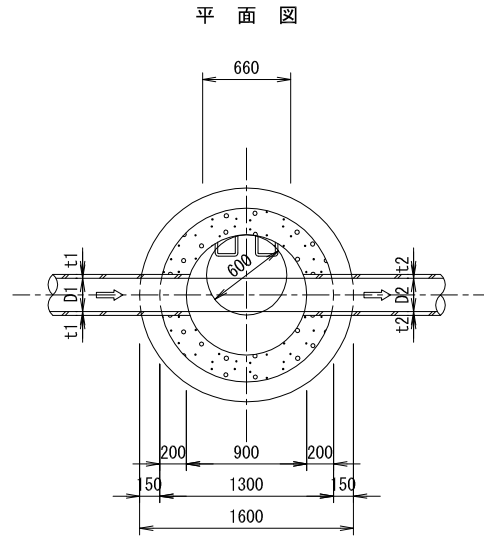
※ 鉄蓋受枠用モルタルは、無収縮モルタルを使用すること。

# 1号マンホール（内径90cm）構造図

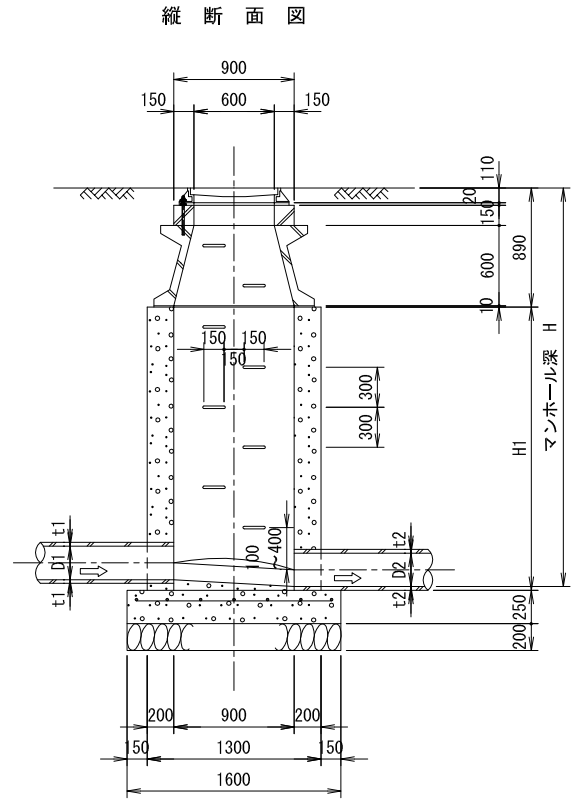
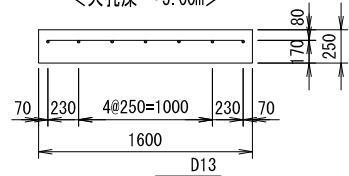
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	現場打ち円形	1号 内径90cm	H	1:40 (A3版印刷時)	2011年度



※ 受枠から片斜壁までを緊結施工とする。



配筋図 (参考)  
<人孔深 ~3.00m>



管の躯体コンクリート控除容積

管種 \ 管径 (cm)	(m <sup>2</sup> /箇所)							
	20	25	30	35	40	45	50	60
鉄筋コンクリート管	0.01	0.01	0.02	0.03	0.04	0.04	0.05	0.08
硬質塩化ビニル管	0.01	0.01	0.02	0.02	0.03	0.03	0.04	0.06

材料表

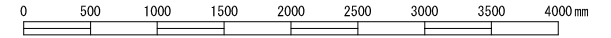
基礎 (m)	コンクリート (m <sup>3</sup> )		モルタル1:2 (m <sup>3</sup> )	鉄蓋 (組)	型枠 (m <sup>2</sup> )	
	BB242B'	BB182B'			基礎用	下部壁用
再生クラッシュラン RC-40	基礎用	下部壁用	調整ブロック用 側塊用	鉄蓋 受枠共	基礎用	下部壁用
2.12	0.53	0.69 × H1	0.01	1.0	1.32	6.91 × H1

※ 配筋はあくまで参考であり、構造計算を行い、配筋検討すること。

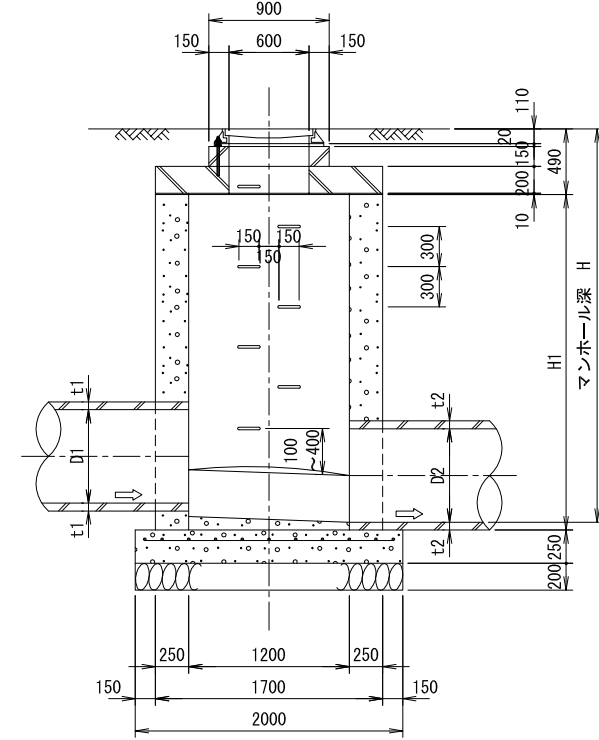
※ 鉄蓋受枠用モルタルは、無収縮モルタルを使用すること。

## 2号マンホール（内径120cm丙）構造図

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	現場打ち円形	2号 内径120cm丙	H	1:40 (A3版印刷時)	2011年度



縦断面図

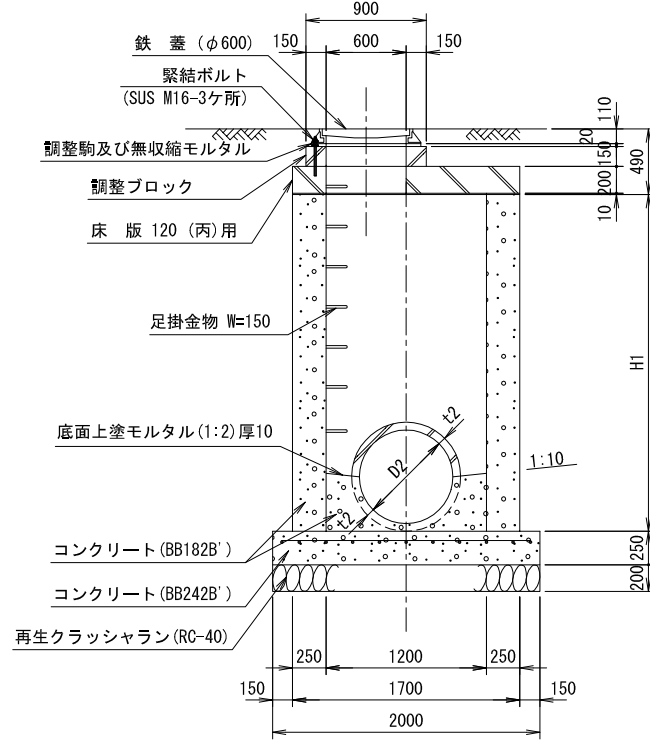


材 料 表

基礎 (m)	コンクリート (m <sup>3</sup> )		モルタル1:2 (m <sup>3</sup> )	鉄 蓋 (組)	型 枠 (m <sup>2</sup> )	
	BB242B'	BB182B'			基礎用	下部壁用
3.31	0.83	1.14 × H1	0.01	1.0	1.66	9.11 × H1

※ 鉄蓋受枠用モルタルは、無収縮モルタルを使用すること。

横断面図

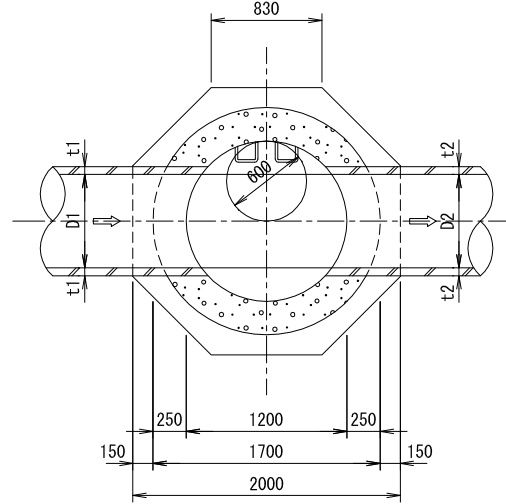


※ 受枠から床版までを緊結施工とする。

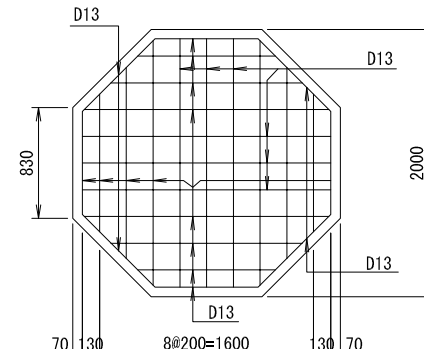
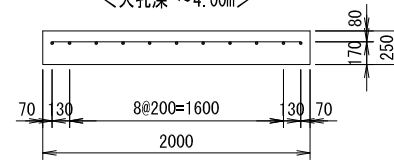
管の躯体コンクリート控除容積

管 種 \ 管 径 (cm)	20	25	30	35	40	45	50	60	70	80	90
鉄筋コンクリート管	0.01	0.02	0.03	0.03	0.04	0.05	0.07	0.10	0.13	0.17	0.22
硬質塩化ビニル管	0.01	0.01	0.02	0.03	0.03	0.04	0.05	0.08			

平面図



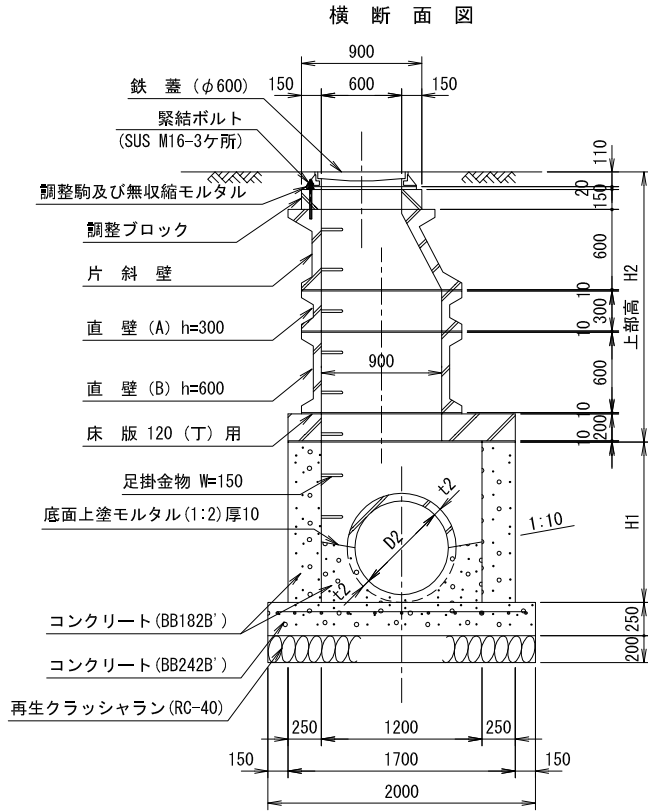
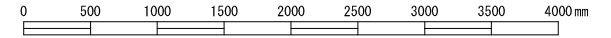
配筋図(参考)  
＜人孔深～4.00m＞



※ 配筋はあくまで参考であり、構造計算を行い、配筋検討すること。

## 2号マンホール（内径120cm丁）構造図

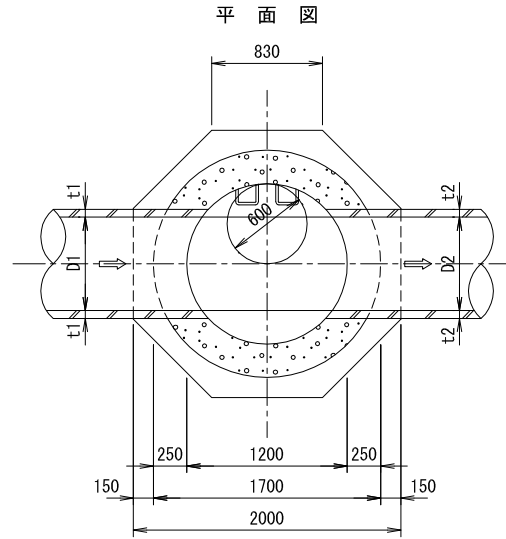
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	現場打ち円形	2号 内径120cm丁	H	1:40 (A3版印刷時)	2011年度



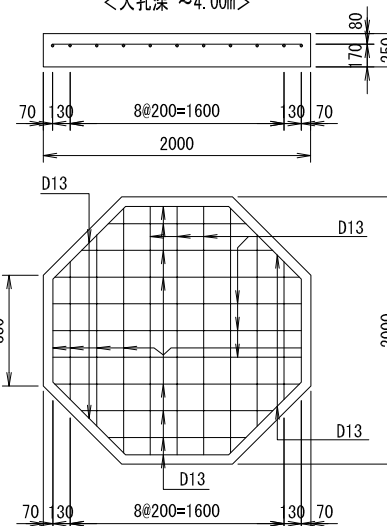
※ 受枠から片斜壁までを緊結施工とする。

管の躯体コンクリート控除容積

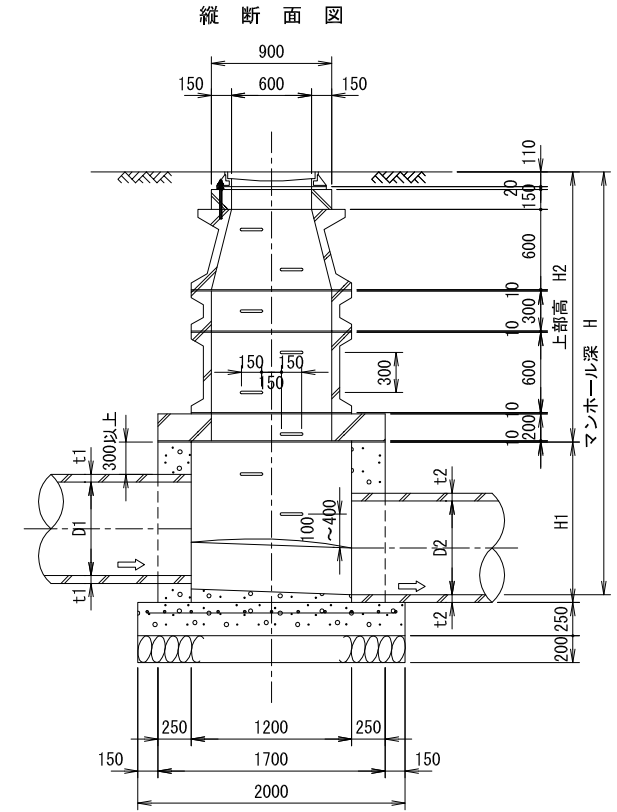
管種	管径 (cm)										
	20	25	30	35	40	45	50	60	70	80	90
鉄筋コンクリート管	0.01	0.02	0.03	0.03	0.04	0.05	0.07	0.10	0.13	0.17	0.22
硬質塩化ビニル管	0.01	0.01	0.02	0.03	0.03	0.04	0.05	0.08			



配筋図 (参考)  
<人孔深 ~4.00m>



※ 配筋はあくまで参考であり、構造計算を行い、配筋検討すること。



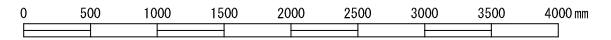
材 料 表

基礎 (m)	コンクリート (m <sup>3</sup> )		モルタル1:2 (m <sup>3</sup> )	鉄 蓋 (組)	型 枠 (m <sup>3</sup> )	
	BB242B'	BB182B'			基礎用	下部壁用
3.32	0.83	1.14 × H1	調整ブロック用 側塊 床版塊用	鉄 蓋 受 枠 共	1.0	1.66
						9.11 × H1

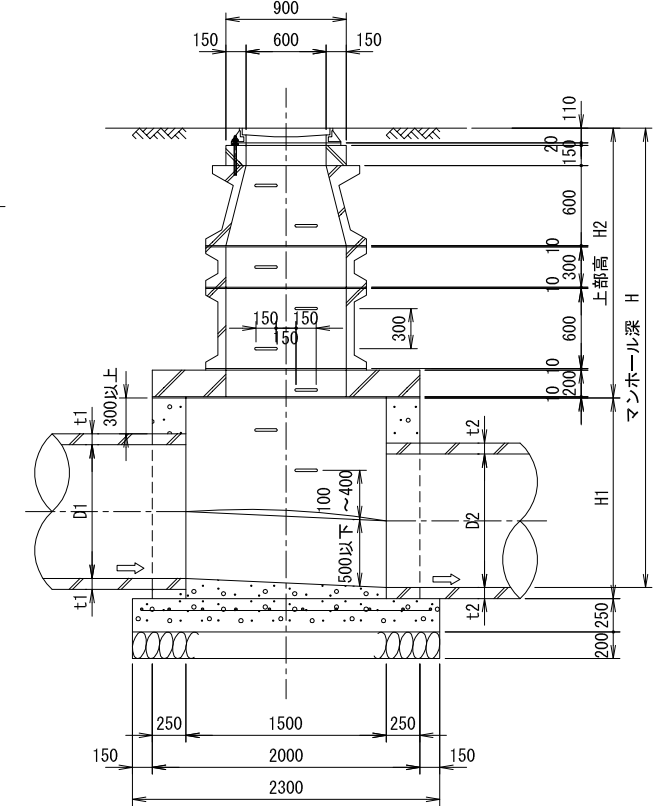
※ 鉄蓋受枠用モルタルは、無収縮モルタルを使用すること。

# 3号マンホール（内径150cm）構造図

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	現場打ち円形	3号 内径150cm	H	1:40 (A3版印刷時)	2011年度



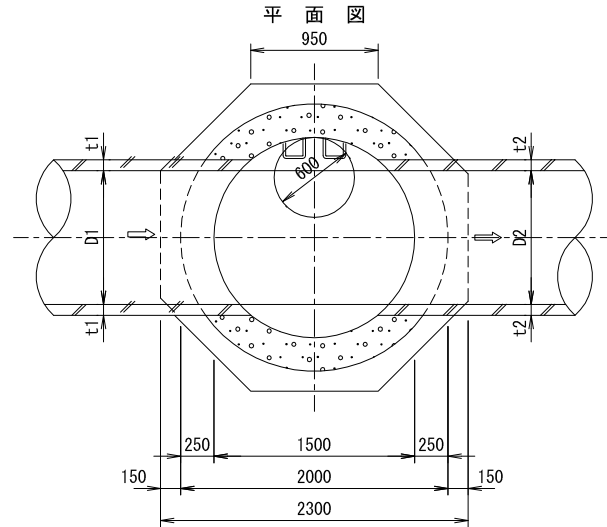
縦断面図



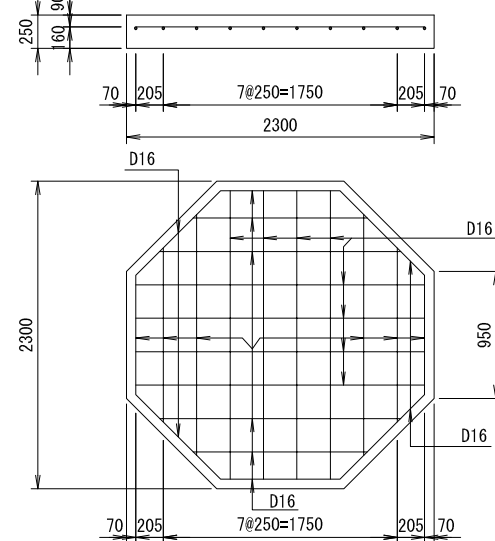
材料表

基礎 (m <sup>3</sup> )	コンクリート (m <sup>3</sup> )		モルタル 1:2 (m <sup>3</sup> )	鉄蓋 (組)	型枠 (m <sup>3</sup> )	
	BB242B'	BB182B'			基礎用	下部壁用
再生クラッシュラン RC-40	基礎用	下部壁用	調整ブロック用 側塊用 床版塊用	鉄蓋受枠共	基礎用	下部壁用
4.38	1.10	1.37×H1	0.01	1.0	1.90	11.00×H1

※ 鉄蓋受枠用モルタルは、無収縮モルタルを使用すること。

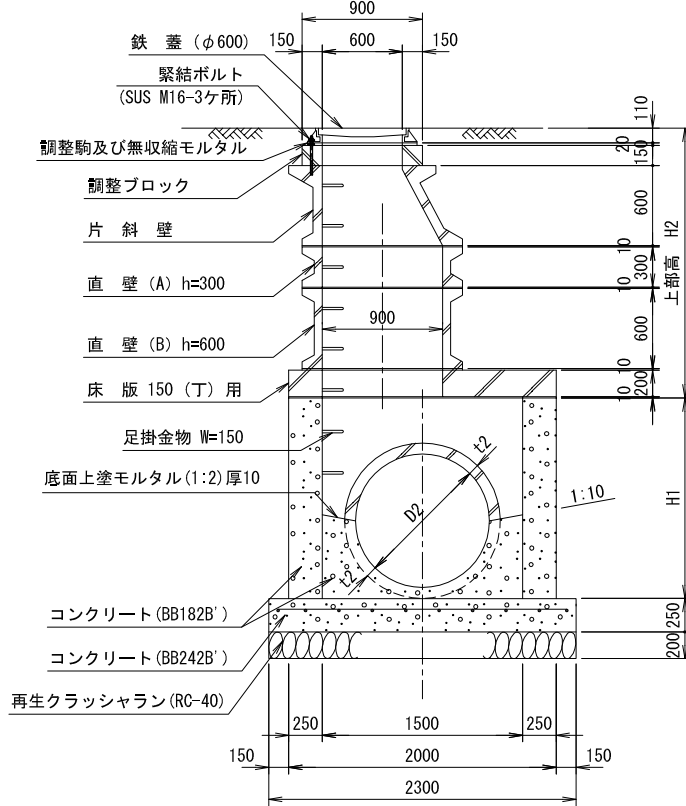


配筋図 (参考)  
<人孔深 ~4.00m>



※ 配筋はあくまで参考であり、構造計算を行い、配筋検算すること。

横断面図



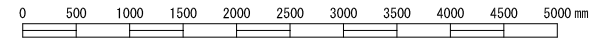
※ 受枠から片斜壁までを緊結施工とする。

管の躯体コンクリート控除容積

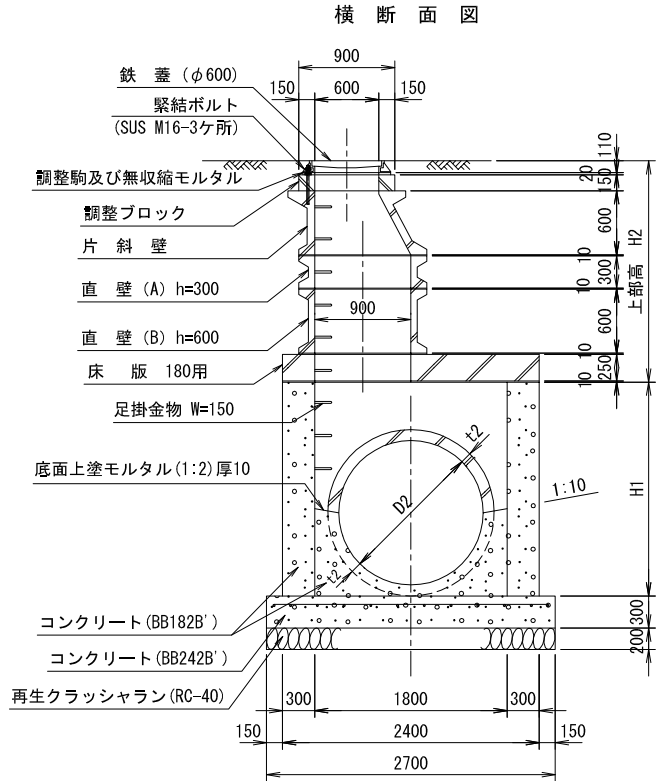
管径 (cm)	容積 (m <sup>3</sup> /箇所)							
	20	25	30	35	40	45	50	60
鉄筋コンクリート管	0.01	0.02	0.03	0.03	0.04	0.05	0.07	0.10
硬質塩化ビニル管	0.01	0.01	0.02	0.03	0.03	0.04	0.05	0.08
管径 (cm)	容積 (m <sup>3</sup> /箇所)							
	70	80	90	100	110	120		
鉄筋コンクリート管	0.13	0.17	0.22	0.27	0.32	0.38		

# 4号マンホール（内径180cm）構造図

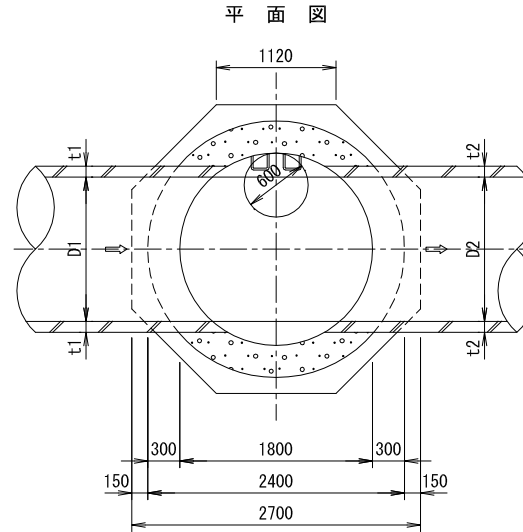
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	現場打ち円形	4号 内径180cm	H	1:50 (A3版印刷時)	2011年度



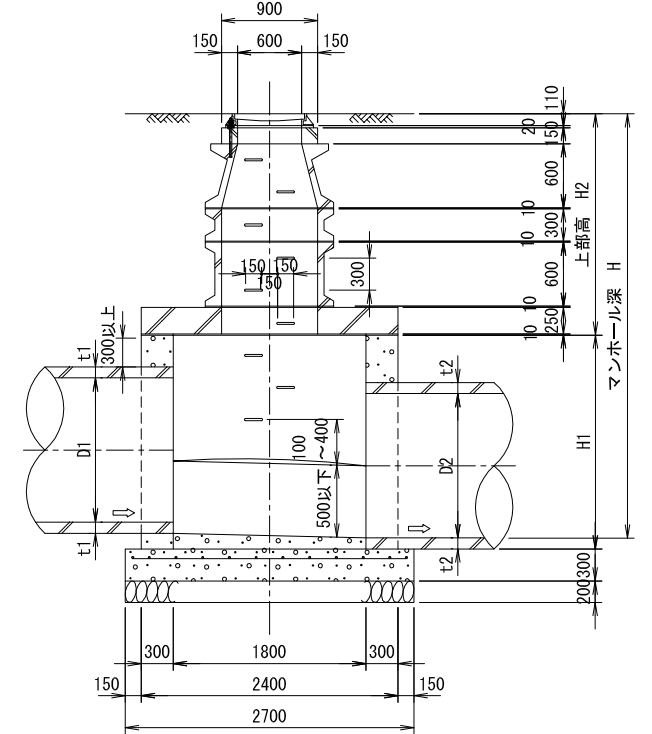
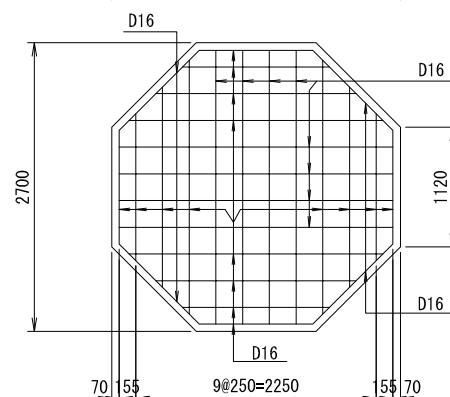
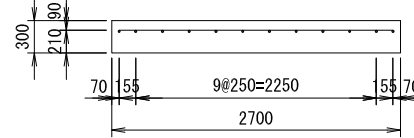
縦断面図



※ 受枠から片斜壁までを緊結施工とする。



配筋図（参考）  
<人孔深～3.50m>



管の躯体コンクリート控除容積

管種	管径 (cm)							
	20	25	30	35	40	45	50	60
鉄筋コンクリート管	0.02	0.02	0.03	0.04	0.05	0.07	0.08	0.12
硬質塩化ビニル管	0.01	0.02	0.02	0.03	0.04	0.05	0.06	0.09
管種	管径 (cm)							
	70	80	90	100	110	120	135	150
鉄筋コンクリート管	0.16	0.20	0.26	0.32	0.38	0.46	0.57	0.70

材料表

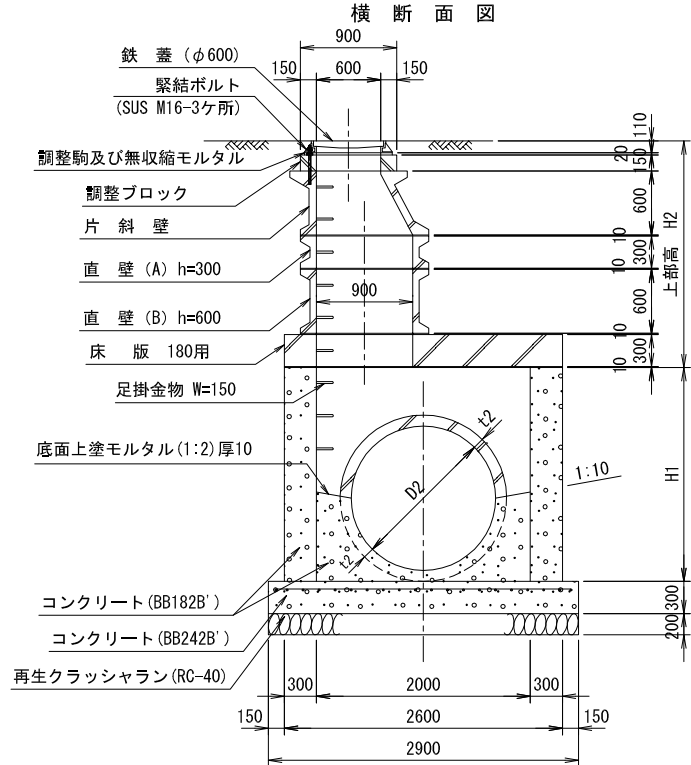
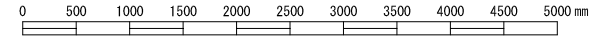
基礎 (m <sup>3</sup> )	コンクリート (m <sup>3</sup> )		モルタル 1:2 (m <sup>3</sup> )	鉄蓋 (組)	型枠 (m <sup>3</sup> )	
	BB242B'	BB182B'			基礎用	下部壁用
再生クラッシュラン RC-40	基礎用	下部壁用	調整ブロック用 側塊 床版塊用	鉄蓋受枠共	基礎用	下部壁用
6.04	1.81	1.98×H1	0.01	1.0	2.69	13.19×H1

※ 配筋はあくまで参考であり、構造計算を行い、配筋検討すること。

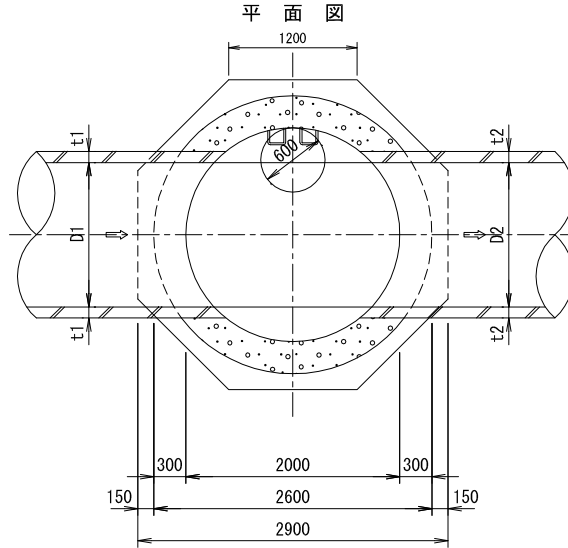
※ 鉄蓋受枠用モルタルは、無収縮モルタルを使用すること。

# 5号マンホール（内径200cm）構造図

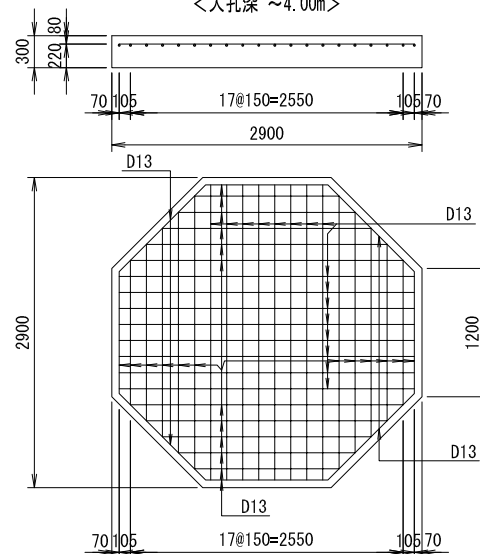
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	現場打ち円形	5号 内径200cm	H	1:50 (A3版印刷時)	2011年度



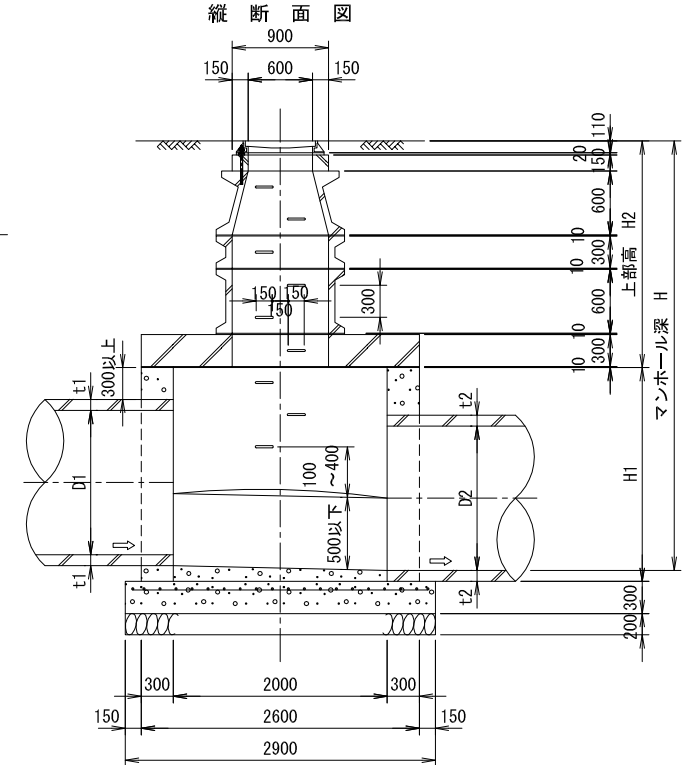
※ 受枠から片斜壁までを緊結施工とする。



配筋図 (参考)  
<人孔深 ~4.00m>



※ 配筋はあくまで参考であり、構造計算を行い、配筋検討すること。



縦断面図

管の躯体コンクリート控除容積

管種	管径 (cm)							
	20	25	30	35	40	45	50	60
鉄筋コンクリート管	0.02	0.02	0.03	0.04	0.05	0.07	0.08	0.12
硬質塩化ビニル管	0.01	0.02	0.02	0.03	0.04	0.05	0.06	0.09
管種	管径 (cm)							
	70	80	90	100	110	120	135	150
鉄筋コンクリート管	0.16	0.20	0.26	0.32	0.38	0.46	0.57	0.70

材料表

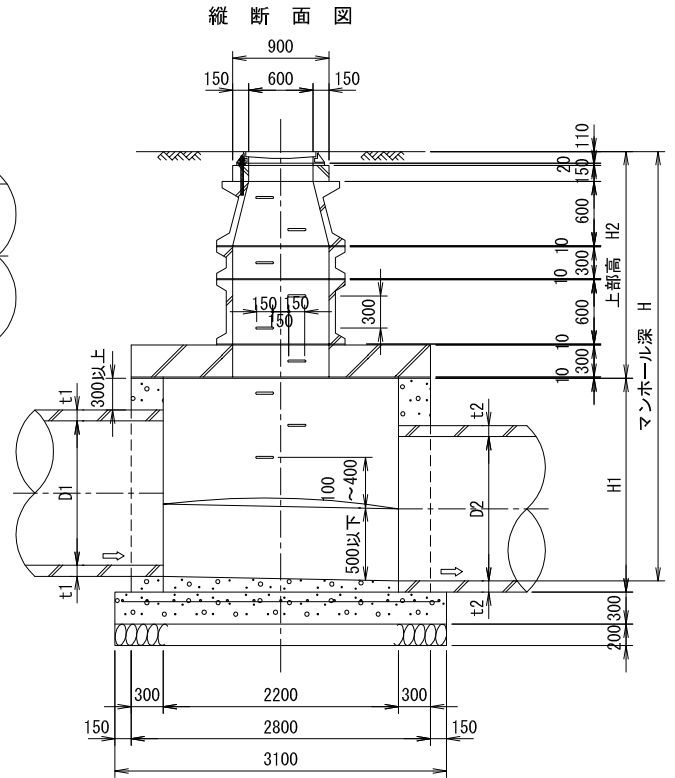
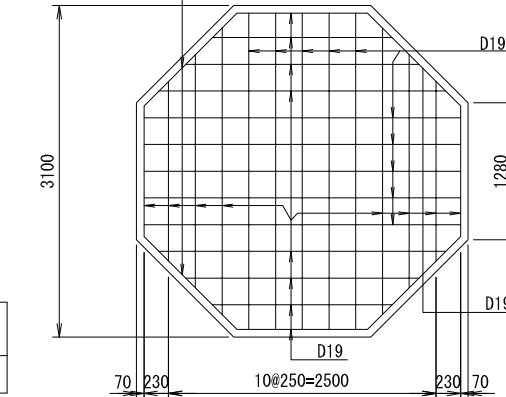
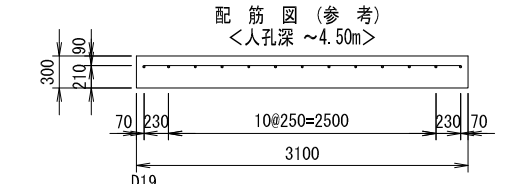
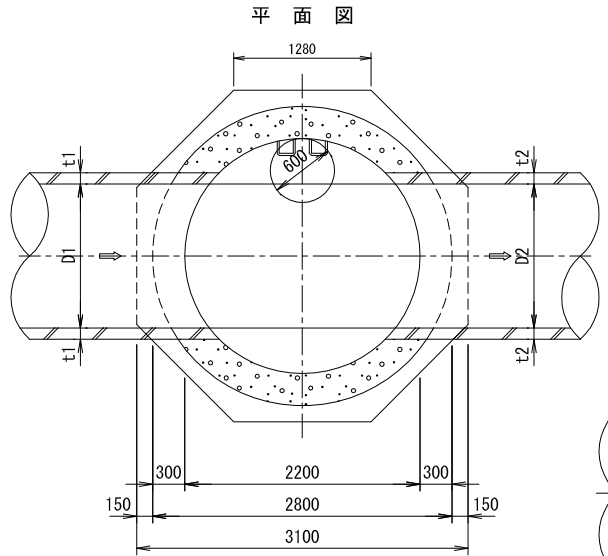
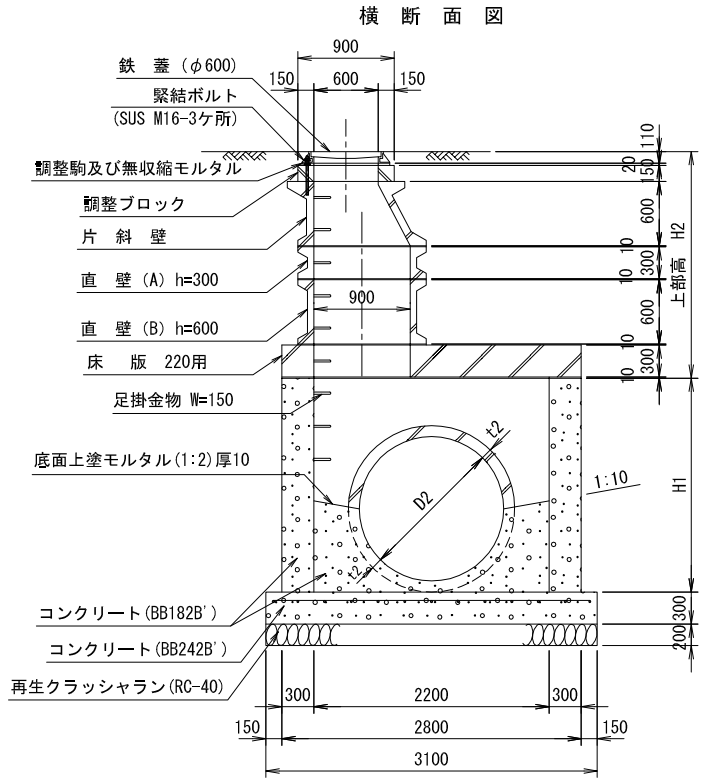
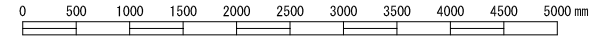
基礎 (m <sup>3</sup> )	コンクリート (m <sup>3</sup> )		モルタル 1:2 (m <sup>3</sup> )	鉄蓋 (組)	型枠 (m <sup>3</sup> )	
	BB242B'	BB182B'			基礎用	下部壁用
再生クラッシュラン RC-40	基礎用	下部壁用	調整ブロック用 側塊用 床版塊用	鉄蓋受枠共	基礎用	下部壁用
6.97	2.09	2.17×H1	0.01	1.0	2.98	14.45×H1

※ 鉄蓋受枠用モルタルは、無収縮モルタルを使用すること。



# 6号マンホール（内径220cm）構造図

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	現場打ち円形	6号 内径220cm	H	1:50 (A3版印刷時)	2011年度



※ 受枠から片斜壁までを緊結施工とする。

## 管の躯体コンクリート控除容積

管径 (cm)		(m <sup>3</sup> /箇所)								
管種	管径 (cm)	20	25	30	35	40	45	50	60	
鉄筋コンクリート管		0.02	0.02	0.03	0.04	0.05	0.07	0.08	0.12	
硬質塩化ビニル管		0.01	0.02	0.02	0.03	0.04	0.05	0.06	0.09	
管径 (cm)		70	80	90	100	110	120	135	150	165
鉄筋コンクリート管		0.16	0.20	0.26	0.32	0.38	0.46	0.57	0.70	0.84
										0.99

## 材料表

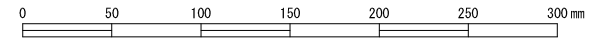
基礎 (m)	コンクリート (m <sup>3</sup> )		モルタル1:2 (m <sup>3</sup> )	鉄蓋 (組)	型枠 (m <sup>3</sup> )	
	BB242B'	BB182B'			基礎用	下部壁用
再生クラッシュラン RC-40	7.96	2.39	0.01	鉄蓋受枠共	3.07	15.71×H1

※ 配筋はあくまで参考であり、構造計算を行い、配筋検討すること。

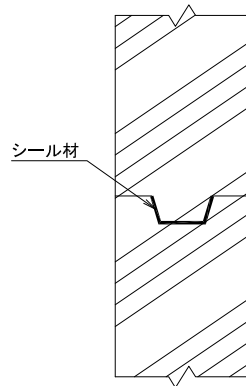
※ 鉄蓋受枠用モルタルは、無収縮モルタルを使用すること。

組立マンホール接合部の構造例  
( JSWAS A-11-2005 )

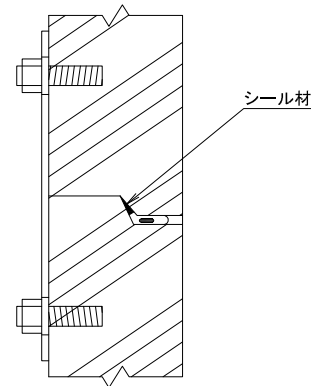
工 種	種 別	形 状	変 数	縮 尺	作成年度
マンホール	組立式 円形	接合部の 構造例		1:3 (A3版印刷時)	2011年度



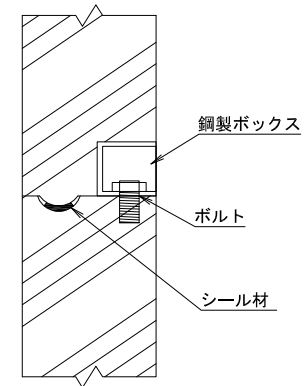
Aタイプの例



Bタイプの例



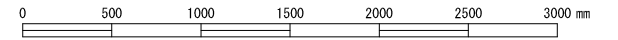
Cタイプの例



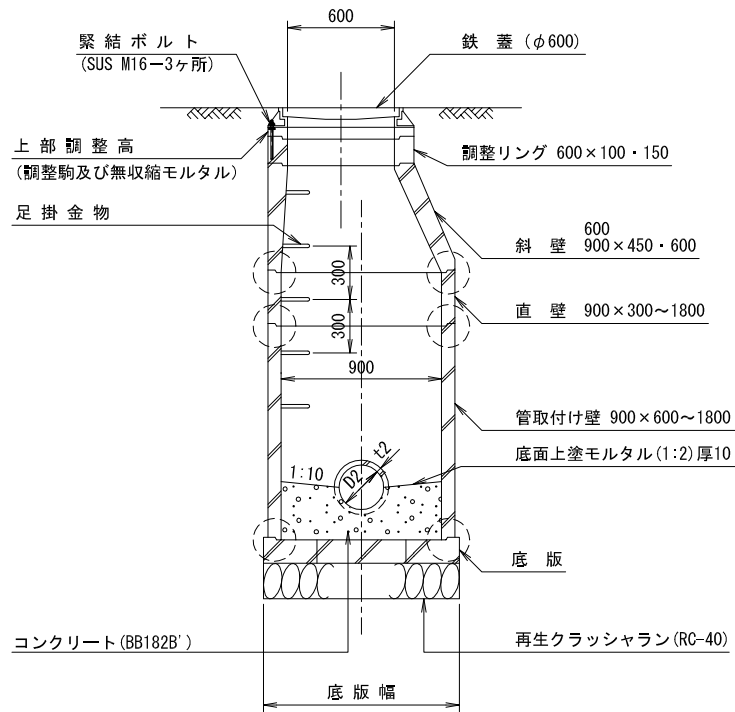
- 注1. 組立マンホールの接合部には、接合部上面に樹脂系シーリング材を用いることにより接合するAタイプ、金属プレートにより部材間を連結し、シーリング材により水密性を確保するBタイプ及び部材間をボルトで結合し、シーリング材により水密性を確保するCタイプがある。
- 注2. Aタイプは樹脂系シーリング材、B及びCタイプは連結部材で耐震性能を確保する。

組立1号マンホール（内径90cm）構造図  
 (JSWAS A-11-2005)

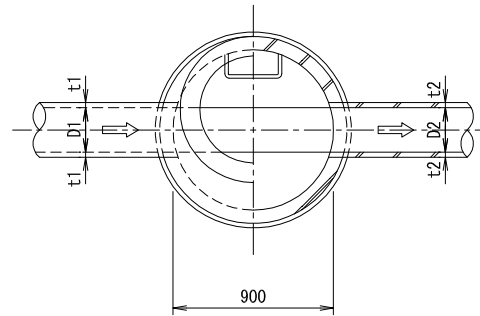
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	組立式 円形	組立1号 内径90cm	H	1:30 (A3版印刷時)	2011年度



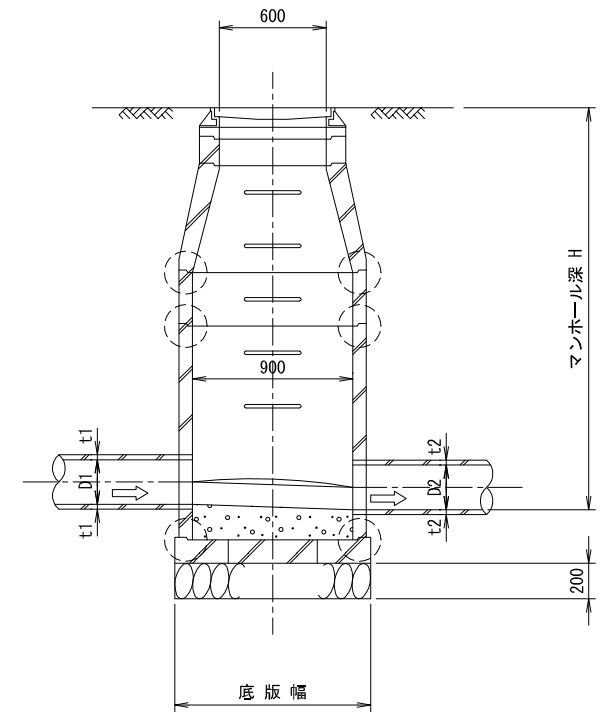
横断面図



平面図



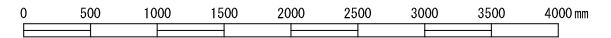
縦断面図



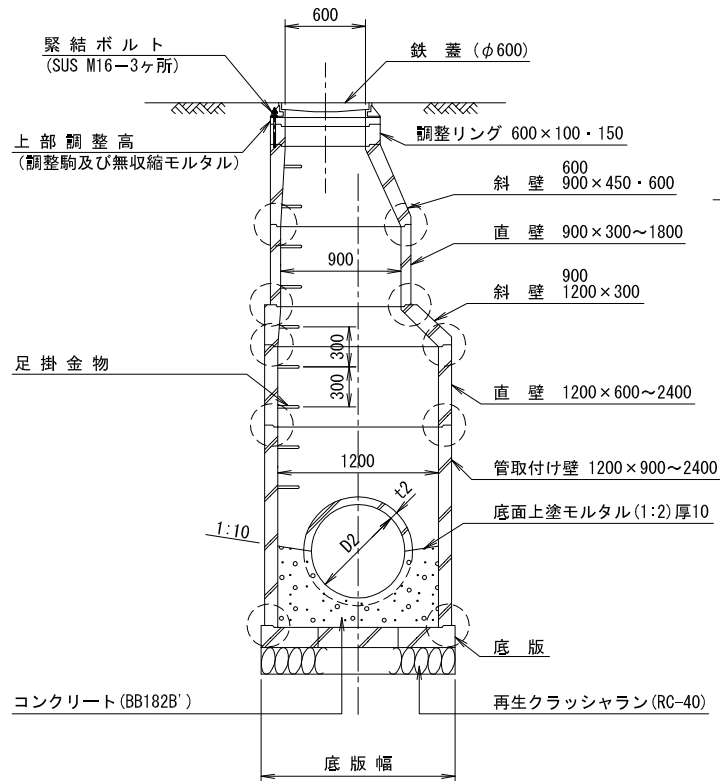
- 注1. 上部調整高は、調整リングで調整できない範囲を微調整する高さであり、現場において、調整駒等により調整を行う。
2. 調整リングの両端面、並びにこれと整合する部材の上端部の形状及び寸法については、組立人孔部材上部継手及び調整リングの形状と寸法の許容差による。  
 また、本図(○)の継手部及び各部材の形状寸法と寸法の許容差は日本下水道協会規格 JSWAS A-11 による。
3. 底付管取付け壁及び底版一体型管取付け壁を使用する場合のインバートは、現場打、工場製品のいずれでも良い。
4. 斜壁の高さは450mmおよび600mmを原則とする。
5. 直壁、躯体ブロックの高さは300mmピッチとする。

# 組立 2 号マンホール（内径 120 cm A）構造図 （ JSWAS A-11-2005 ）

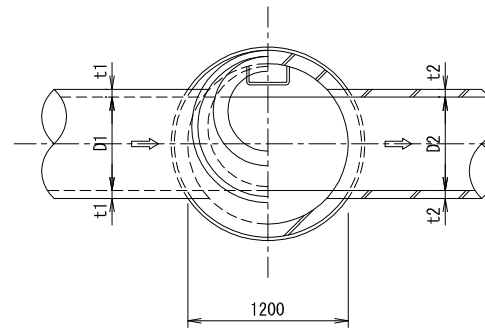
工 種	種 別	形 状	変 数	縮 尺	作 成 年 度
マンホール	組立式 円形	組立 2 号 内径 120 cm A	H	1:40 (A3版印刷時)	2011年度



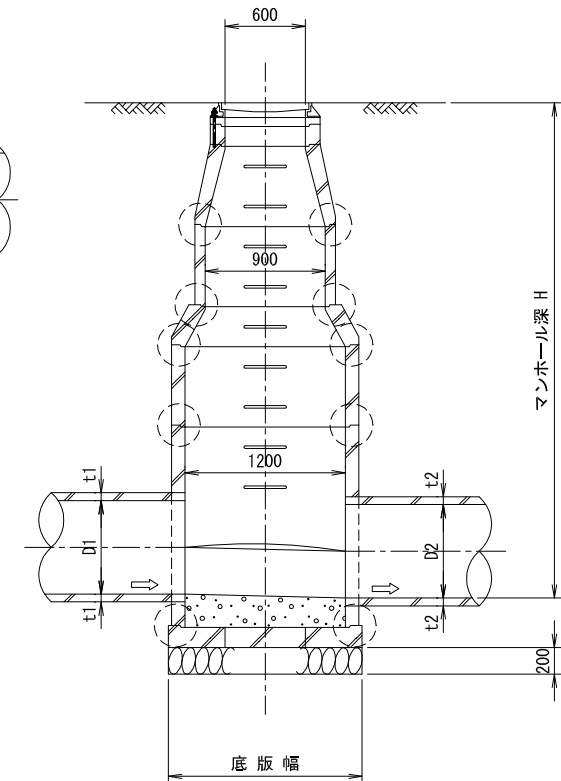
横断面図



平面図



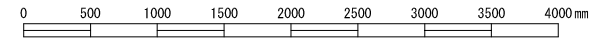
縦断面図



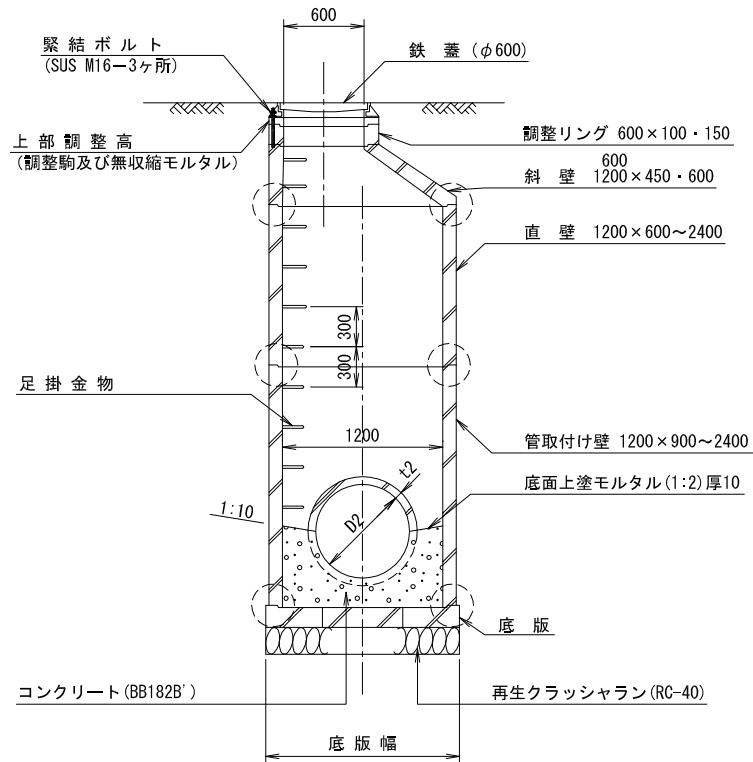
- 注 1. 上部調整高は、調整リングで調整できない範囲を微調整する高さであり、現場において、調整駒等により調整を行う。
2. 調整リングの両端面、並びにこれと整合する部材の上端部の形状及び寸法については、組立人孔部材上部継手及び調整リングの形状と寸法の許容差による。
- また、本図(○)の継手部及び各部材の形状寸法と寸法の許容差は日本下水道協会規格 JSWAS A-11 による。
3. 底付管取付け壁及び底板一体型管取付け壁を使用する場合のインバートは、現場打、工場製品のいずれでも良い。
4. 斜壁の高さは 450 mm および 600 mm を原則とする。
5. 直壁、躯体ブロックの高さは 300 mm ピッチとする。

# 組立 2 号マンホール（内径 120 cm B）構造図 （ JSWAS A-11-2005 ）

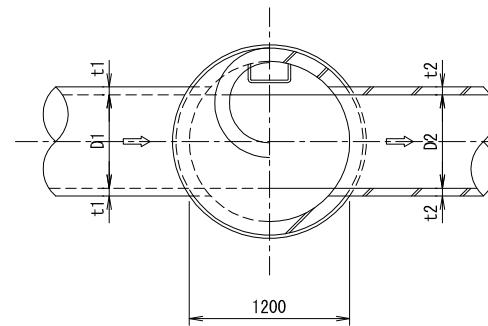
工 種	種 別	形 状	変 数	縮 尺	作成年度
マンホール	組立式 円形	組立 2 号 内径 120 cm B	H	1:40 (A3版印刷時)	2011年度



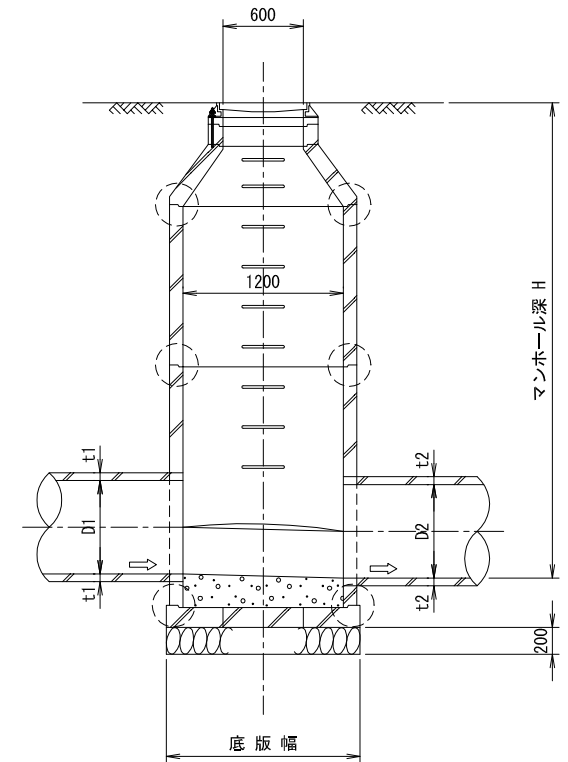
横断面図



平面図



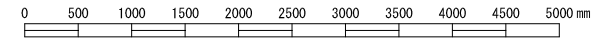
縦断面図



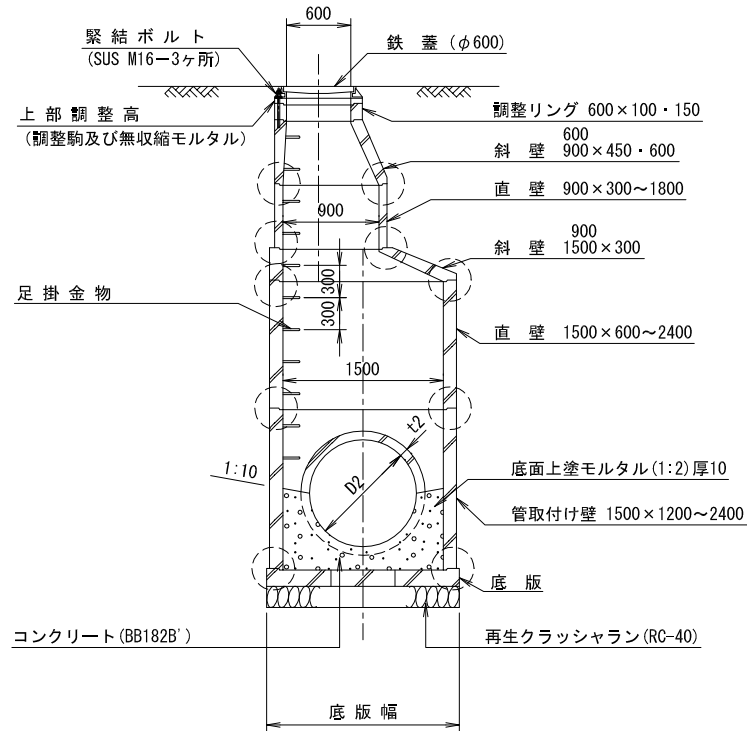
- 注 1. 上部調整高は、調整リングで調整できない範囲を微調整する高さであり、現場において、調整駒等により調整を行う。
2. 調整リングの両端面、並びにこれと整合する部材の上端部の形状及び寸法については、組立人孔部材上部継手及び調整リングの形状と寸法の許容差による。  
また、本図(○)の継手部及び各部材の形状寸法と寸法の許容差は日本下水道協会規格 JSWAS A-11 による。
3. 底付管取付け壁及び底板一体型管取付け壁を使用する場合のインバートは、現場打、工場製品のいずれでも良い。
4. 斜壁の高さは 450 mm および 600 mm を原則とする。
5. 直壁、躯体ブロックの高さは 300 mm ピッチとする。

# 組立 3 号マンホール（内径 150 cm A）構造図 （ JSWAS A-11-2005 ）

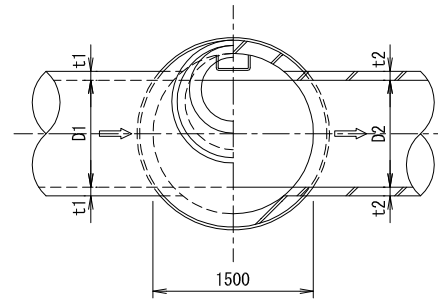
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	組立式 円形	組立 3 号 内径 150 cm A	H	1:50 (A3版印刷時)	2011年度



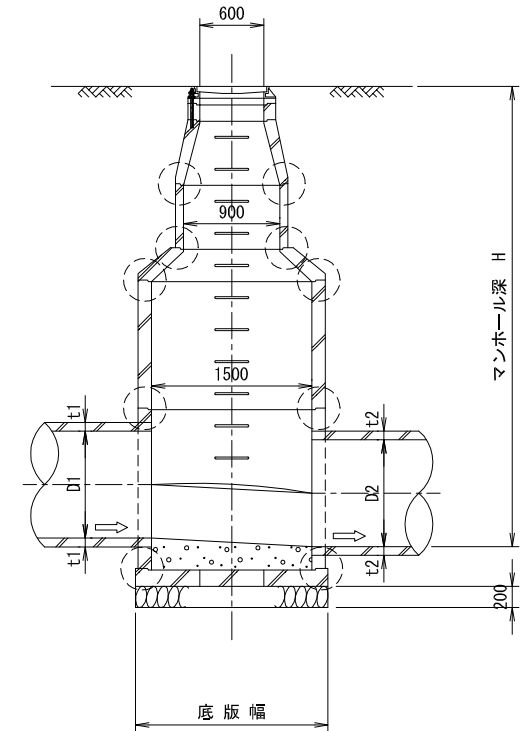
横断面図



平面図



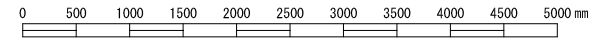
縦断面図



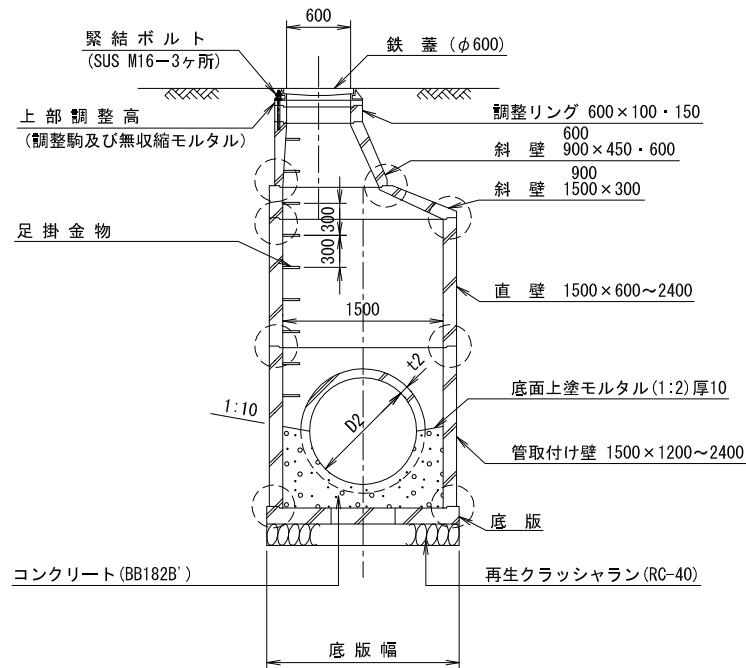
- 注 1. 上部調整高は、調整リングで調整できない範囲を微調整する高さであり、現場において、調整駒等により調整を行う。
2. 調整リングの両端面、並びにこれと整合する部材の上端部の形状及び寸法については、組立人孔部材上部継手及び調整リングの形状と寸法の許容差による。
- また、本図(○)の継手部及び各部材の形状寸法と寸法の許容差は日本下水道協会規格 JSWAS A-11 による。
3. 底付管取付け壁及び底板一体型管取付け壁を使用する場合のインパースは、現場打、工場製品のいずれでも良い。
4. 斜壁の高さは 450 mm および 600 mm を原則とする。
5. 直壁、躯体ブロックの高さは 300 mm ピッチとする。

# 組立 3 号マンホール (内径 150 cm B) 構造図 ( JSWAS A-11-2005 )

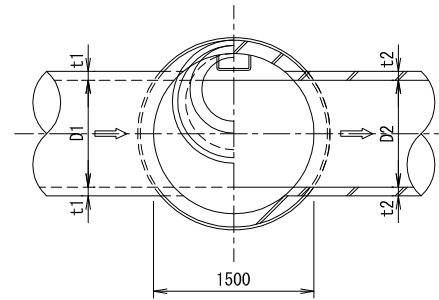
工 種	種 別	形 状	変 数	縮 尺	作成年度
マンホール	組立式 円形	組立 3 号 内径 150 cm B	H	1:50 (A3版印刷時)	2011年度



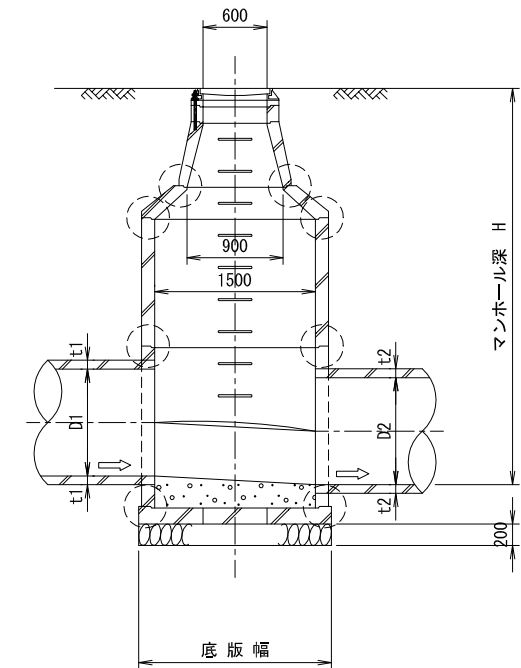
横断面図



平面図



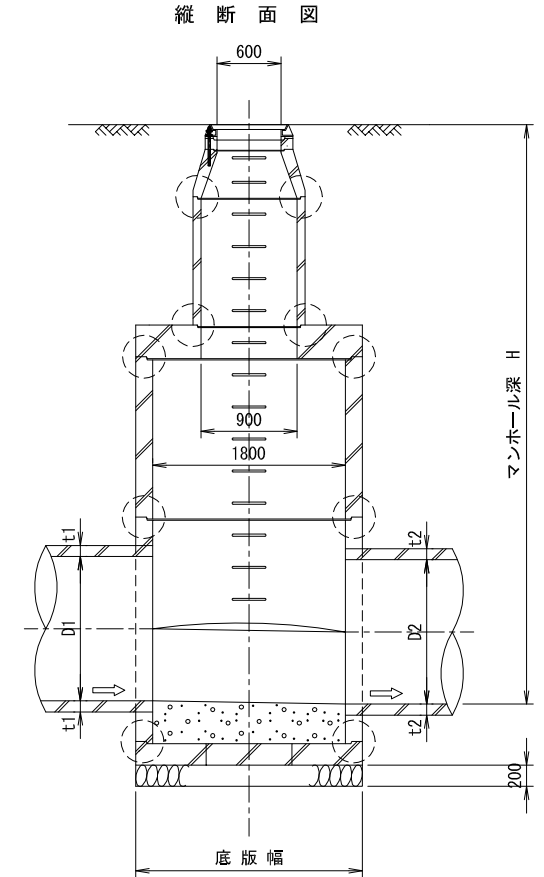
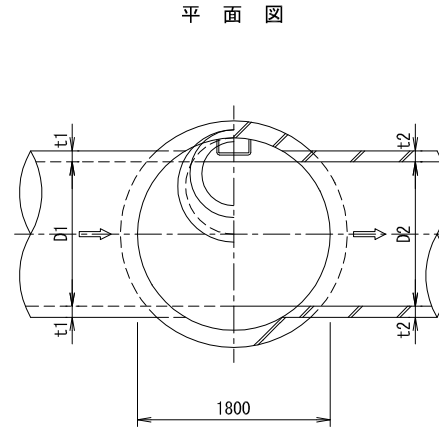
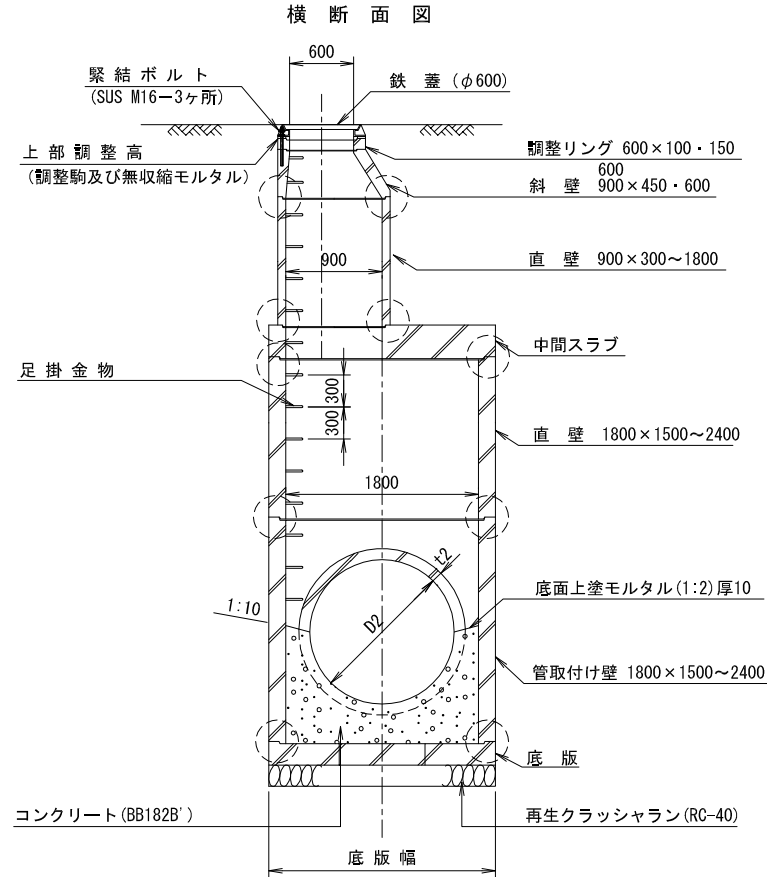
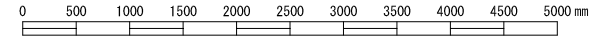
縦断面図



- 注 1. 上部調整高は、調整リングで調整できない範囲を微調整する高さであり、現場において、調整駒等により調整を行う。  
 2. 調整リングの両端面、並びにこれと整合する部材の上端部の形状及び寸法については、組立人孔部材上部継手及び調整リングの形状と寸法の許容差による。  
 また、本図(○)の継手部及び各部材の形状寸法と寸法の許容差は日本下水道協会規格 JSWAS A-11 による。  
 3. 底付管取付け壁及び底版一体型管取付け壁を使用する場合のインバートは、現場打、工場製品のいずれでも良い。  
 4. 斜壁の高さは450mmおよび600mmを原則とする。  
 5. 直壁、躯体ブロックの高さは300mmピッチとする。

組立 4 号マンホール (内径 180 cm) 構造図  
( JSWAS A-11-2005 )

工 種	種 別	形 状	変 数	縮 尺	作成年度
マンホール	組立式 円形	組立 4 号 内径 180 cm	H	1:50 (A3版印刷時)	2011年度



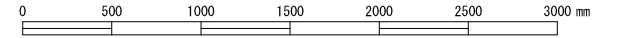
- 注 1. 上部調整高は、調整リングで調整できない範囲を微調整する高さであり、現場において、調整駒等により調整を行う。  
 2. 調整リングの両端面、並びにこれと整合する部材の上端部の形状及び寸法については、組立人孔部材上部継手及び調整リングの形状と寸法の許容差による。  
 また、本図(○)の継手部及び各部材の形状寸法と寸法の許容差は日本下水道協会規格 JSWAS A-11 による。  
 3. 底付管取付け壁及び底板一体型管取付け壁を使用する場合のインパートは、現場打、工場製品のいずれでも良い。  
 4. 斜壁の高さは 450 mm および 600 mm を原則とする。  
 5. 直壁、躯体ブロックの高さは 300 mm ピッチとする。



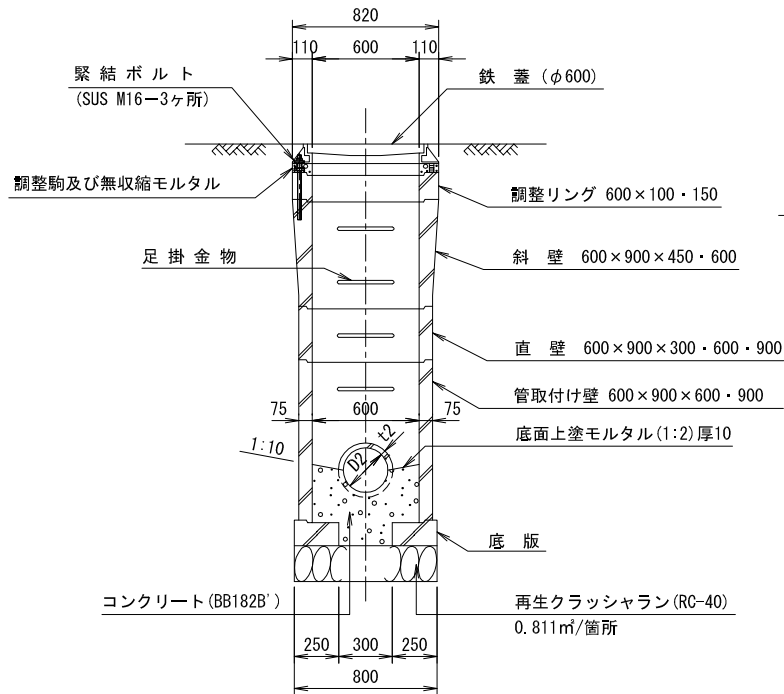
# 組立特1号マンホール（内法90cm×60cm）構造図

（参考図）

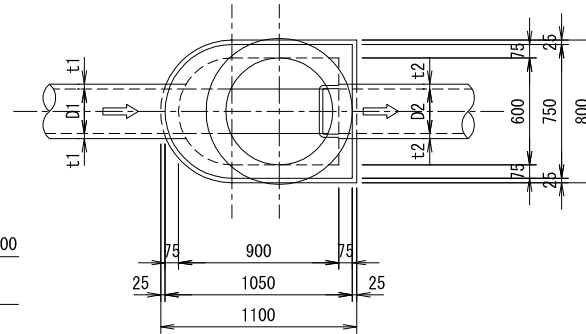
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	組立式 方円形	組立特1号 内法90cm×60cm (参考図)	H	1:30 (A3版印刷時)	2011年度



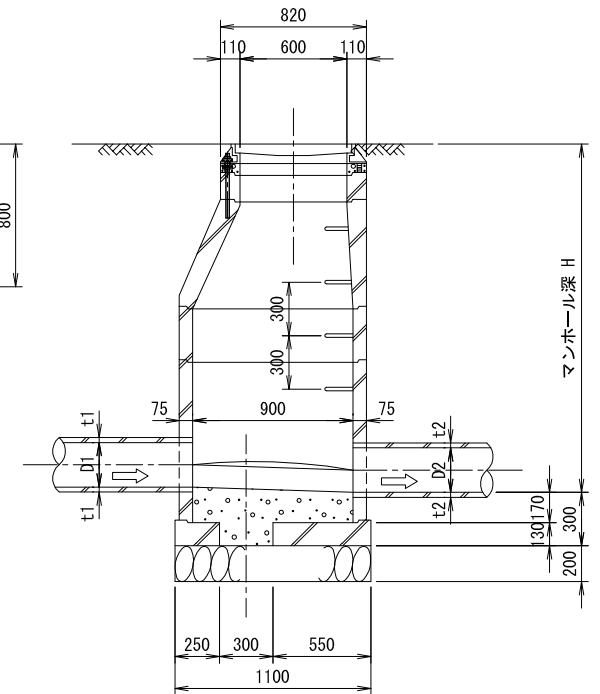
横断面図



平面図

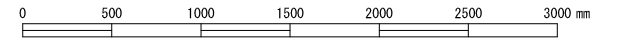


縦断面図

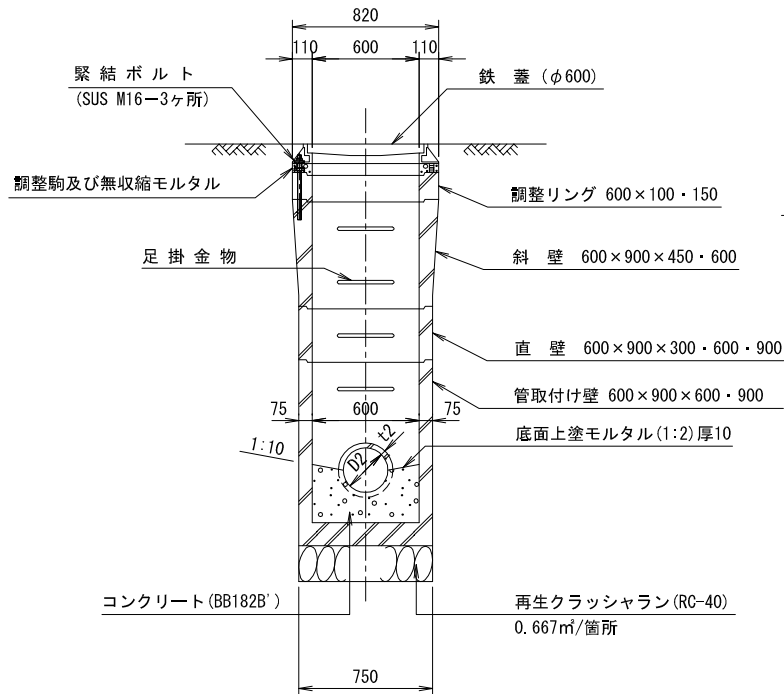


組立特1号マンホール（内法90cm×60cm）構造図  
（参考図）

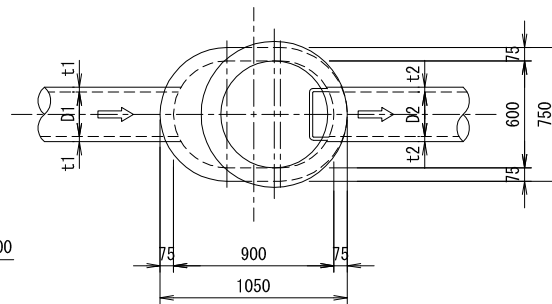
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	組立式 構円形	組立特1号 内法90cm×60cm (参考図)	H	1:30 (A3版印刷時)	2011年度



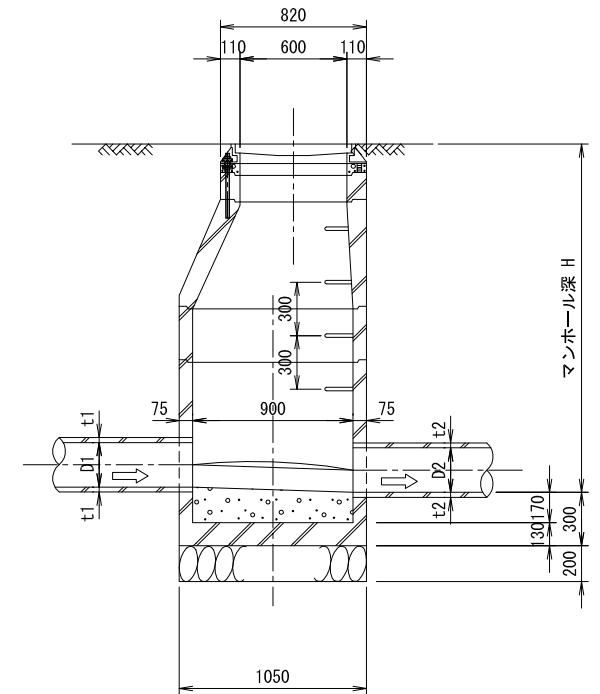
横断面図



平面図

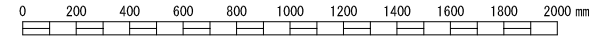


縦断面図

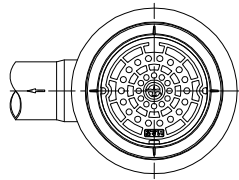


# 硬質塩化ビニル製小型マンホール（内径 30 cm）構造図 （ JSWAS K-9-2008 ）

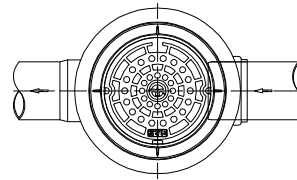
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	塩ビ製 小型 内径30cm	起 中 曲 点 点 点	H	1:20 (A3版印刷時)	2011年度



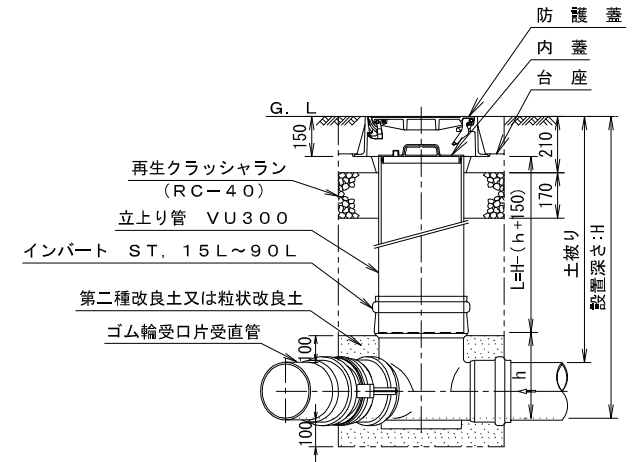
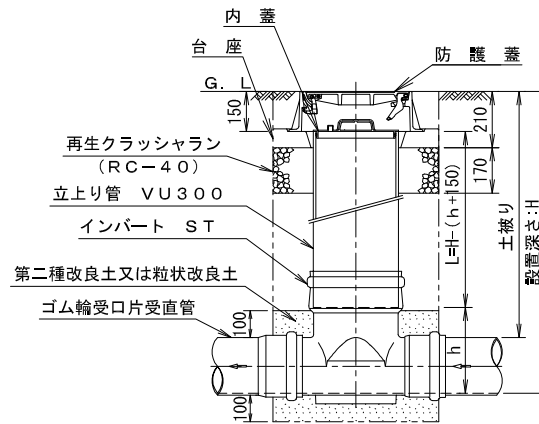
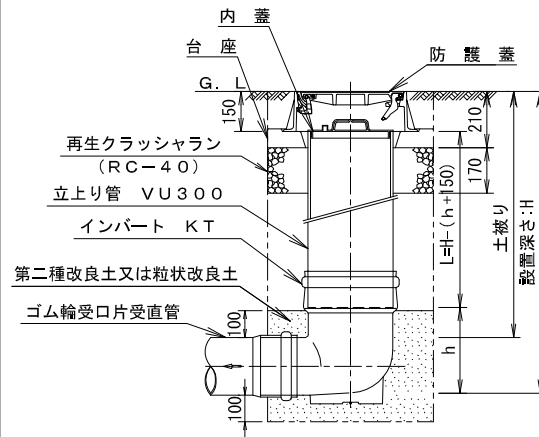
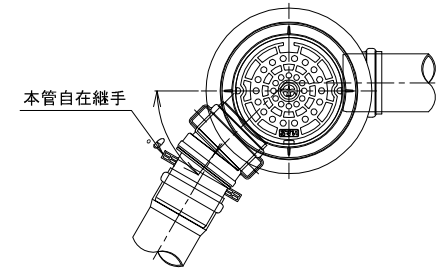
起 点



中 間 点

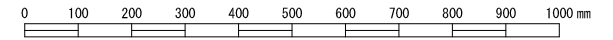


曲 点

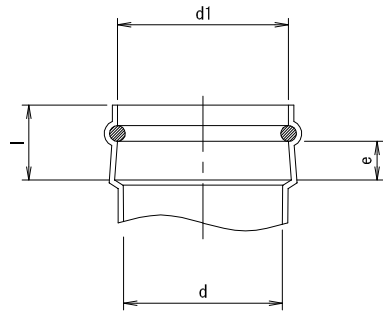


硬質塩化ビニル製小型マンホール立上り接合部詳細図  
( JSWAS K-9-2008 )

工 種	種 別	形 状	変 数	縮 尺	作成年度
マンホール	塩ビ製 小型 内径30cm	立上り接合部		1:10 (A3版印刷時)	2011年度



立上り接合部ゴム輪受口寸法



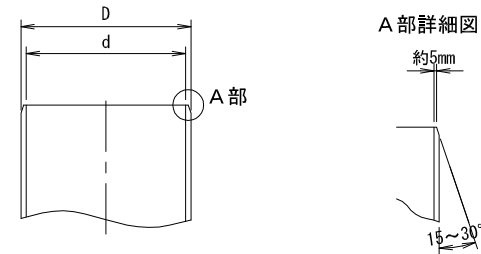
寸 法 表

(単位：mm)

マンホール径	受口内径 d <sub>1</sub> (最小)	接合長さ e (最小)	受口長さ l (最大)	近似内径 d (参考)
300	319.3	62	150	298

- 注 1. 本図は、ゴム輪受口形インパート部及びゴム輪受口形立上り部に適用する。  
 2. ゴム輪の形状及びゴム輪周辺部の形状は、規定しない。  
 3. 受口内径 d<sub>1</sub> は、直角 2 方向以上の内径測定値の平均値とする。

立上り接合部差し口寸法



寸 法 表

(単位：mm)

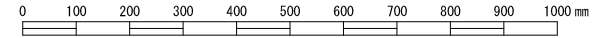
マンホール径	差し口外径		近似内径 d (参考)
	D	許容差	
300	318	±1.0	298

- 注 1. 本図は、差し口形インパート部及び差し口形立上り部に適用する。  
 2. 差し口外径 D は、直角 2 方向以上の外径測定値の平均値とする。

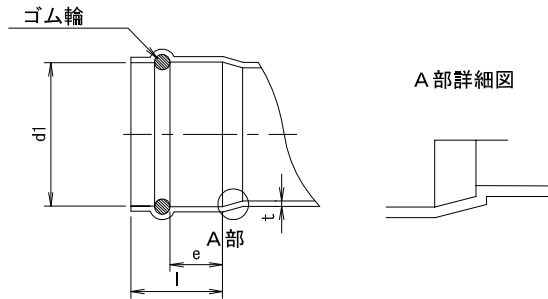
# 硬質塩化ビニル製小型マンホール管路接合部詳細図

( JSWAS K-9-2008 )

工 種	種 別	形 状	変 数	縮 尺	作成年度
マンホール	塩ビ製 小型 内径30cm	管路接合部	管径 (250)	1:10 (A3版印刷時)	2011年度



管路接合部ゴム輪受口寸法



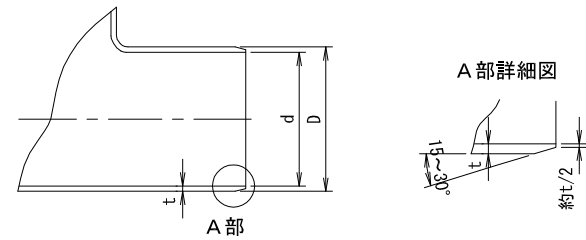
寸法表

(単位: mm)

管 径	受口内径 d1 (最小)	接合長さ e (最小)	受口長さ l (最大)	厚 さ t (最小)
150	165.7	47	165	5.1
200	216.9	52	185	6.5
250	268.1	57	205	7.8

- 注 1. ゴム輪の形状及びゴム輪周辺部の形状は、規定しない。  
 2. 受口内径 d1 は、直角2方向以上の内径測定値の平均値とする。  
 3. 受口奥内面は、A部詳細図に示す形状にすることもできる。

管路接合部差し口寸法



寸法表

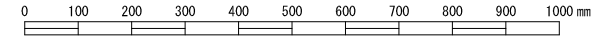
(単位: mm)

管 径	差し口外径		厚 さ t (最小)	近似内径 d (参考)
	D	許容差		
150	165	±0.5	5.1	154
200	216	±0.7	6.5	202
250	267	±0.9	7.8	250

- 注 1. 差し口外径 D は、直角2方向以上の外径測定値の平均値とする。

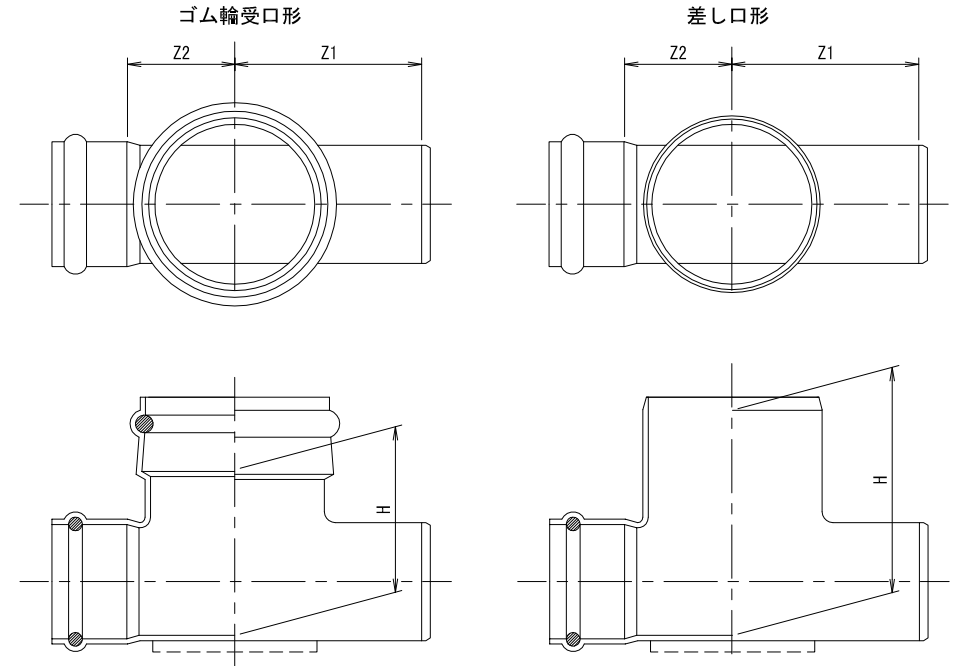
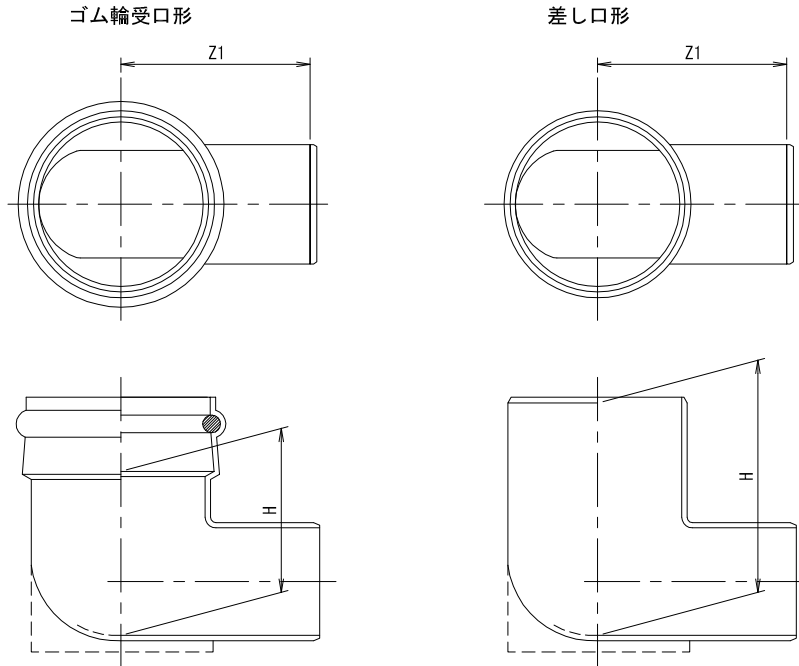
硬質塩化ビニル製小型マンホールインバート部詳細図  
( JSWAS K-9-2008 )

工 種	種 別	形 状	変 数	縮 尺	作成年度
マンホール	塩ビ製 小型 内径30cm	インバート部	呼び径 (200-300)	1:10 (A3版印刷時)	2011年度



起 点 (略号 KT)

ストレート (略号 ST)



寸 法 表

(単位: mm)

呼 び 径		Z1 (最 小)	H (最 小)	
管 径	マンホール径		受 口 形	差 し 口 形
150	300	280	230	360
200	300	290	255	410
250	300	350	310	460

注 破線で示すように安定脚を設けてもよい。なお、その形状は、規定しない。

寸 法 表

(単位: mm)

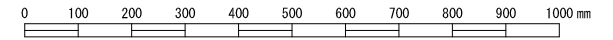
呼 び 径		Z1 (最 小)	Z2 (最 小)	H (最 小)	
管 径	マンホール径			受 口 形	差 し 口 形
150	300	280	180	230	360
200	300	290		255	410
250	300	350	190	310	460

注 破線で示すように安定脚を設けてもよい。なお、その形状は、規定しない。

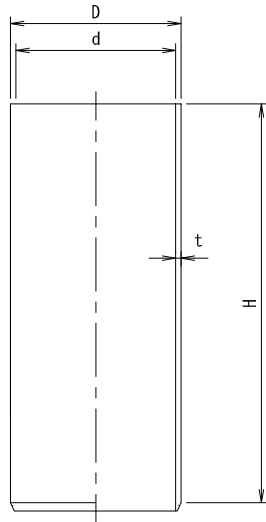
# 硬質塩化ビニル製小型マンホール立上り部詳細図

( JSWAS K-9-2008 )

工 種	種 別	形 状	変 数	縮 尺	作成年度
マンホール	塩 化 ビ ニ ル 製 小 型 内 径 3 0 c m	立 上 り 部	H	1:10 (A3版印刷時)	2011年度



差し口形立上り部  
(略号 MVU)



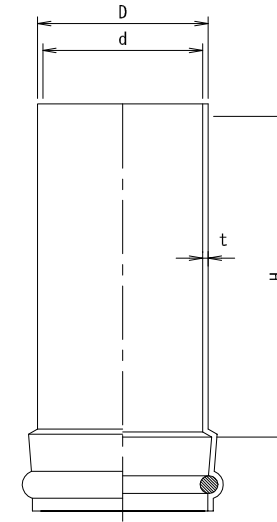
寸 法 表

(単位: mm)

呼 び		外 径		厚 さ t		d (参 考)	高 さ	
マンホール径	高さ	D	許 容 差	最 小	許 容 差		H	許 容 差
300	0.6	318	±1.0	9.2	+1.4	298	600	-0
300	0.9						900	
300	1.2						1200	
300	1.5						1500	
300	2.0						2000	
300	2.5						2500	
300	3.0						3000	

- 注 1. 差し口形立上り部は、受口形インバート部の立上り部として使用する。  
 2. 外径Dは、直角2方向以上の外径測定値の平均値とする。  
 3. 内径は、管の厚さを t (最小) + 許容差/2 として算出したものである。  
 4. 差し口部の詳細寸法は、S30210-1 による。  
 5. 呼びの高さ0.6(参考)とは、高さ0.6mであることを示す。

受口形立上り部  
(略号 MVR)



寸 法 表

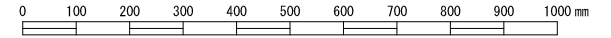
(単位: mm)

呼 び		外 径		厚 さ t		d (参 考)	高 さ	
マンホール径	高さ	D	許 容 差	最 小	許 容 差		H	許 容 差
300	0.6	318	±1.0	9.2	+1.4	298	600	-0
300	0.9						900	
300	1.2						1200	
300	1.5						1500	
300	2.0						2000	
300	2.5						2500	
300	3.0						3000	

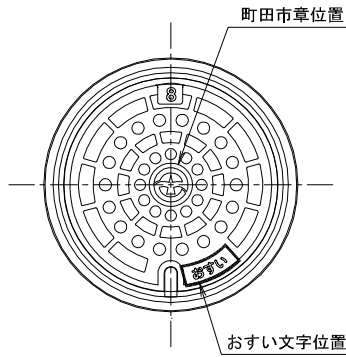
- 注 1. 受口形立上り部は、受口形インバート部の立上り部として使用する。  
 2. 外径Dは、直角2方向以上の外径測定値の平均値とする。  
 3. 内径は、管の厚さを t (最小) + 許容差/2 として算出したものである。  
 4. 受口部の詳細寸法は、S30210-1 による。  
 5. 呼びの高さ0.6(参考)とは、高さ0.6mであることを示す。

小型マンホール用防護蓋詳細図  
( JSWAS G-3-2005 )

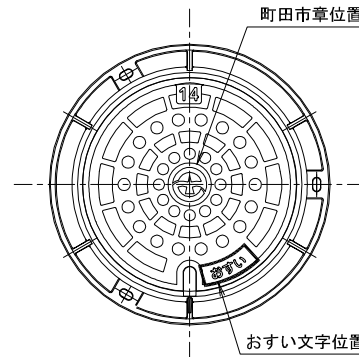
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	塩ビ製 小型 内径 30cm	防護蓋		1:10 (A3版印刷時)	2011年度



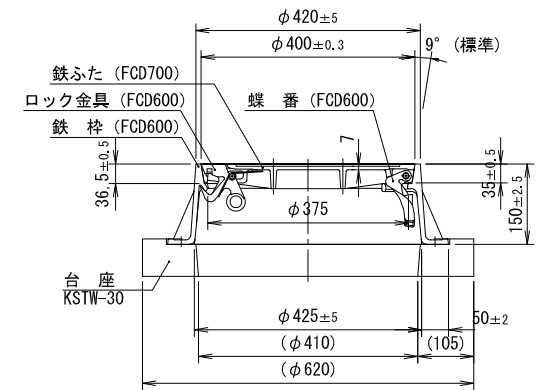
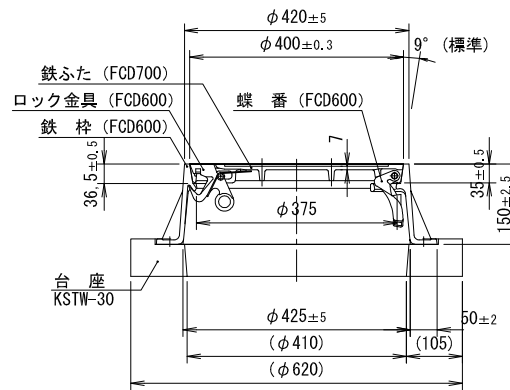
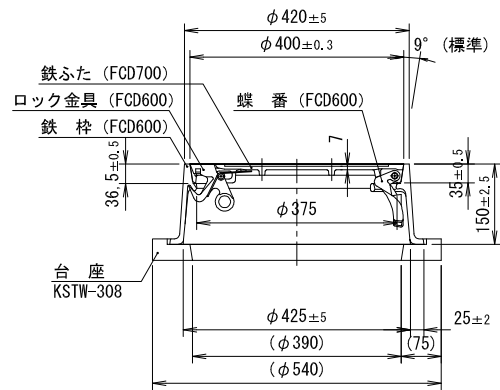
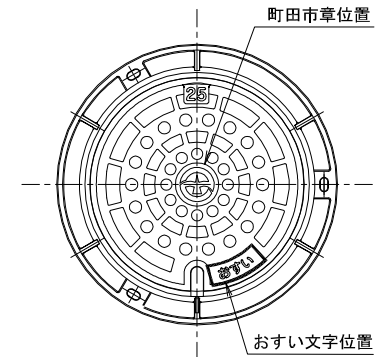
T-8



T-14



T-25

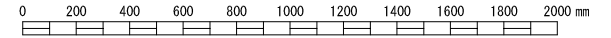




# 硬質塩化ビニル製小型マンホール（内径30cm）構造図

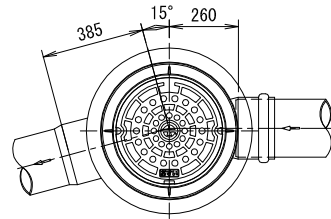
（参考図）

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	塩ビ製 小型 内径30cm	急傾斜地用 自在一体型 急傾斜地用 (参考図)	H	1:20 (A3版印刷時)	2011年度



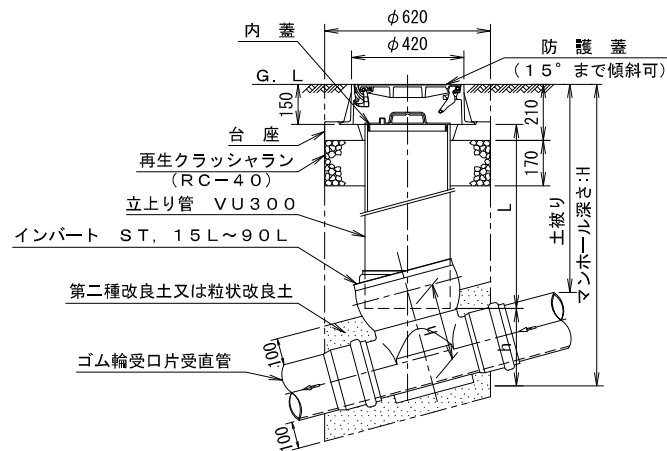
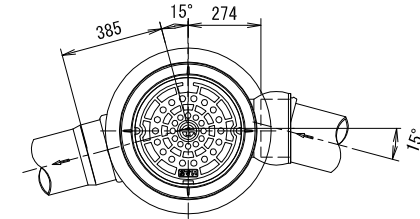
## 急傾斜地用

(0%~26.8%)

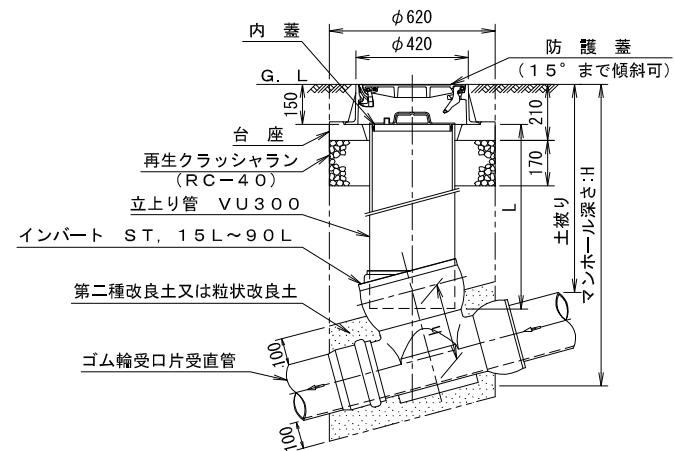


## 自在一体型急傾斜地用

(0%~26.8%)



※ インバートには、ストレート、15°、30°、45°、60°、75°、90° 曲がりがある。

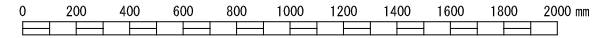


※ インバートには、ストレート、15°、30°、45°、60°、75°、90° 曲がりがある。

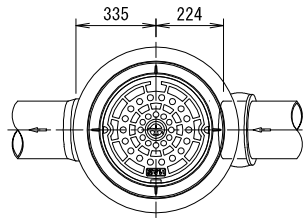
# 硬質塩化ビニル製小型マンホール（内径30cm）構造図

（参考図）

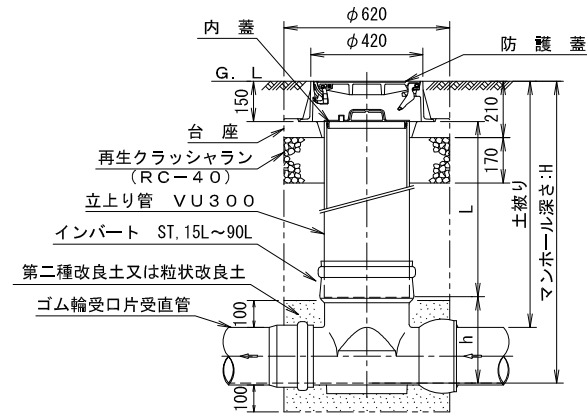
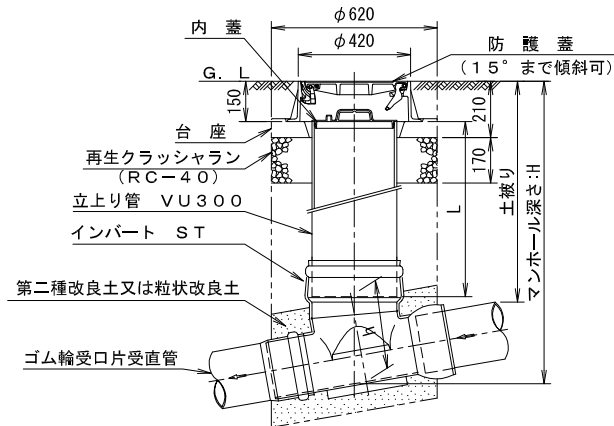
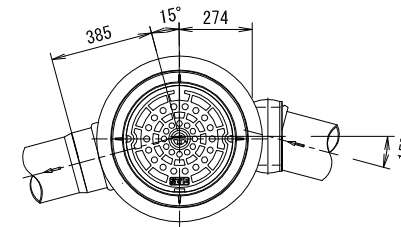
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	塩ビ製 小型 内径30cm	自在一体型 急傾斜地用 自在一体型 (参考図)	H	1:20 (A3版印刷時)	2011年度



自在一体型急傾斜地用  
(268‰～577‰)



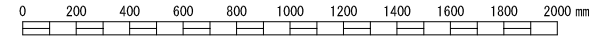
自在一体型



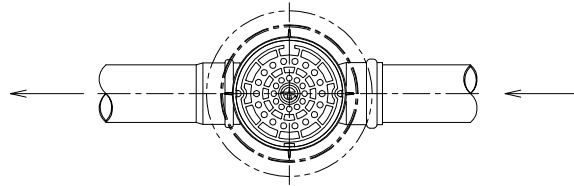
※ インバートには、ストレート、15°、30°、45°、60°、75°、90° 曲がりがある。

硬質塩化ビニル製小型マンホール（内径30cm）構造図  
（JSWAS K-9-2008）

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	塩ビ製 小型 内径30cm	フリーインバート くら型 マンホール継手	H	1:20 (A3版印刷時)	2011年度



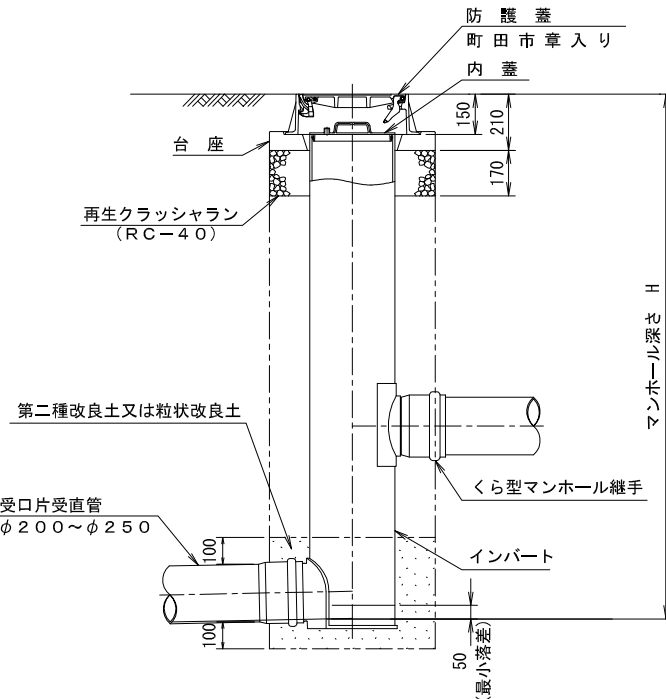
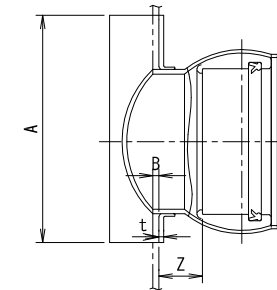
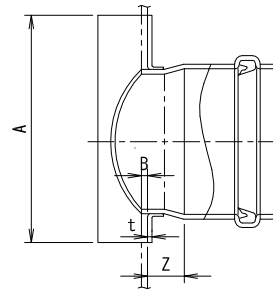
フリーインバート



硬質塩化ビニル製小型マンホール用くら型マンホール継手（略号KDRS）  
（JSWAS K-1-2010）

ゴム輪受口

自在型ゴム輪受口



寸法表

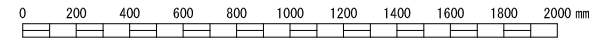
（単位：mm）

呼び径	Z （最小）	t （最小）	A （最小）	B （最大）	R
150-300	35	4	300	9.2	159
200-300					
250-300					

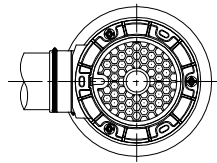
- 注1. Rは、標準値を示す。
- 2. ゴム輪受口は本管形とする。
- 3. 呼び径は「本管呼び径－マンホール径」とする。

円形小型レジンマンホール（内径30cm）構造図  
 （JSWAS K-10-2008）（参考図）

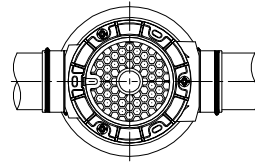
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	小型レジン 内径30cm	起 中 曲 （参 考 図）		1:20 （A3版印刷時）	2011年度



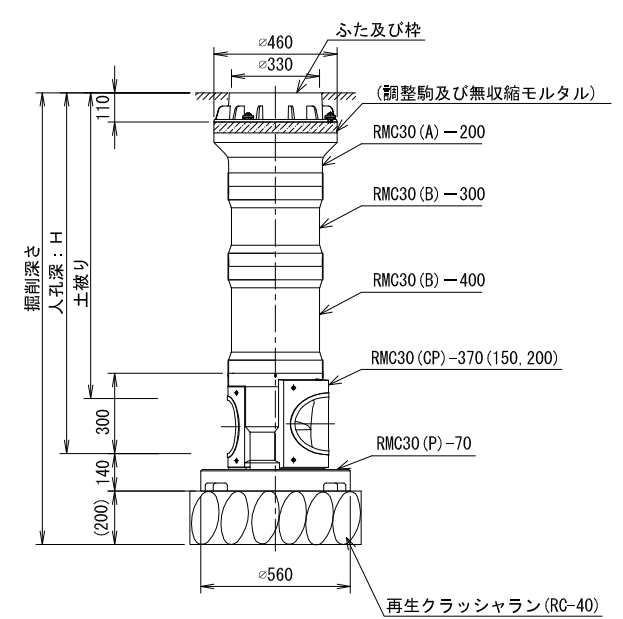
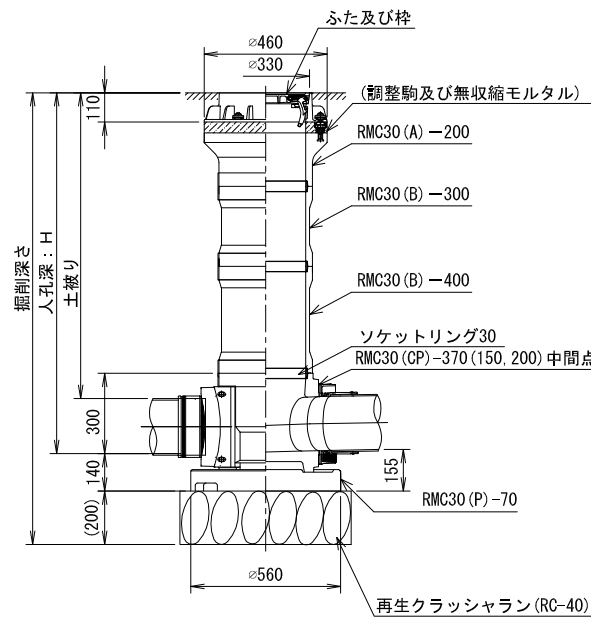
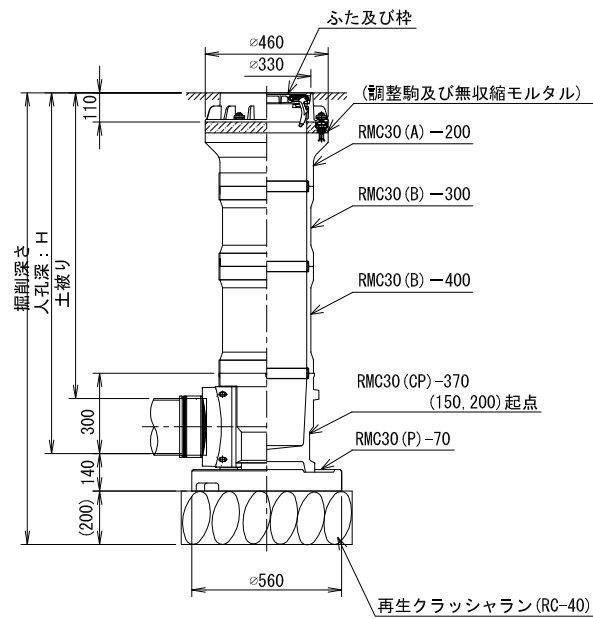
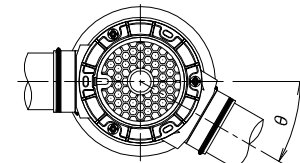
起点



中間点

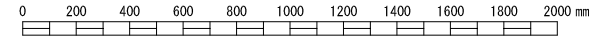


曲点

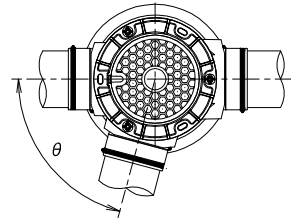


円形小型レジンマンホール（内径30cm）構造図  
 （JSWAS K-10-2008）（参考図）

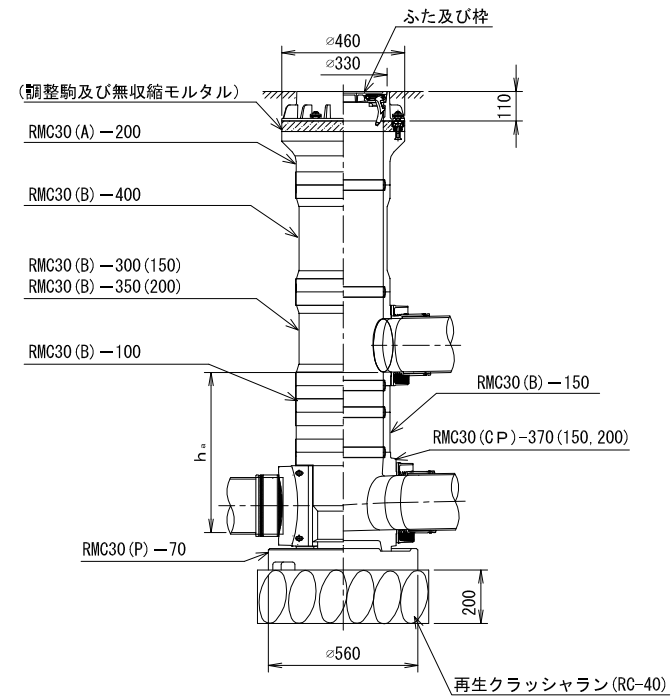
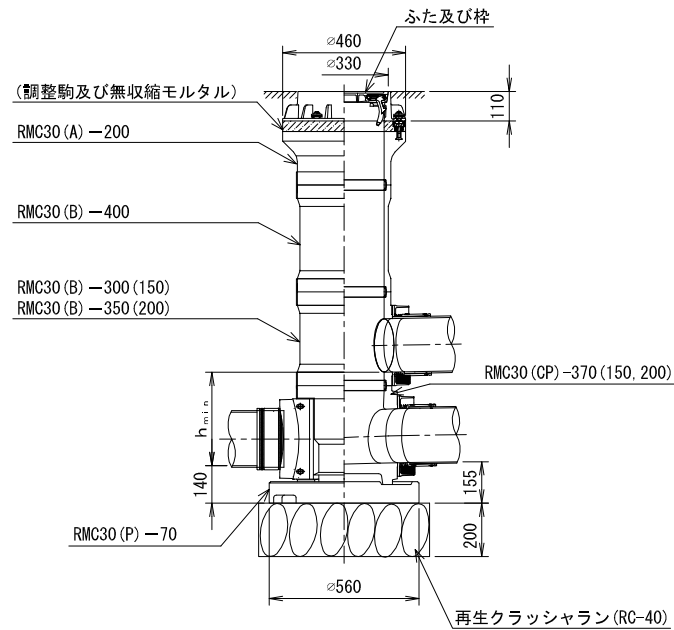
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	小型レジン 内径30cm	落差工 （参考図）		1:20 （A3版印刷時）	2011年度



落差工

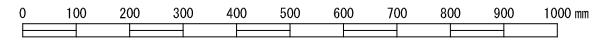


断面図

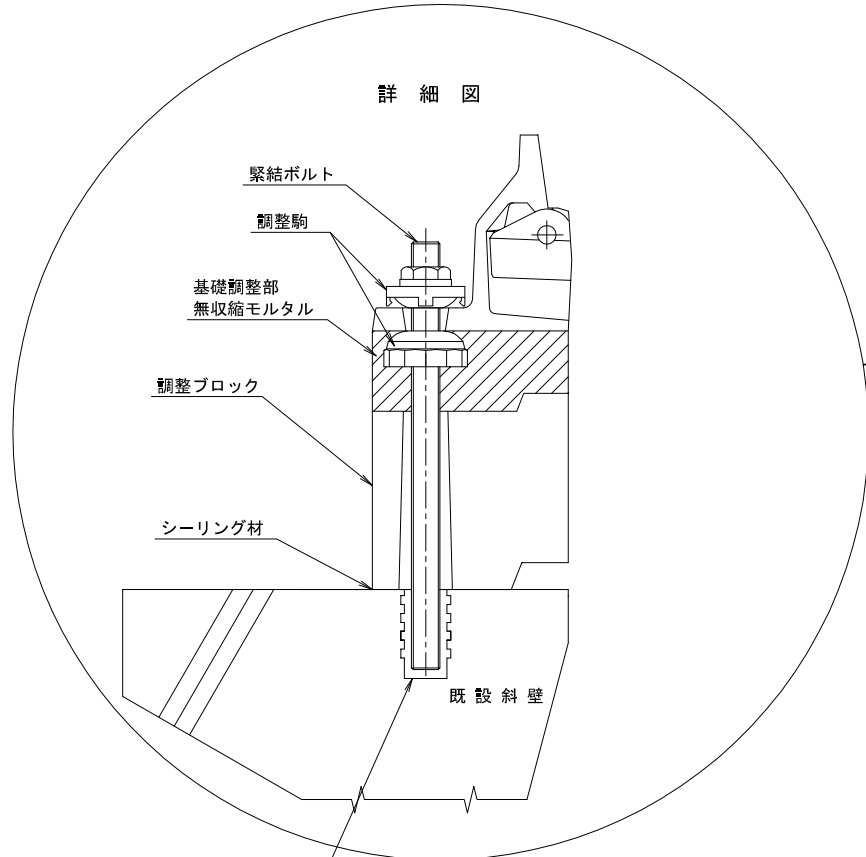


# マンホール鉄蓋据付詳細図（既設現場打マンホール用）

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	鉄蓋据付	既設現場打マンホール用		1:10 (A3版印刷時)	2011年度

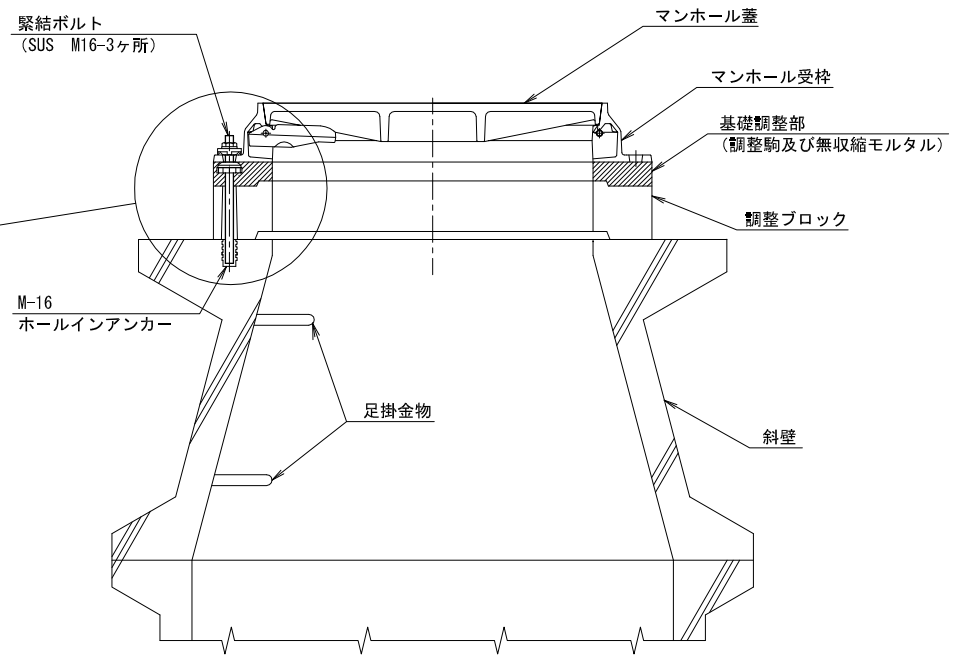


詳細図



埋込ナット（M-16ホールインアンカー）  
を使用する

位置図



材料表

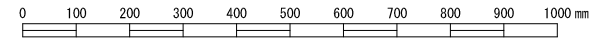
緊結ボルトナット	組	1 ※
調整駒	組	1 ※
無収縮モルタル	m <sup>3</sup>	設計指針参照
型枠（無収縮モルタル用）	箇所	1

※調整ブロックの施工は、上下逆に設置すること。

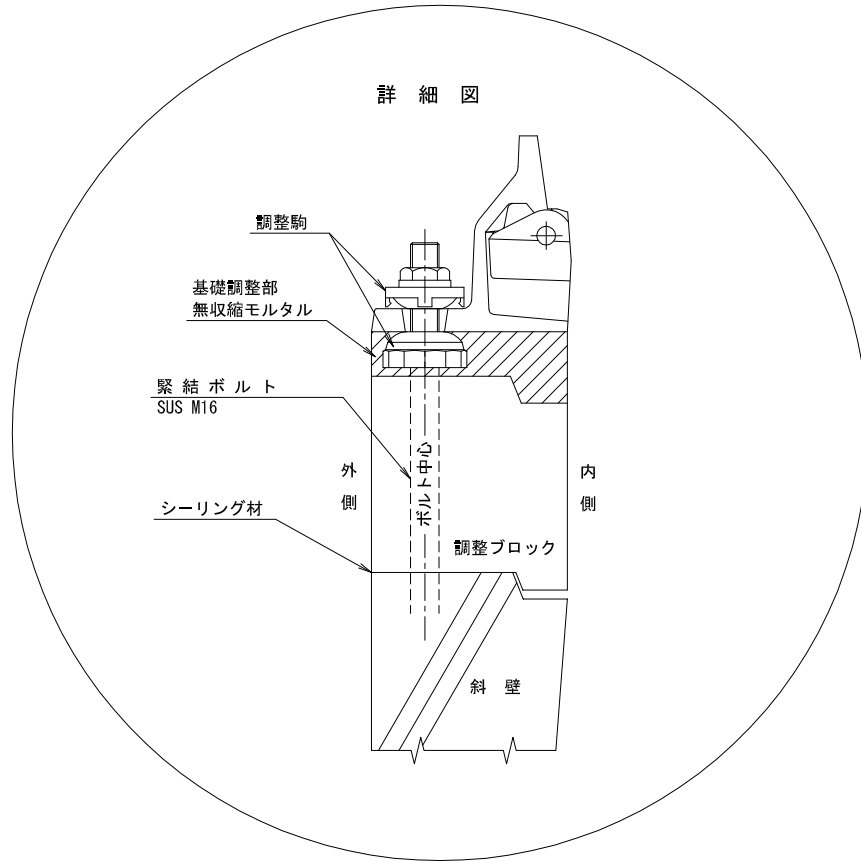
※1組は3箇所とする。

# マンホール鉄蓋据付詳細図（組立マンホール用）

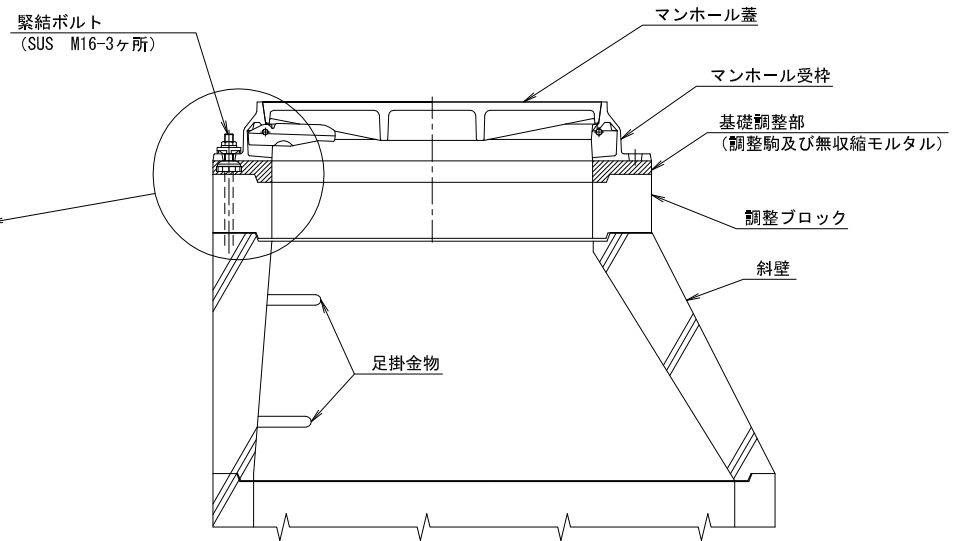
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	鉄蓋据付	組立 マンホール用		1:10 (A3版印刷時)	2011年度



詳細図



位置図



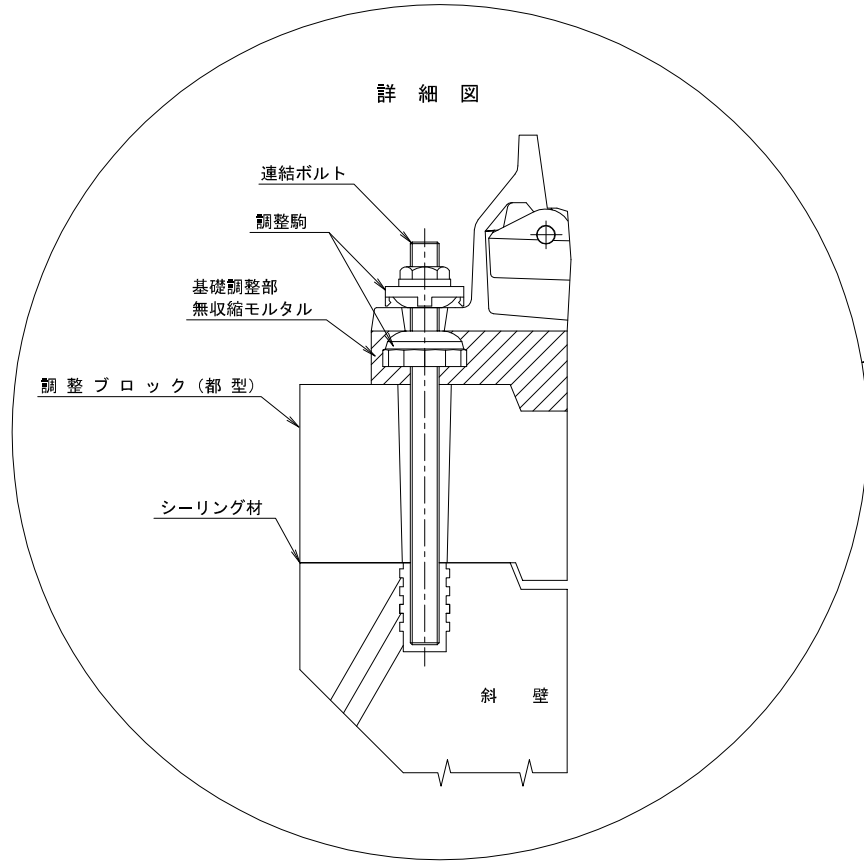
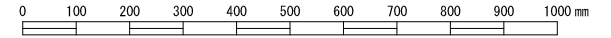
材料表

緊結ボルトナット	組	1 ※
調整駒	組	1 ※
無収縮モルタル	m <sup>3</sup>	設計指針参照
型枠（無収縮モルタル用）	箇所	1

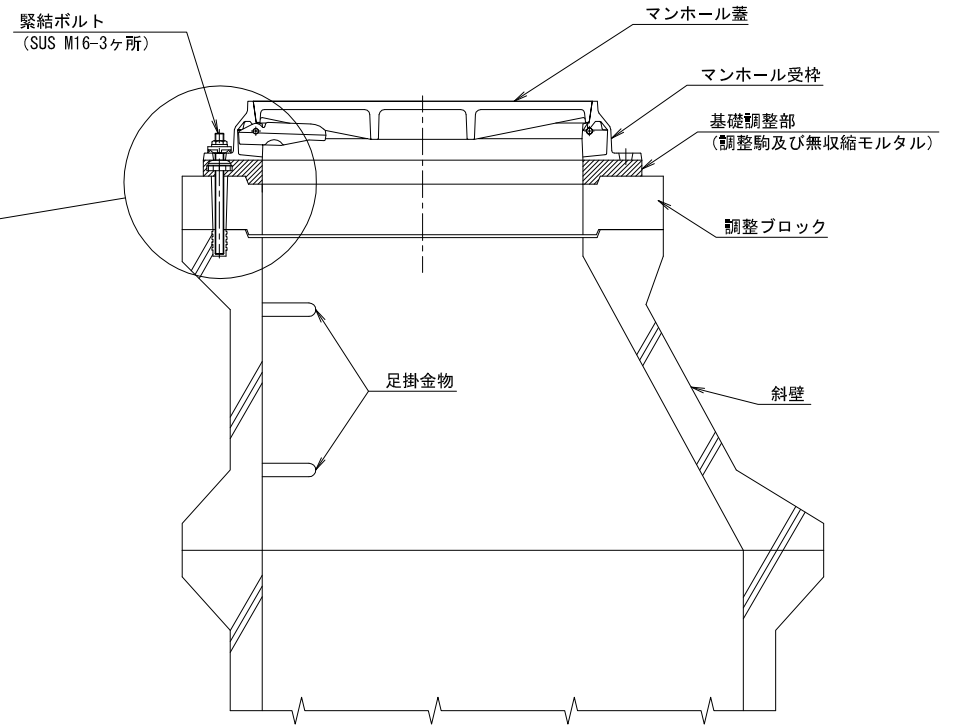
※ 1組は3箇所とする。

# マンホール鉄蓋据付詳細図（現場打マンホール用）

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	鉄蓋据付	現場打マンホール用		1:10 (A3版印刷時)	2011年度



位置図



材料表

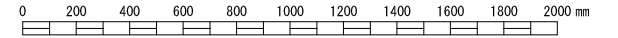
緊結ボルトナット	組	1 ※
調整駒	組	1 ※
無収縮モルタル	m <sup>3</sup>	設計指針参照
型枠（無収縮モルタル用）	箇所	1

※ 1組は3箇所とする。

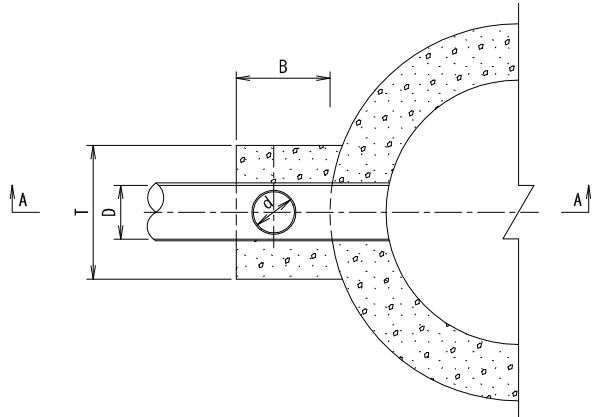


## 外副管 (M形) 取付構造図 (現場打マンホール用)

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	副管	外副管形 M 現場打マンホール用	H	1:20 (A3版印刷時)	2011年度



平面図



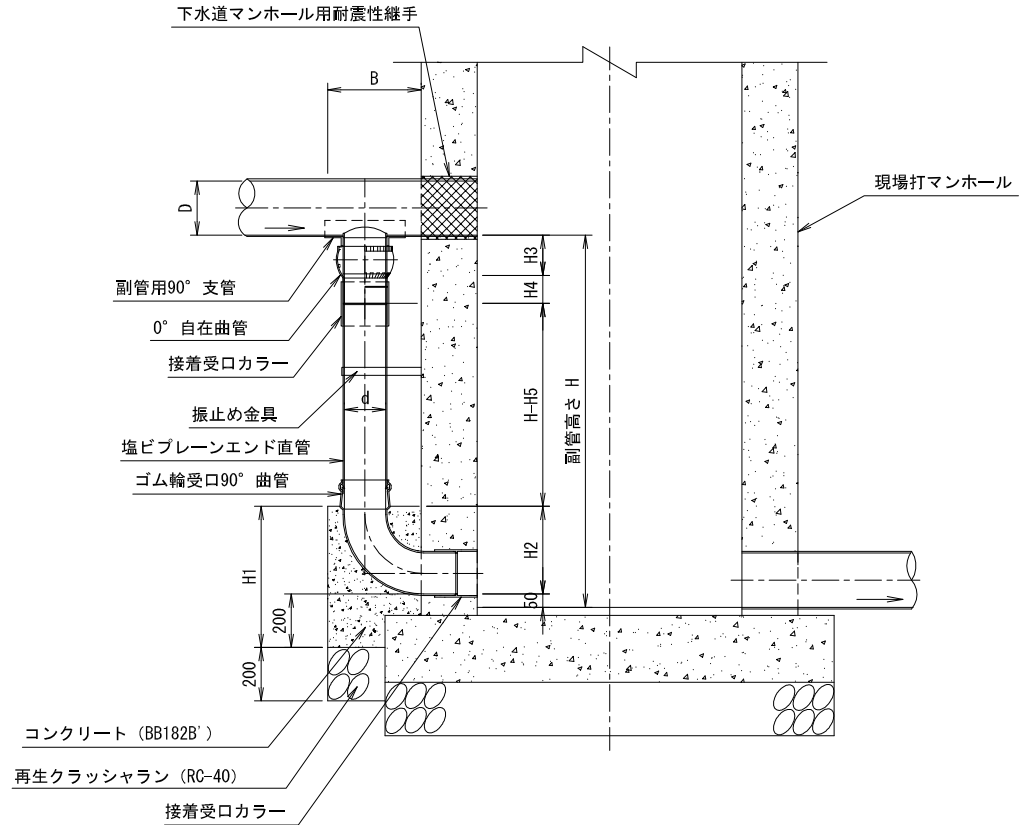
材料表

(1箇所当り)

材料	150			200		
	形状・寸法	単位	数量	形状・寸法	単位	数量
副管用90°支管	φ150	個	1	φ200	個	1
ゴム輪受口0°自在曲管	φ150-0°	個	1	φ200-0°	個	1
接着受口カラー	φ150	個	2	φ200	個	2
ブレンエンド直管	VUφ150	m	H-H5	VUφ200	m	H-H5
ゴム輪受口90°曲管	φ150	個	1	φ200	個	1
振止め金具	φ150用	個	注1	φ200用	個	注1
コンクリート	BB182B'	m <sup>3</sup>	0.09	BB182B'	m <sup>3</sup>	0.09
再生クラッシュラン	RC-40	m <sup>3</sup>	0.18	RC-40	m <sup>3</sup>	0.20
型枠	小型	m <sup>2</sup>	0.88	小型	m <sup>2</sup>	0.81

- 注 1. 振り止め金具は直管長が1m以下であれば1個とし、それ以上は1mピッチとする。  
 2. 管防護コンクリートは陸上打設とする。  
 3. 副管高が1.6mを超える場合は、点検用足掛け金物(W=150)を設置する。

A-A断面図



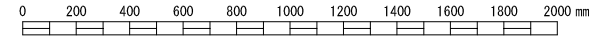
寸法表

(単位: mm)

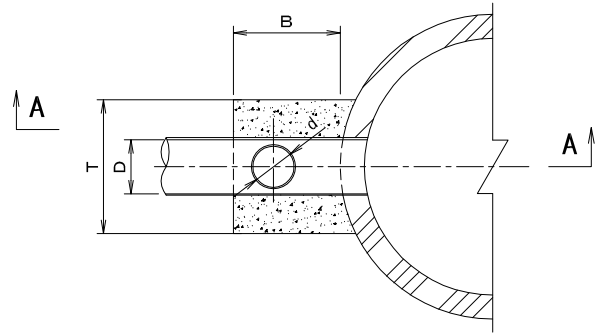
流入管 D	副管 d	B	T	H1	H2	H3	H4	H5 (H2+H3+H4+50)
200	150	350	500	530	327	140	110	627
250~600	200	400	500	470	267	160	125	602

## 外副管 (M形) 取付構造図 (組立マンホール用)

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	副管	外副管 M形 組立マンホール用	H	1:20 (A3版印刷時)	2011年度



平面図



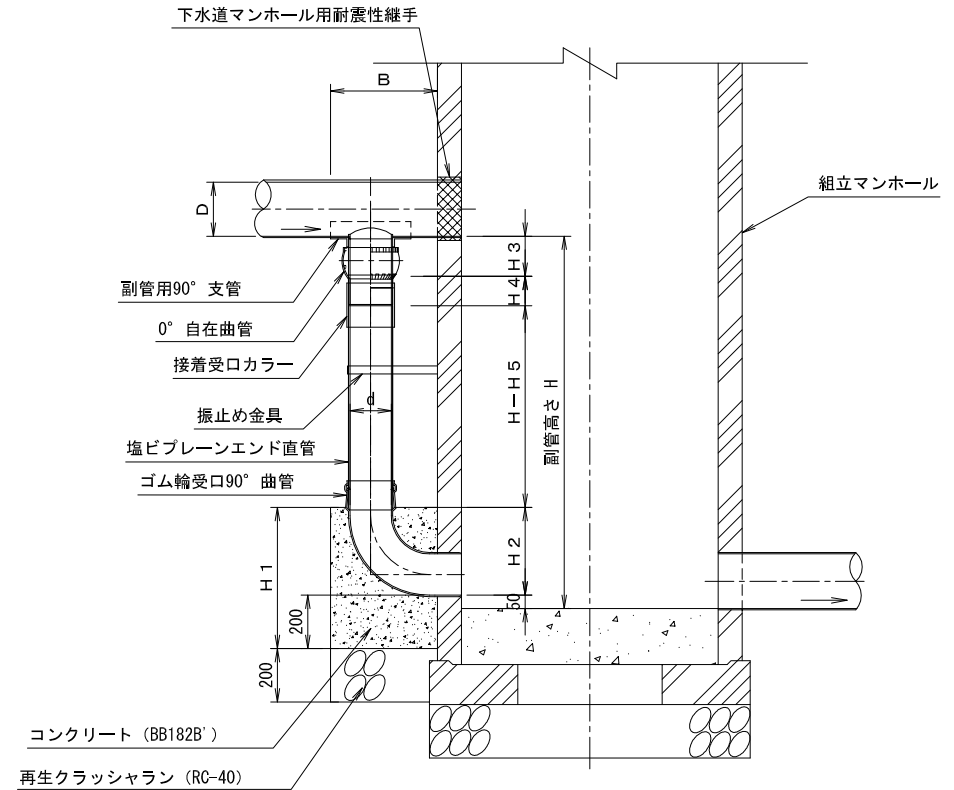
材料表

(1箇所当り)

材料	副管径 150		副管径 200			
	形状・寸法	単位	数量	形状・寸法	単位	数量
副管用90°支管	φ150	個	1	φ200	個	1
ゴム輪受口0°自在曲管	φ150-0°	個	1	φ200-0°	個	1
接着受口カラー	φ150	個	1	φ200	個	1
プレーンエンド直管	VUφ150	m	H-H5	VUφ200	m	H-H5
ゴム輪受口90°曲管	φ150	個	1	φ200	個	1
振止め金具	φ150用	個	注1	φ200用	個	注1
コンクリート	BB182B'	m <sup>3</sup>	0.10	BB182B'	m <sup>3</sup>	0.10
再生クラッシュラン	RC-40	m <sup>3</sup>	0.20	RC-40	m <sup>3</sup>	0.23
型枠	小型	m <sup>2</sup>	0.93	小型	m <sup>2</sup>	0.86

- 注1. 振止め金具は直管長が1m以下であれば1個とし、それ以上は1mピッチとする。  
 2. 管防護コンクリートは陸上打設とする。  
 3. 副管高が1.6mを超える場合は、点検用足掛け金物(W=150)を設置する。

A-A断面図



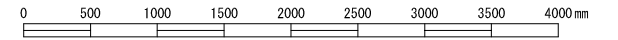
寸法表

(単位: mm)

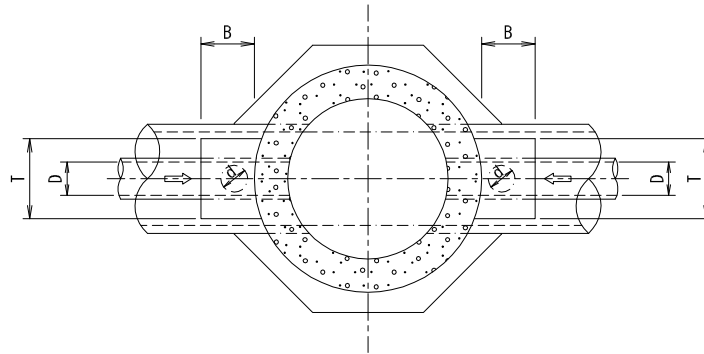
流入管 D	副管 d	B	T	H1	H2	H3	H4	H5 (H2+H3+H4+50)
200	150	400	500	530	327	140	110	627
250~600	200	450	500	470	267	160	125	602

# 特殊外副管取付構造図

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	副管	特殊外副管	H	1:40 (A3版印刷時)	2011年度



平面図

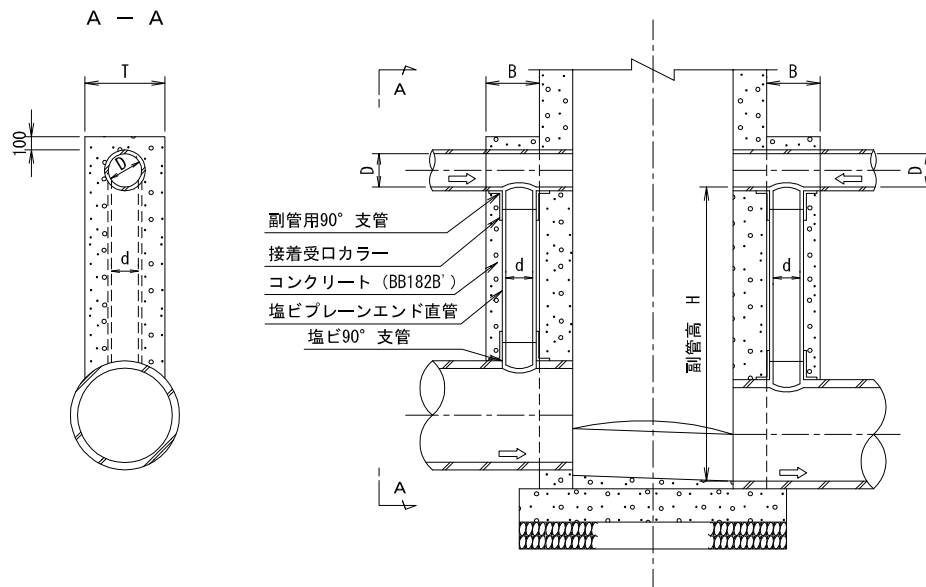


寸法表

(単位:mm)

流入管管種	D	d	B	T
硬質塩化ビニル管	200	150	350	450
	250~350	200	400	600
鉄筋コンクリート管	250~300	200	400	600
	350~400	200	400	700
	450~600	200	400	900

縦断面図

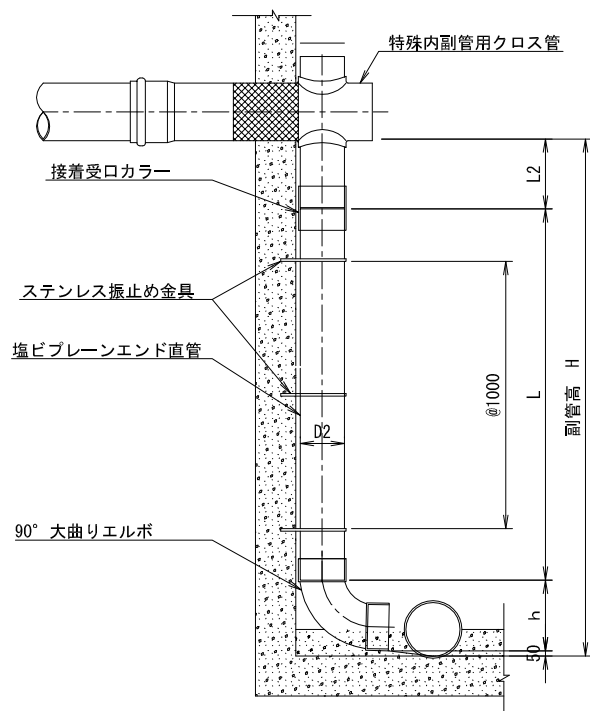
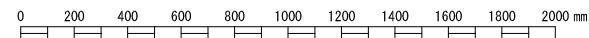


注1. 流入管が鉄筋コンクリート管の場合、コンクリートの巻立高は管中心までとする。

注2. 副管高Hが1.6m以上ある場合、点検用足掛金物 (W=150) を設置する。

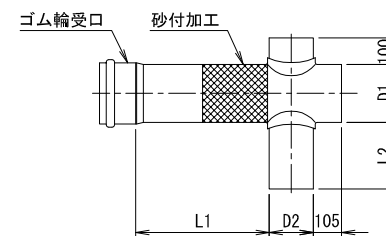
# 内副管（I形）取付構造図 （参考図）

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	副管	内副管形 I (参考図)	H	1:20 (A3版印刷時)	2011年度



※ 下水道マンホール用耐震性継手が、設置できないため使用には注意すること。

特殊内副管用クロス管詳細図



参考寸法表

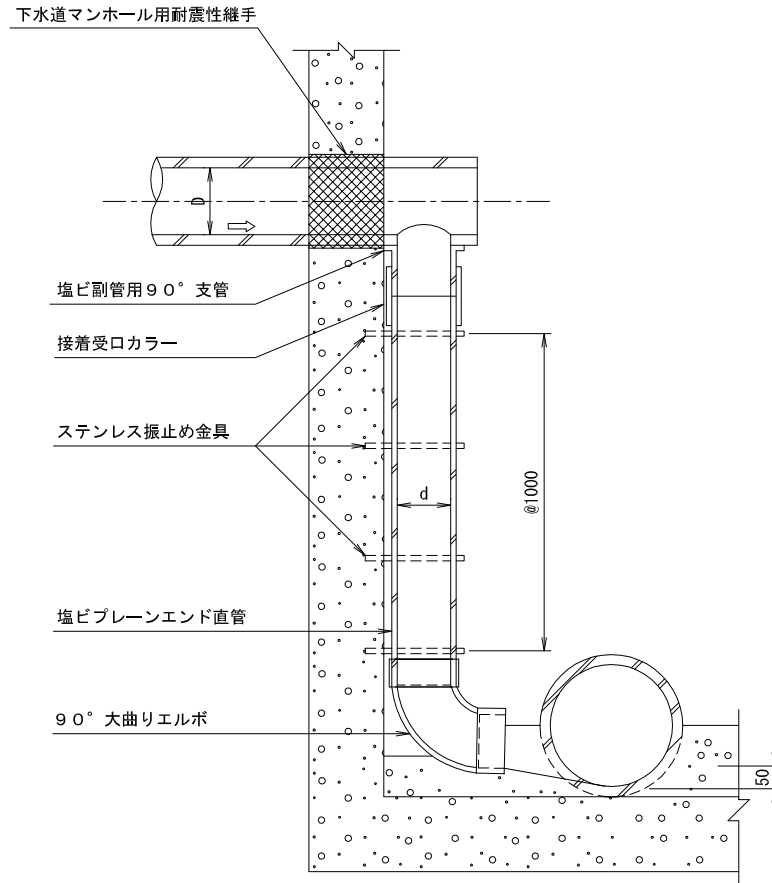
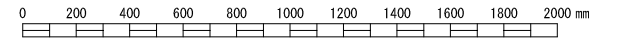
(単位:mm)

呼び径	記号	D1	D2	L1	L2	h	L
250×200		267	216	500	100	300	H-450
300×200		318	216	500	100	300	

- 注 1. 詳細については、承諾を得ること。  
 2. 蓋は、必要に応じ設置する。  
 3. 振れ止め金具は、直管長が、1m以下であれば2個とし、それ以上は、1mピッチとする。

# 内副管（Ⅱ形）取付構造図

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	副管	内副管Ⅱ形	H	1:20 (A3版印刷時)	2011年度



寸法表

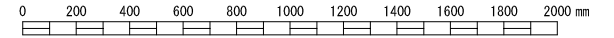
(単位:mm)

D	d
200	150
250~600	200
700~1000	250
1100以上	300

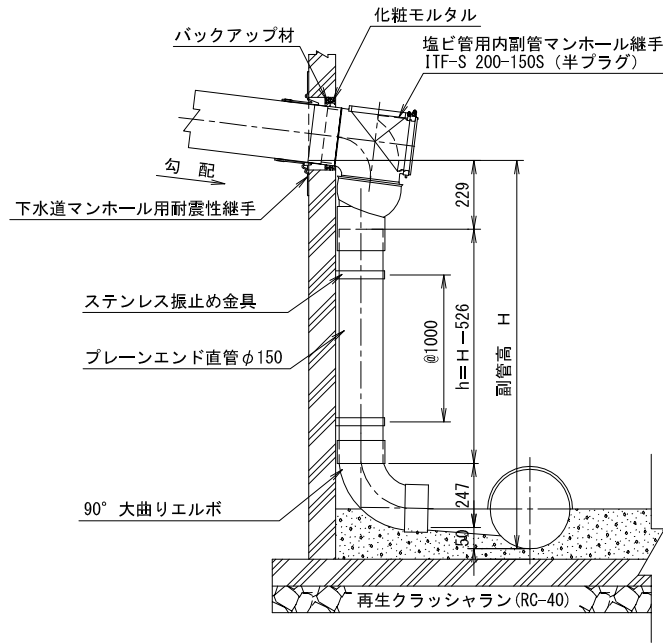
- 注 1. 詳細については、承諾を得ること。
- 注 2. 蓋は、必要に応じ設置する。
- 注 3. 振れ止め金具は、直管長が、1m以下であれば2個とし、それ以上は、1mピッチとする。

# 内副管 (S形・R形) 取付構造図

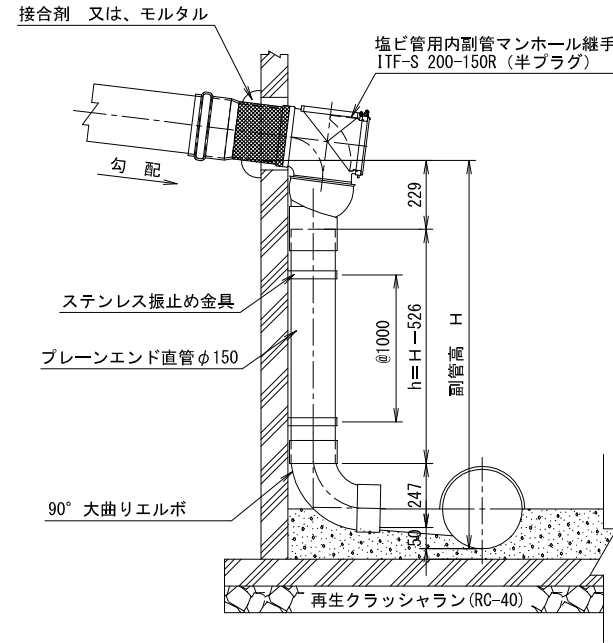
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	副管	内副管 S形 R形	H	1:20 (A3版印刷時)	2011年度



S 形



R 形  
(参考図)

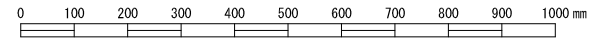


※ 下水道マンホール用耐震性継手が、設置できないため使用には注意すること。

※本管勾配 0%~268%以下の場合

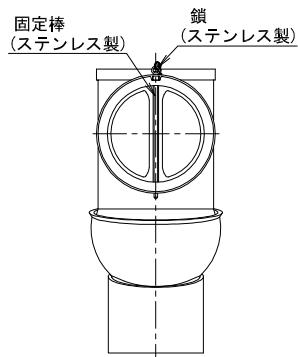
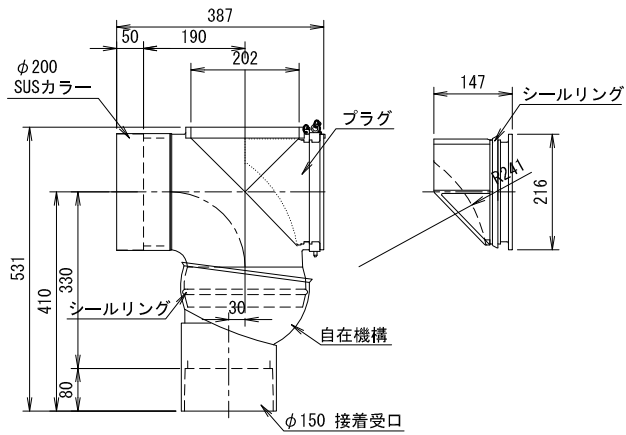
内副管マンホール継手 詳細図  
(参考図)

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	副管	内副管 マンホール継手 S形 R形 (参考図)	呼び径 (200-150)	1:10 (A3版印刷時)	2011年度



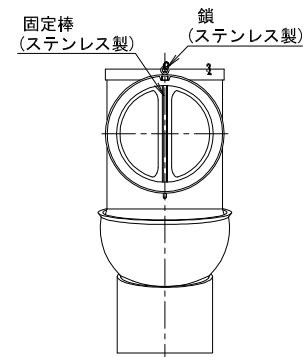
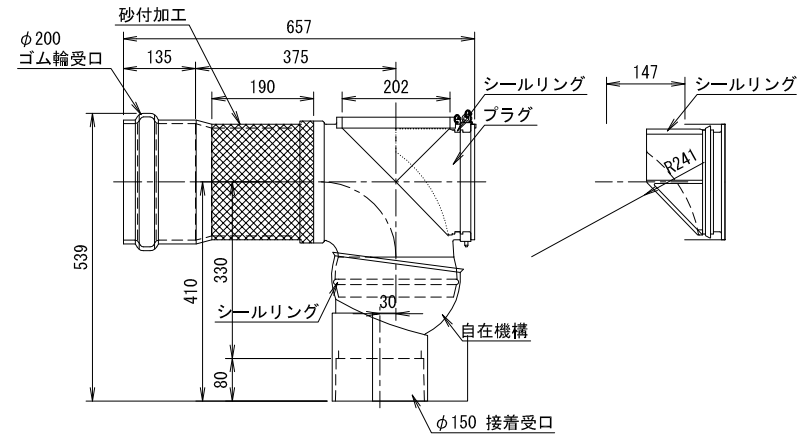
S 形

塩ビ管用内副管マンホール継手  
ITF-S 200-150S (半プラグ)



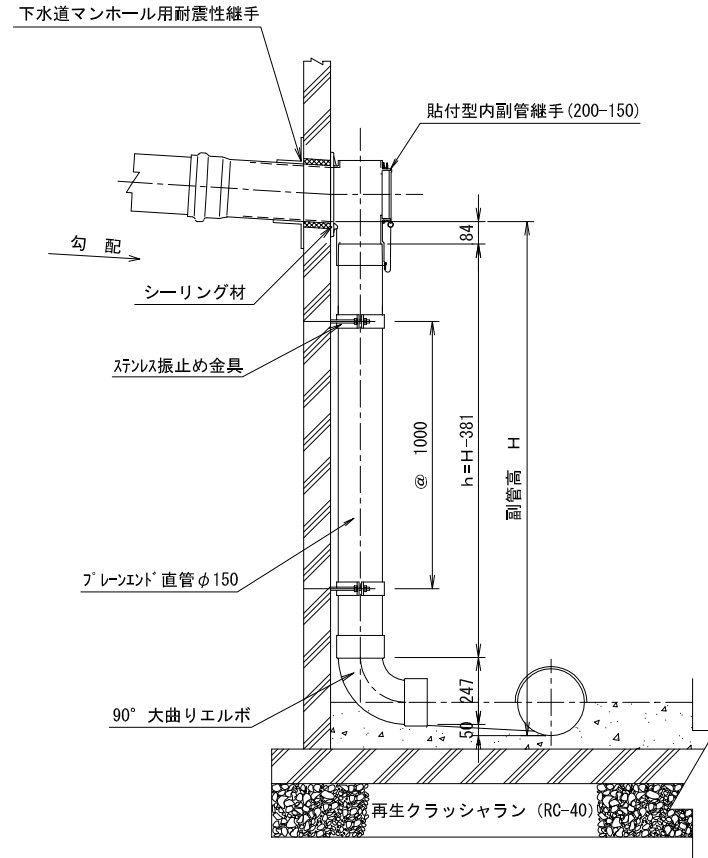
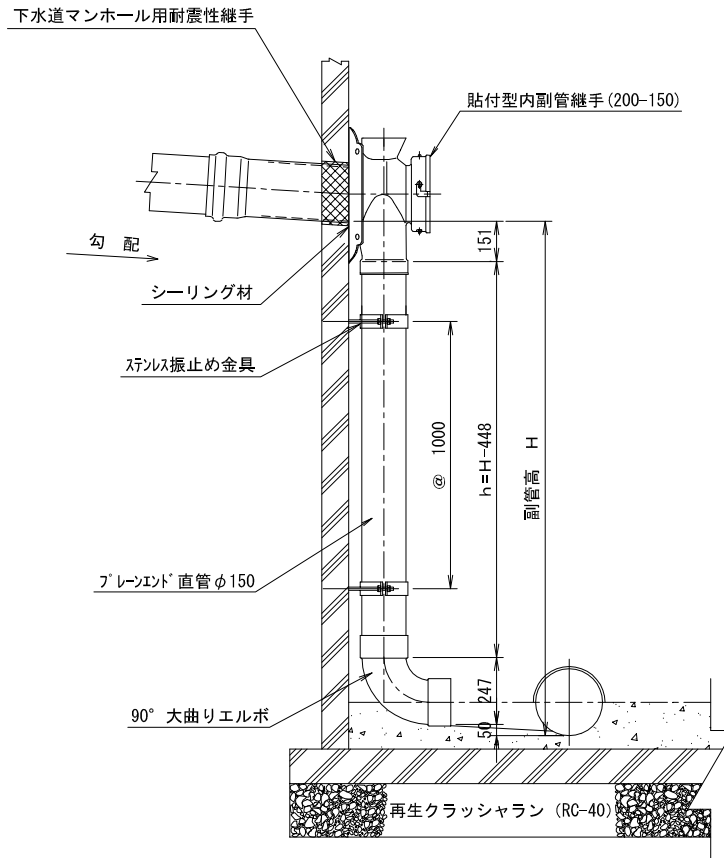
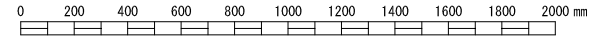
R 形

塩ビ管用内副管マンホール継手  
ITF-R 200-150S (半プラグ)



# 貼付型内副管取付構造図

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	副管	貼付型内副管	H	1:20 (A3版印刷時)	2011年度

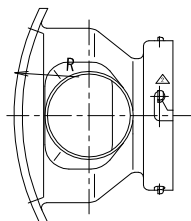
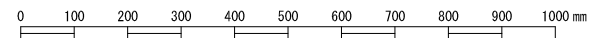




# 貼付型内副管マンホール継手詳細図 (200-150)

(参考図)

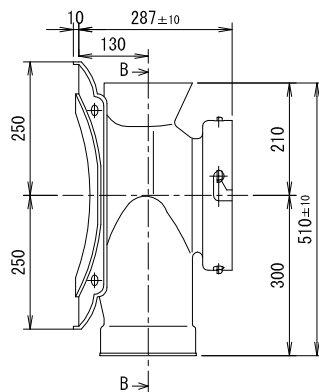
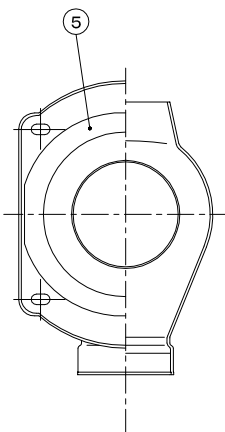
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	副管	貼付型内副管 マンホール継手 (参考図)	種類 (1号用)	1:10 (A3版印刷時)	2011年度



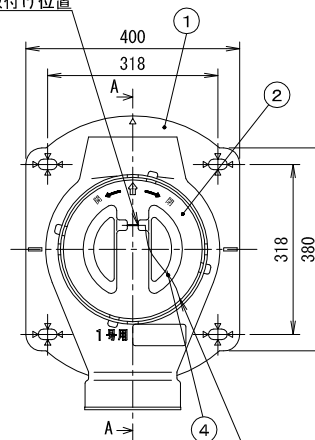
単位：mm

種類	R
1号用	443
2号用	593

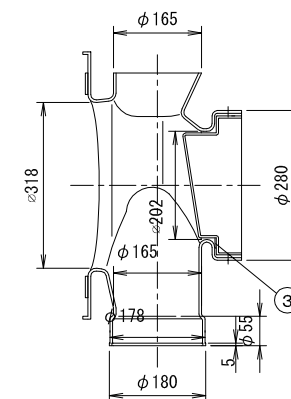
B-B断面



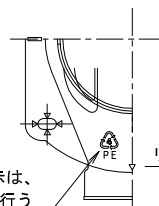
7/8側フェーン取付け位置



A-A断面



本体側チェーン取付け位置  
(水平方向より45°下がった位置)



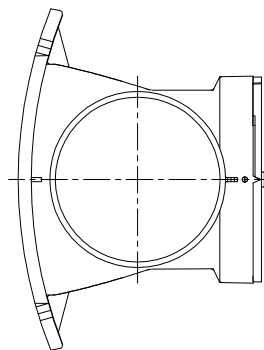
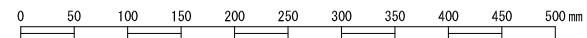
リサイクル材料表示は、  
副管裏のフランジ面に行う

リサイクル材料表示位置

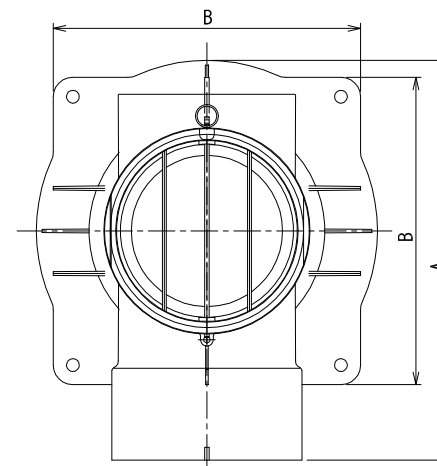
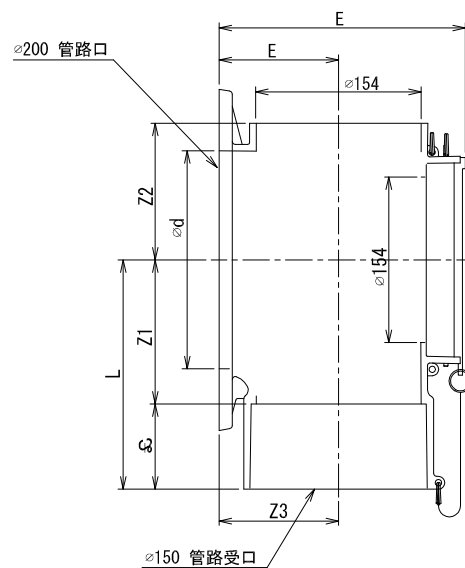
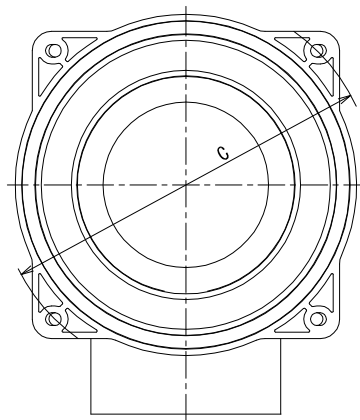
番号	部品名
①	本体
②	フタ
③	フタ用ゴム
④	インシュロック+チェーン
⑤	フランジ面用パッキン

貼付型内副管マンホール継手詳細図 (200-150)  
(参考図)

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	副管	貼付型内副管 マンホール継手 (参考図)	種類 (1号用)	1:5 (A3版印刷時)	2011年度

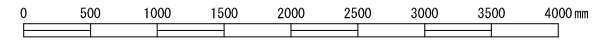


種類	記号	A	B	d	L	φ	Z1	Z2	Z3	C	D	E
1号用		427	325	256	241	80	161	154	112	407	230	112
2号用		431	333	256	241	80	161	154	125	411	243	125



# 副管等点検用足掛金物取付構造図

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	副管	副管等点検用足掛金物	H	1:40 (A3版印刷時)	2011年度



タイプ A

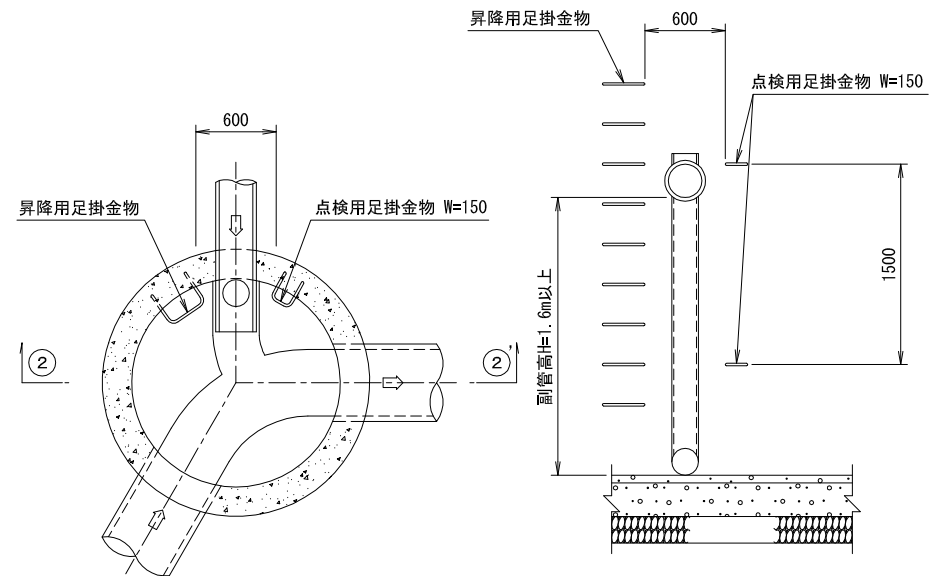
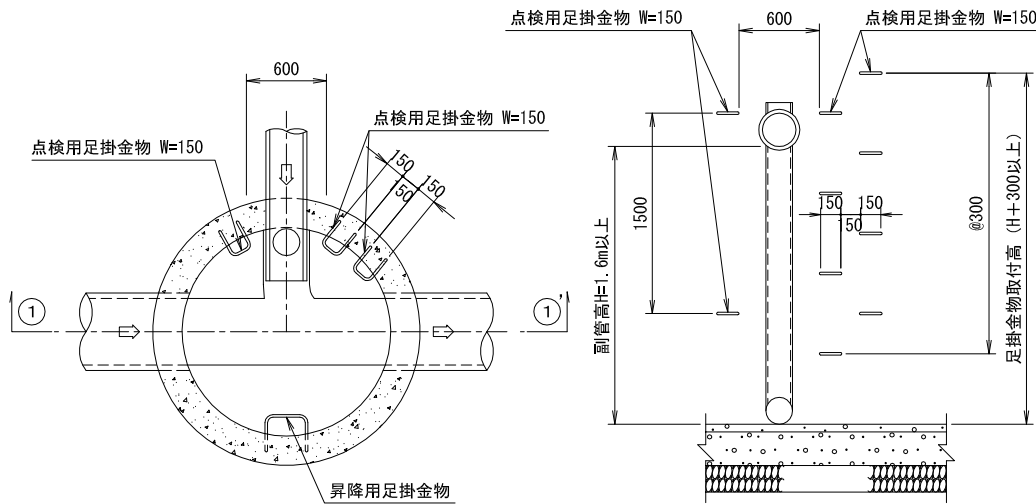
タイプ B

平面図

① - ①' 断面図

平面図

② - ②' 断面図

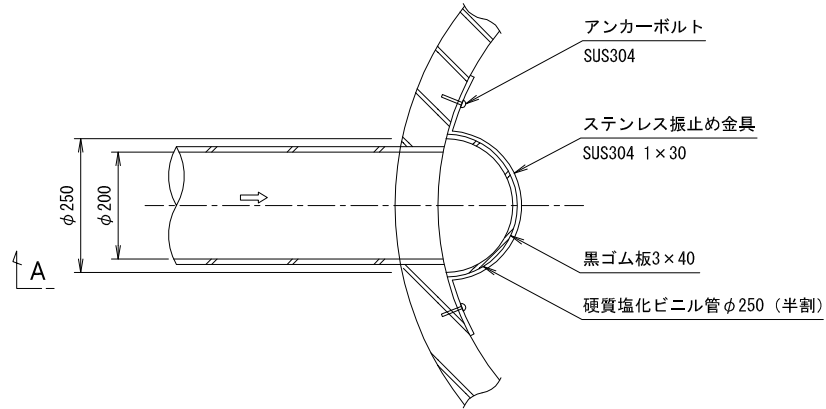


注 昇降用足掛金物が兼用できない場合。

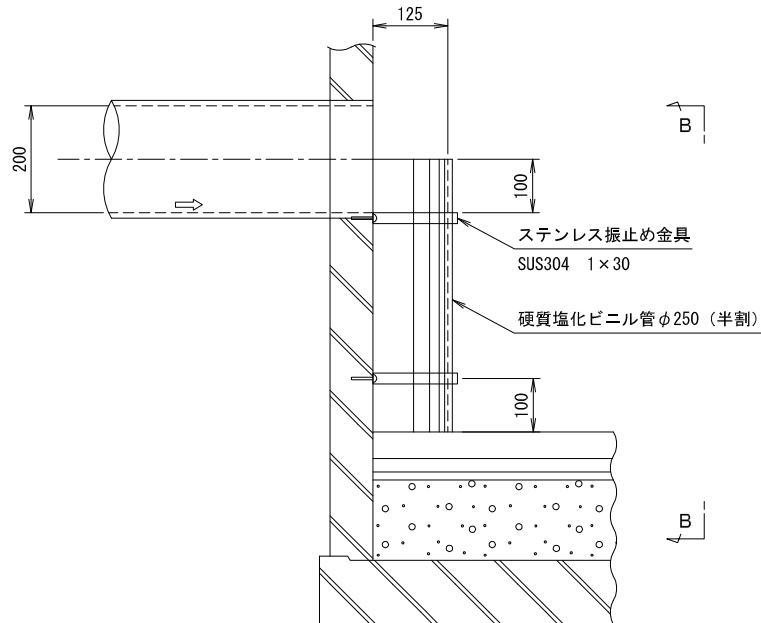
注 昇降用足掛金物が兼用できる場合。

# 飛散防止取付構造図

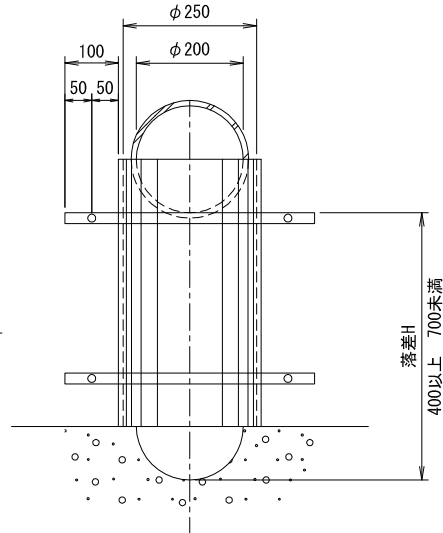
平面図



A-A 断面図

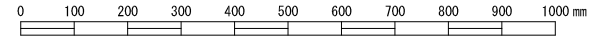


B-B 断面図



- 注1. 流入管が200mmで、落差が400mm以上700mm未満の場合である。
- 注2. 流入管径の1ランク上の硬質塩化ビニル管(半割)を使用する。

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	副管	飛散防止	H	1:10 (A3版印刷時)	2011年度

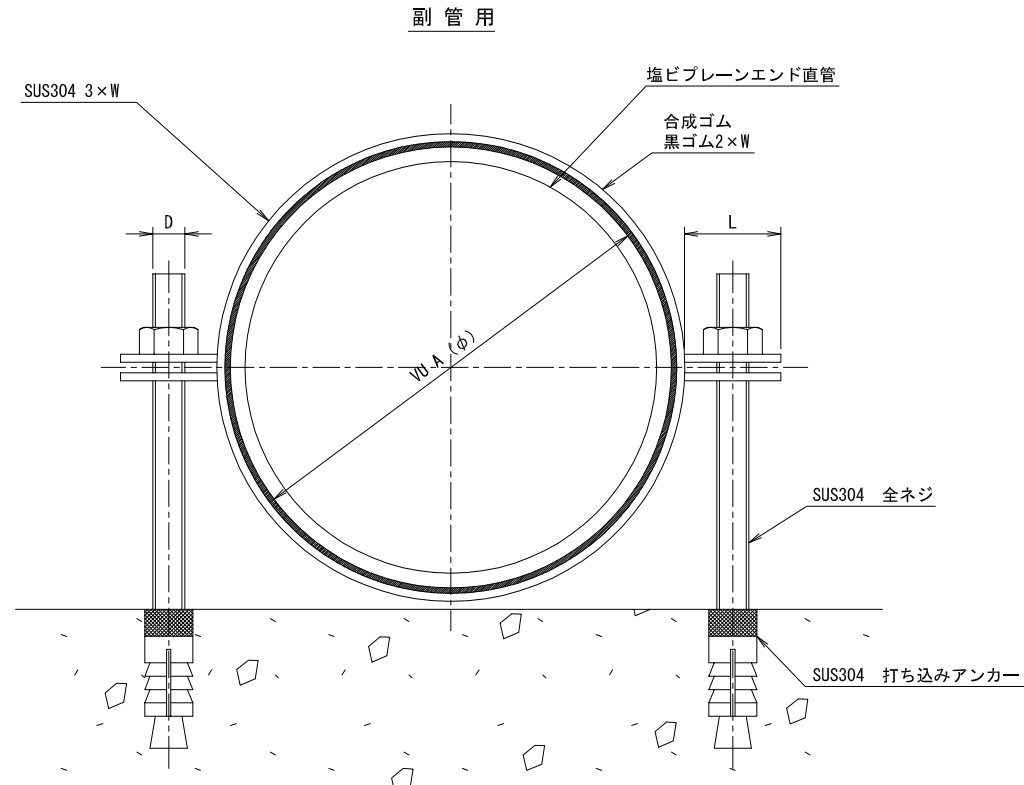
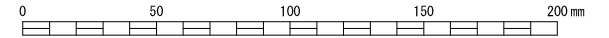


材料表

(1箇所当り)			
硬質塩化ビニル管 φ250(半割) (m)	黒ゴム板 (m)	ステンレス 振止め金具 (個)	アンカーボルト (本)
落差H	0.84	2	4

# 振止め金具取付構造図

工 種	種 別	形 状	変 数	縮 尺	作成年度
マンホール	副 管	振止め金具	A (150)	1:2 (A3版印刷時)	2011年度



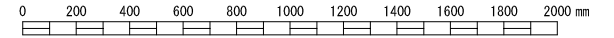
参 考 寸 法 表 (単位: mm)

A	(φ)	W	L	D	アンカー全ネジ
150	165	32	35	12	3/8
200	216	32	35	12	3/8
250	267	50	50	14	1/2
300	318	50	50	14	1/2

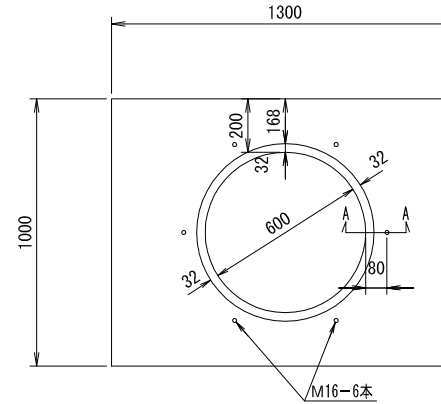
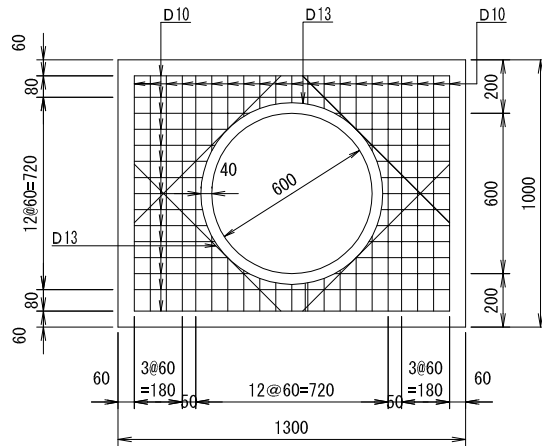
- 注 1. 詳細については、承諾を得ること。  
 注 2. 振れ止め金具は、直管長が、1m以下であれば2個とし、それ以外は、1mピッチとする。

# 特 1 号マンホール用床版詳細図 都型（下水道局仕様）

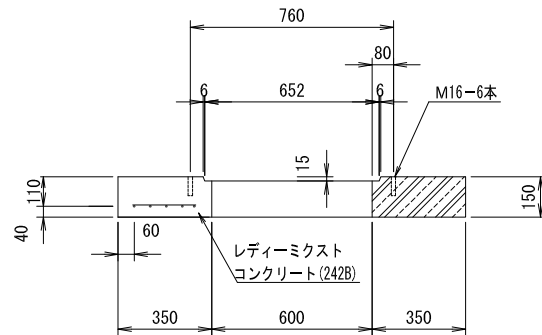
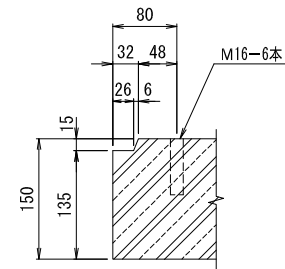
工 種	種 別	形 状	変 数	縮 尺	作成年度
マンホール	床 版	特 1 号		1:20 (A3版印刷時)	2011年度



内法 90 cm × 60 cm



A-A断面

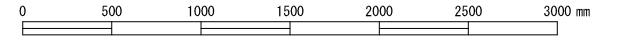


- 注
1. 使用鉄筋は異形棒鋼 JIS G3112 SD295A とする。
  2. 鉄筋の被りは主鉄筋の中心とする。
  3. 埋込みナットの形状は、都型人孔側塊（埋込ナット付）仕様書、参考図-4を標準とする。
  4. 埋込みナットの引張り強度は11.77KN/本以上とする。
  5. 埋込みナットの本数は6本/個とする。

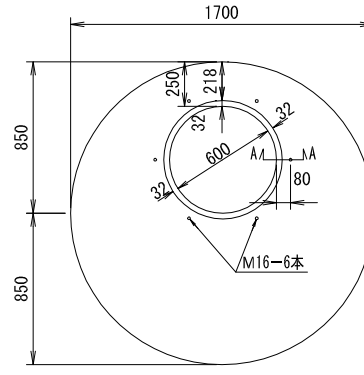
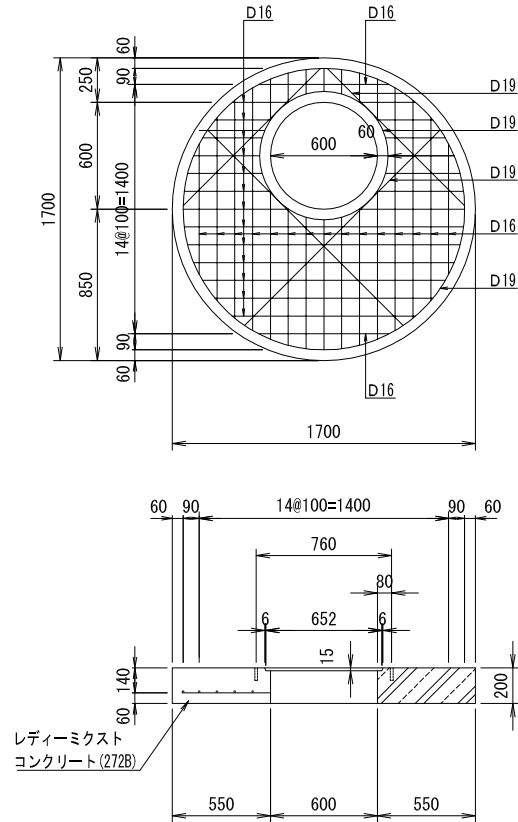
## 2号マンホール用床版詳細図

都型(下水道局仕様)

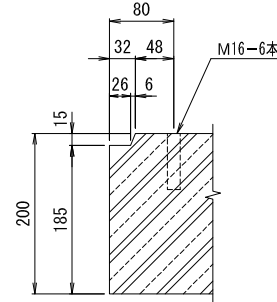
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	床版	2号		1:30 (A3版印刷時)	2011年度



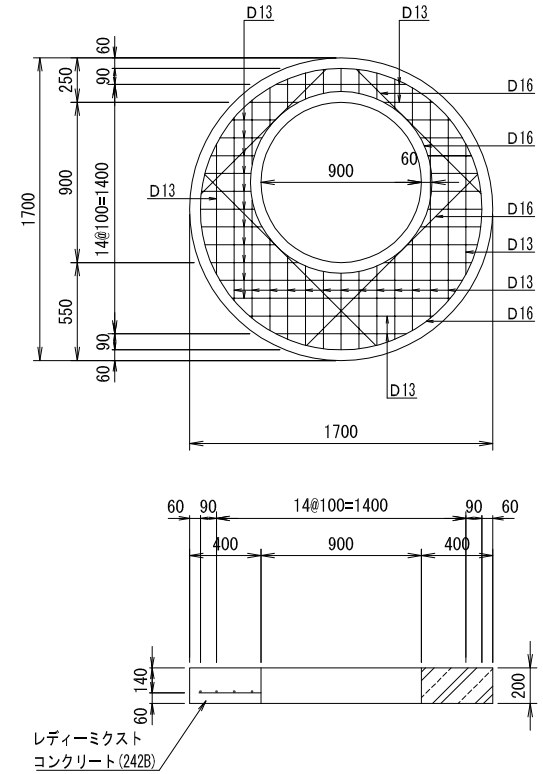
内径 120 cm (丙) 用



A-A断面



内径 120 cm (丁) 用

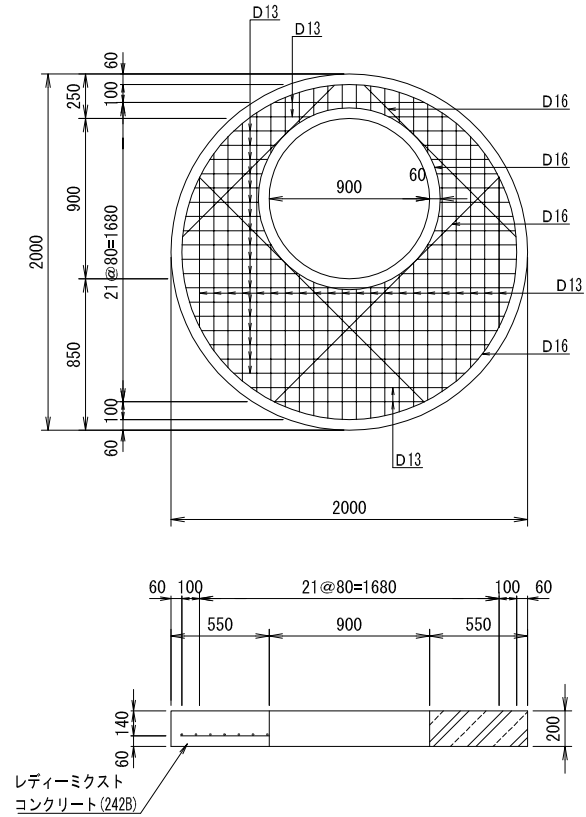


- 注 1. 使用鉄筋は異形棒鋼 JIS G3112 SD295A とする。  
2. 鉄筋の被りは主鉄筋の中心とする。

- 注 1. 使用鉄筋は異形棒鋼 JIS G3112 SD295A とする。  
2. 鉄筋の被りは主鉄筋の中心とする。  
3. 埋込みナットの形状は、都型人孔側塊(埋込ナット付)仕様書、参考図-4を標準とする。  
4. 埋込みナットの引張り強度は11.77KN/本以上とする。  
5. 埋込みナットの本数は6本/個とする。

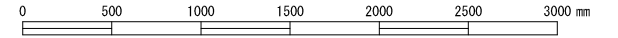
### 3号マンホール用床版詳細図 都型(下水道局仕様)

内径 150 cm 用



- 注 1. 使用鉄筋は異形棒鋼 JIS G3112 SD295A とする。  
2. 鉄筋の被りは主鉄筋の中心とする。

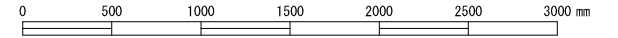
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	床版	3号		1:30 (A3版印刷時)	2011年度



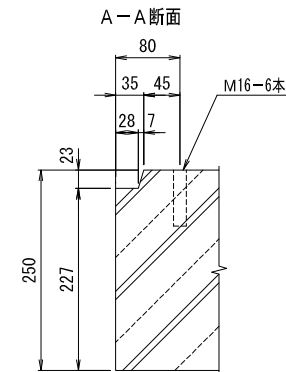
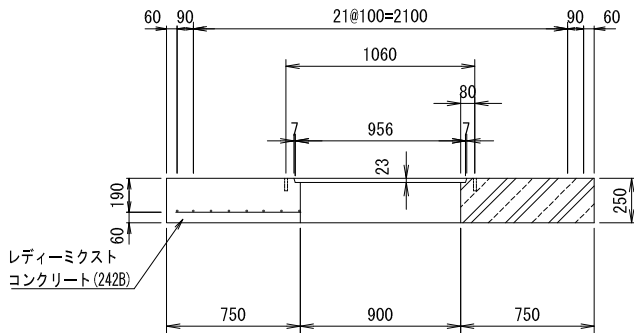
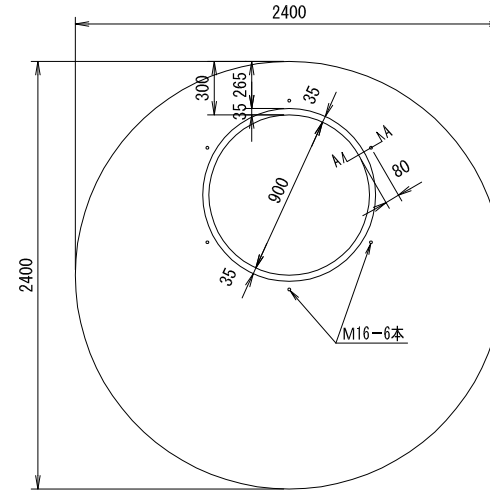
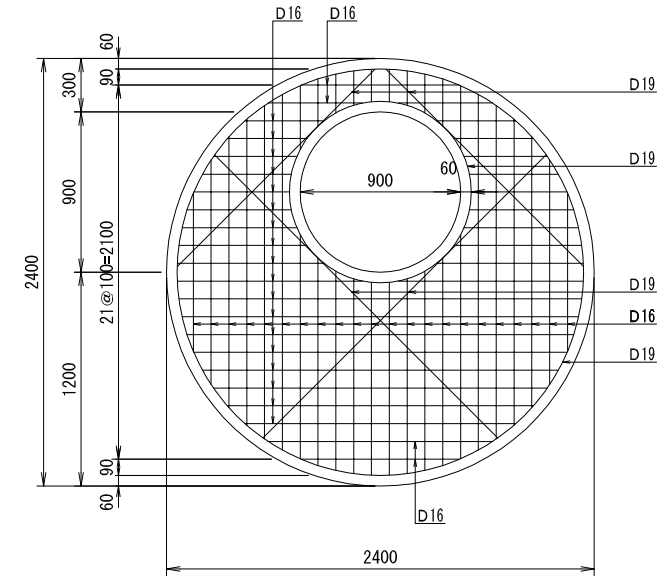


# 4号マンホール用床版詳細図 都型(下水道局仕様)

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	床版	4号		1:30 (A3版印刷時)	2011年度



内径 180 cm 用

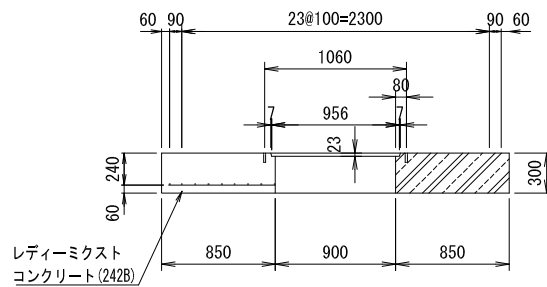
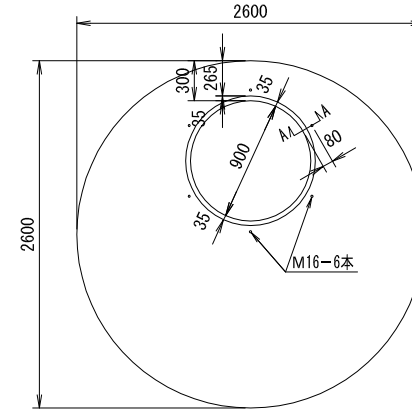
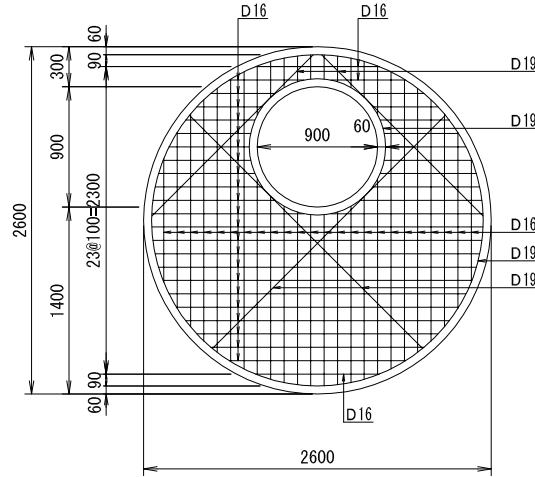
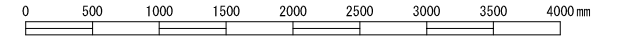


- 注
1. 使用鉄筋は異形棒鋼 JIS G3112 SD295A とする。
  2. 鉄筋の被りは主鉄筋の中心とする。
  3. 埋込みナットの形状は、都型人孔側塊(埋込みナット付)仕様書、参考図-4を標準とする。
  4. 埋込みナットの引張り強度は11.77KN/本以上とする。
  5. 埋込みナットの本数は6本/個とする。

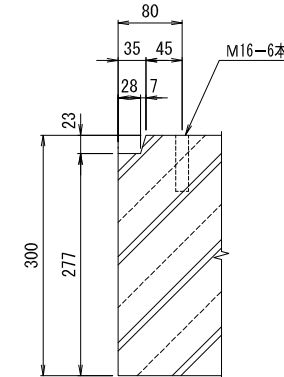
# 5号マンホール用床版詳細図 都型(下水道局仕様)

内径 200 cm 用

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	床版	5号		1:40 (A3版印刷時)	2011年度



A-A断面

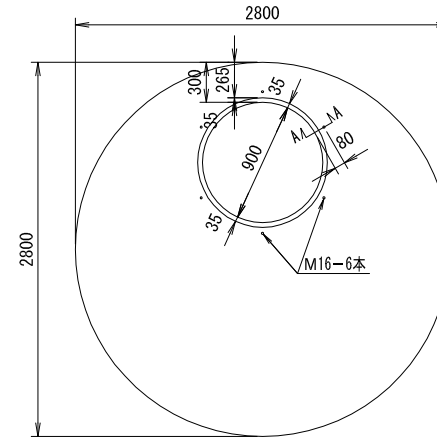
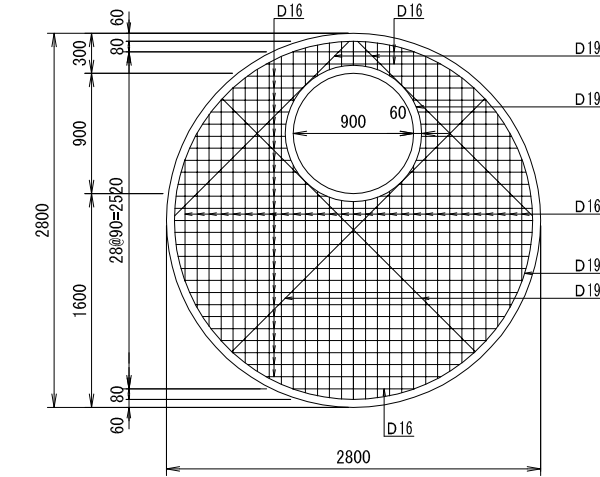


- 注
1. 使用鉄筋は異形棒鋼 JIS G3112 SD295A とする。
  2. 鉄筋の被りは主鉄筋の中心とする。
  3. 埋込みナットの形状は、都型人孔側塊（埋込ナット付）仕様書、参考図-4を標準とする。
  4. 埋込みナットの引張り強度は11.77KN/本以上とする。
  5. 埋込みナットの本数は6本/個とする。

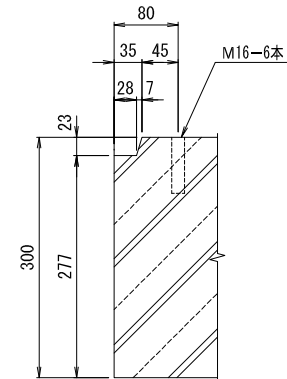
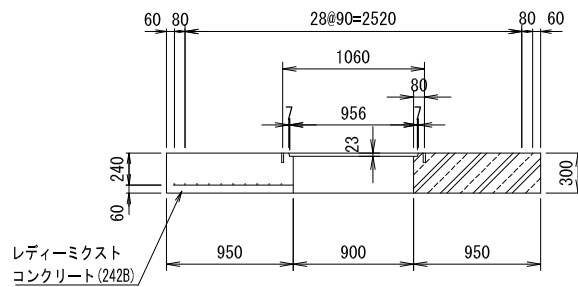
# 6号マンホール用床版詳細図 都型(下水道局仕様)

内径 220 cm 用

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	床版	6号		1:40 (A3版印刷時)	2011年度



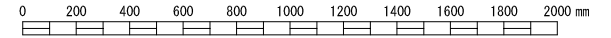
A-A断面



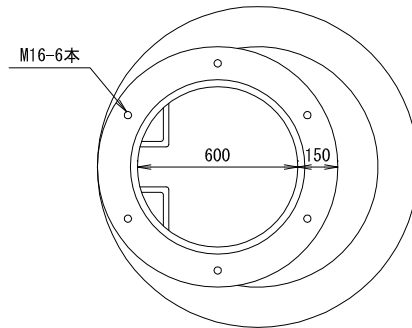
- 注
1. 使用鉄筋は異形棒鋼 JIS G3112 SD295A とする。
  2. 鉄筋の被りは主鉄筋の中心とする。
  3. 埋込みナットの形状は、都型人孔側塊（埋込ナット付）仕様書、参考図-4を標準とする。
  4. 埋込みナットの引張り強度は11.77KN/本以上とする。
  5. 埋込みナットの本数は6本/個とする。

マンホール側塊（片斜壁、直壁）詳細図  
都型（下水道局使用）

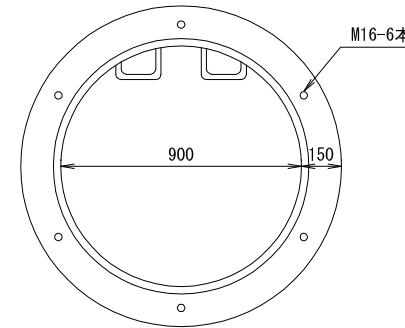
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	側塊類	片斜壁 直壁		1:20 (A3版印刷時)	2011年度



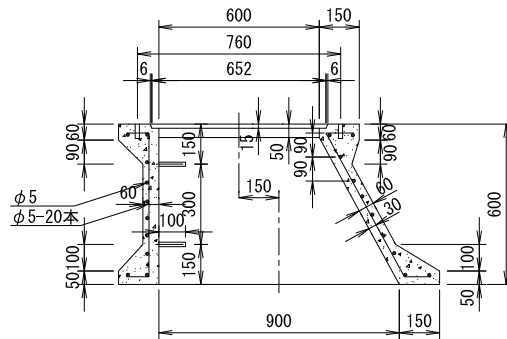
片斜壁  
平面図



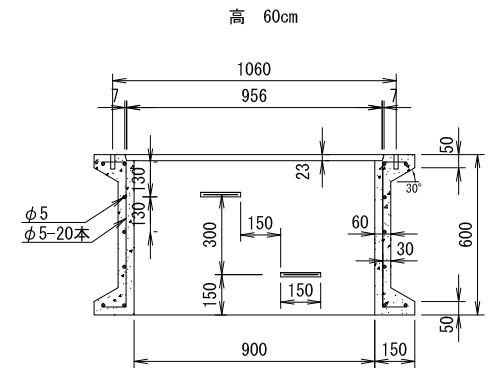
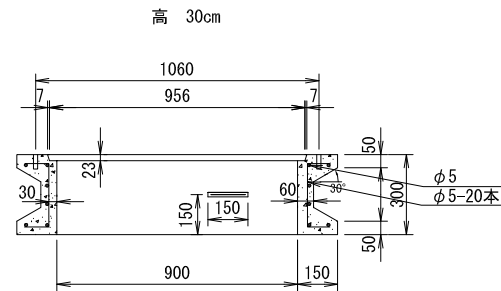
直壁  
平面図



縦断面図



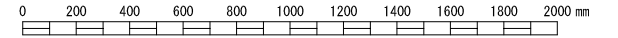
縦断面図



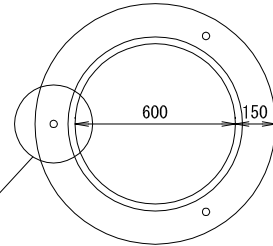
- 注 1. 埋込ナットの形状は、都型人孔側塊（埋込ナット付）仕様書、参考図-4を標準とする。
2. 埋込ナットの引張り強度は11.77KN/本以上とする。
3. 埋込ナットの本数は6本個とする。
4. 使用鉄線はJIS G 3532に規定する普通鉄線とする。

# マンホール調整ブロック詳細図 都型(下水道局使用)

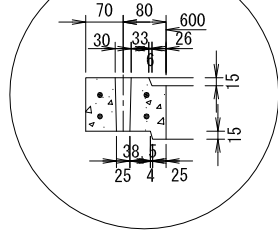
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	側塊類	調整ブロック		1:20 (A3版印刷時)	2011年度



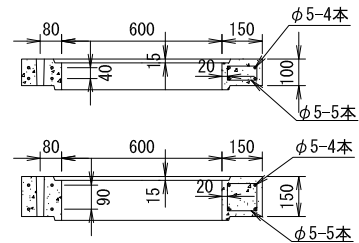
平面図 (内径60cm)



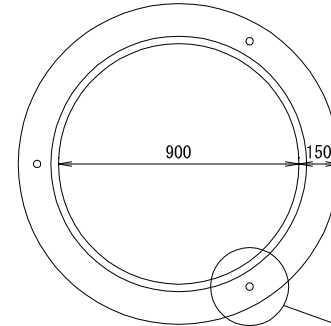
断面図



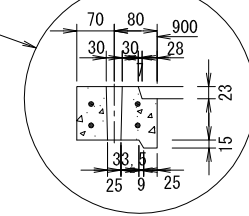
縦断面図



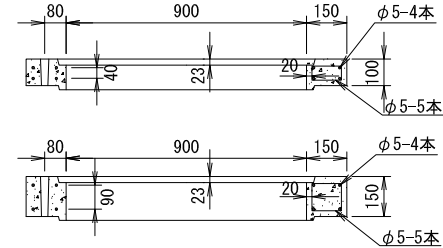
平面図 (内径90cm)



断面図



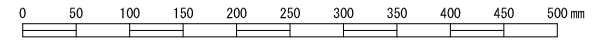
縦断面図



- 注1. 調整ブロックの両断面の形状及び寸法許容差は、組立マンホールの寸法及び寸法許容差による。  
 注2. 組立円形人孔に使用する調整ブロックは、日本下水道協会(JSWAS A-11)によることができる。

# 足掛金物（防錆被覆）詳細図 (JIS・G3507-2 (SWCH12R))

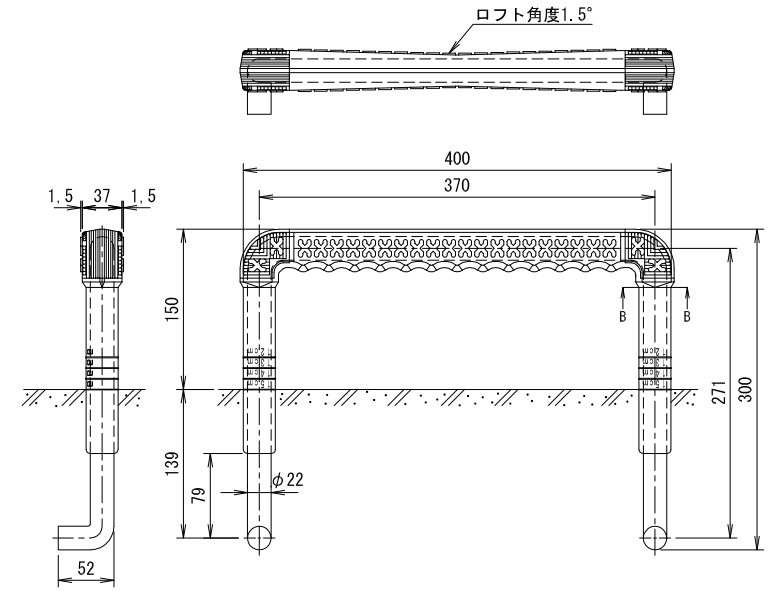
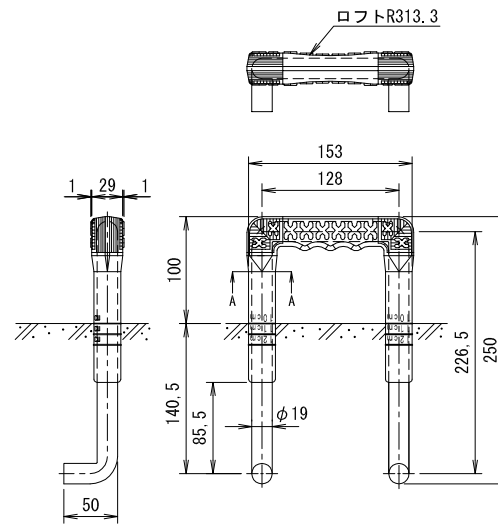
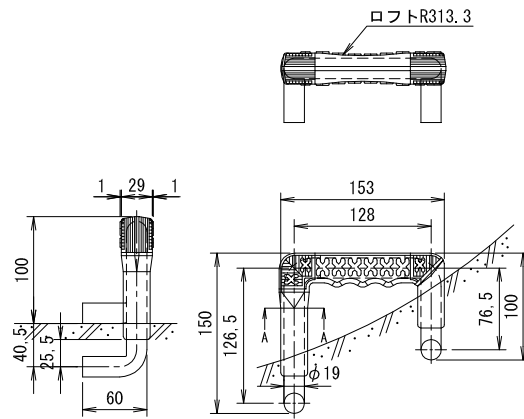
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	足掛金物	防錆被覆 幅 150mm 幅 400mm		1:5 (A3版印刷時)	2011年度



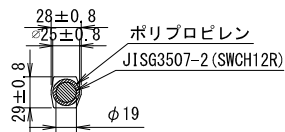
側塊用

コンクリート壁用 (W=150)

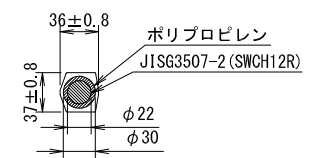
コンクリート壁用 (W=400)



A-A断面図



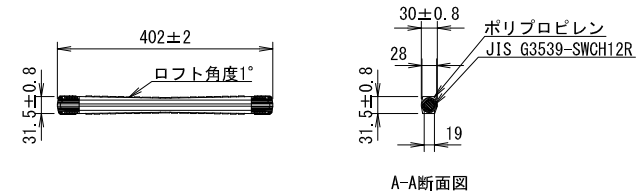
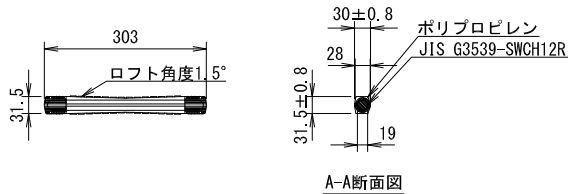
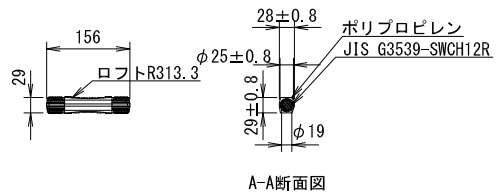
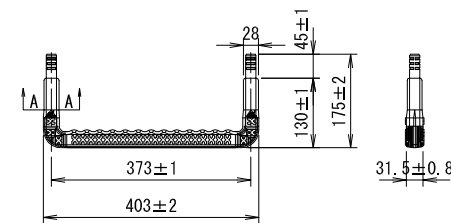
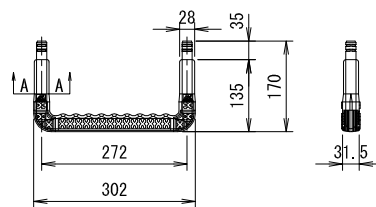
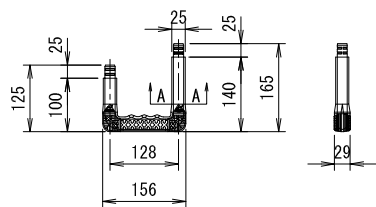
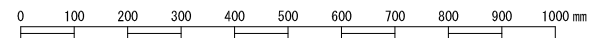
B-B断面図



- 注1. すべり止めは両面加工とする。  
 注2. 防錆被覆のデザインは作業に支障とならない範囲で変更することができる。  
 注3. 足掛の端部に反射板を設置することができる。

# 後付足掛金物（防錆被膜）詳細図 （参考図）

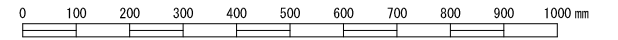
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	足掛金物	後付用 幅150mm 300mm 400mm (参考図)		1:10 (A3版印刷時)	2011年度



- 注 1. すべり止めは両面加工とする。  
 2. 防錆被膜のデザインは作業に支障とならない範囲で変えることができる。  
 3. 足掛の端部に反射板を設置することができる。  
 4. エポキシ樹脂等により、確実に接着させること。

マンホール鉄蓋の表面模様（標準用）

工 種	種 別	形 状	変 数	縮 尺	作成年度
マンホール	鉄 蓋	表面模様 おすい あめ T-25 T-14		1:10 (A3版印刷時)	2011年度



T-25(おすい)



T-25(あめ)



T-14(おすい)



T-14(あめ)

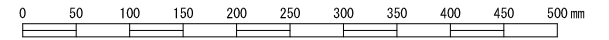


※町田市型マンホール蓋及び受枠として認定を受けたものとする。

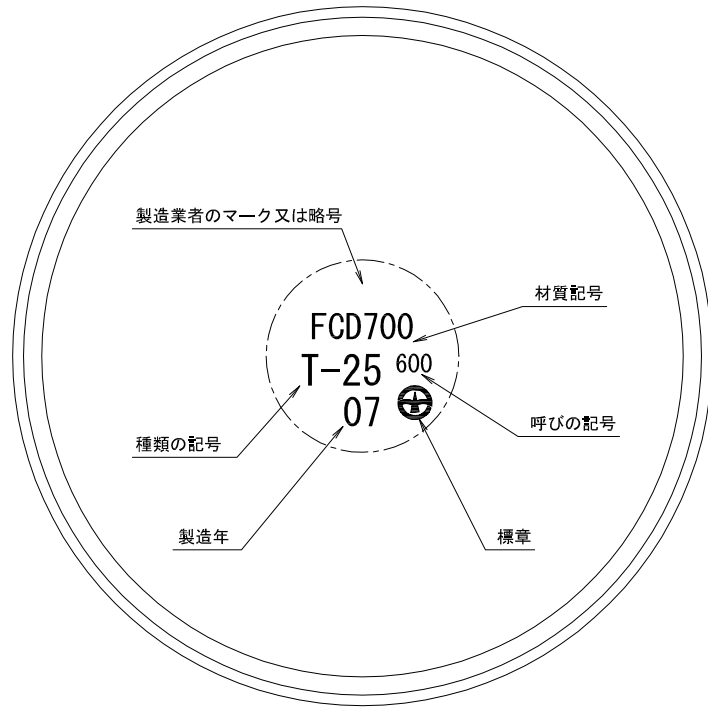


# マンホール鉄蓋下水道協会標章及び種類の記号鋳出し配置図

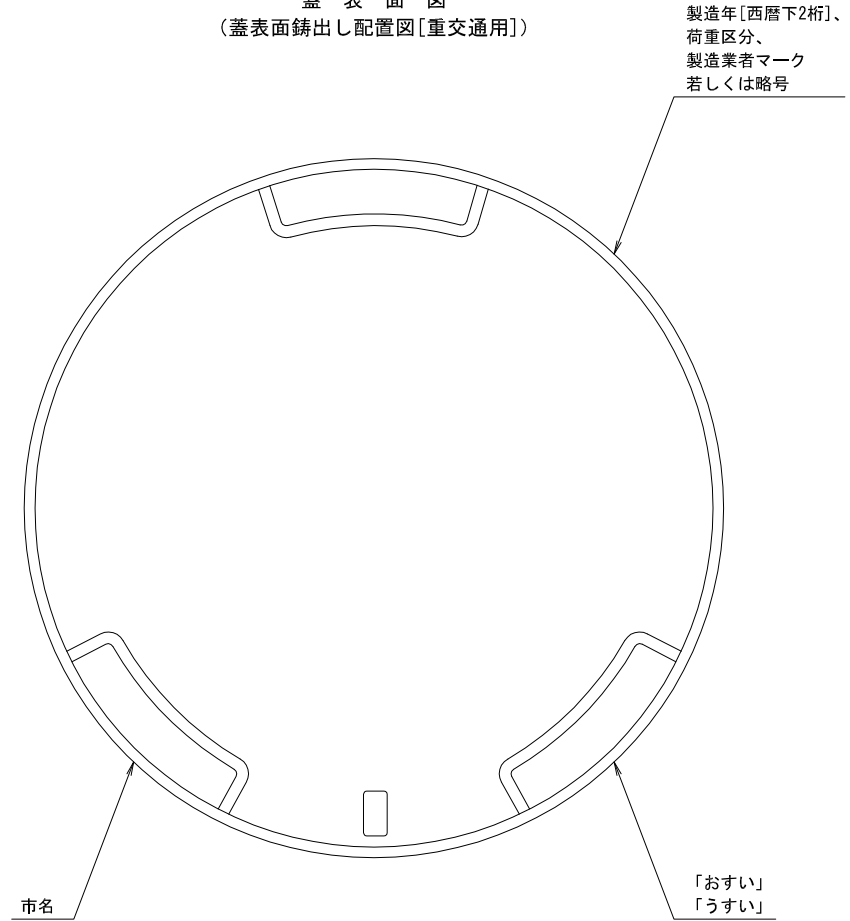
工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	鉄蓋	下水道協会標章 記号鋳出し 配置図		1:5 (A3版印刷時)	2011年度



蓋裏面図



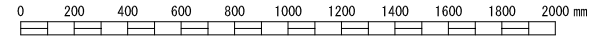
蓋表面図  
(蓋表面鋳出し配置図[重交通用])



# FRP製中間スラブ（現場打用）詳細図

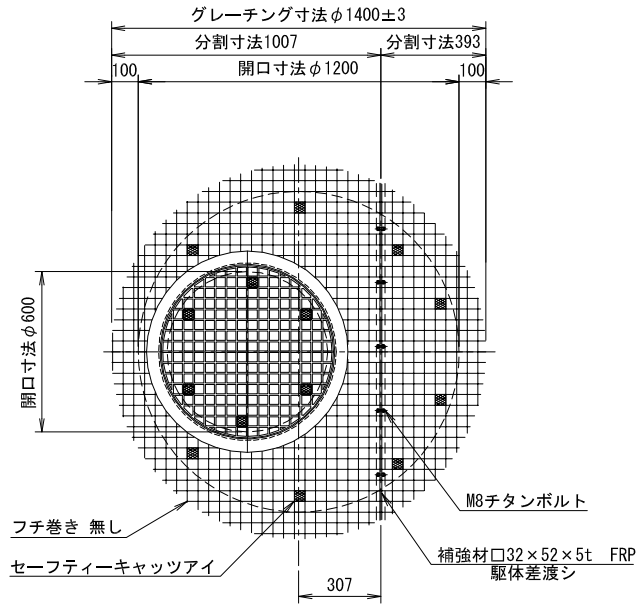
（参考図）

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	中間スラブ	FRP製 現場打用 (参考図)		1:20 (A3版印刷時)	2011年度

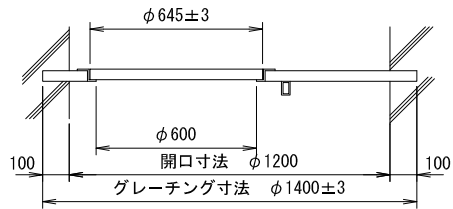


内径120 cm用

平面図

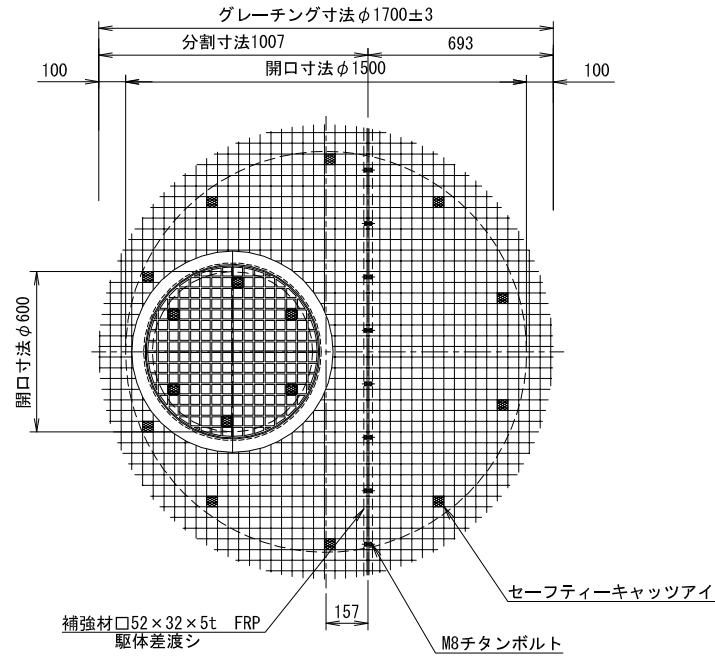


縦面図

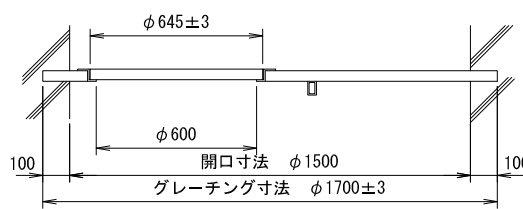


内径150 cm用

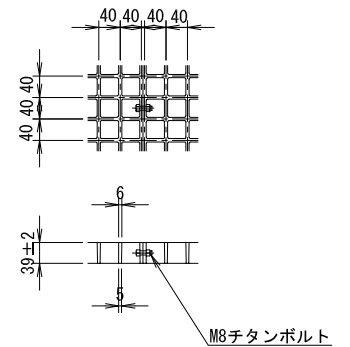
平面図



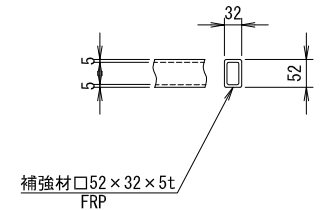
縦面図



FRPグレーティング詳細図 縮尺1:10  
(ジョイント部)



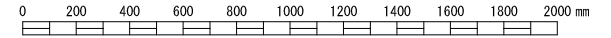
補強材詳細図 縮尺1:10



# FRP製中間スラブ（組立用）詳細図

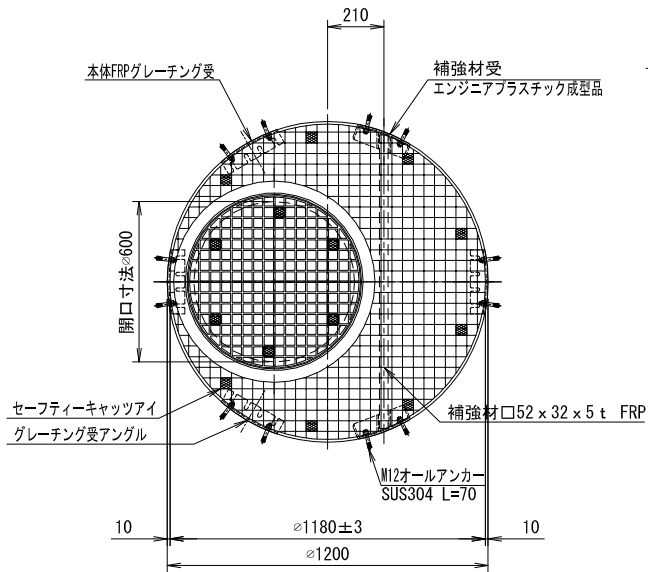
（参考図）

工種	種別	形状	変数	縮尺	作成年度
マンホール	中間スラブ	FRP製 組立用 (参考図)		1:20 (A3版印刷時)	2011年度



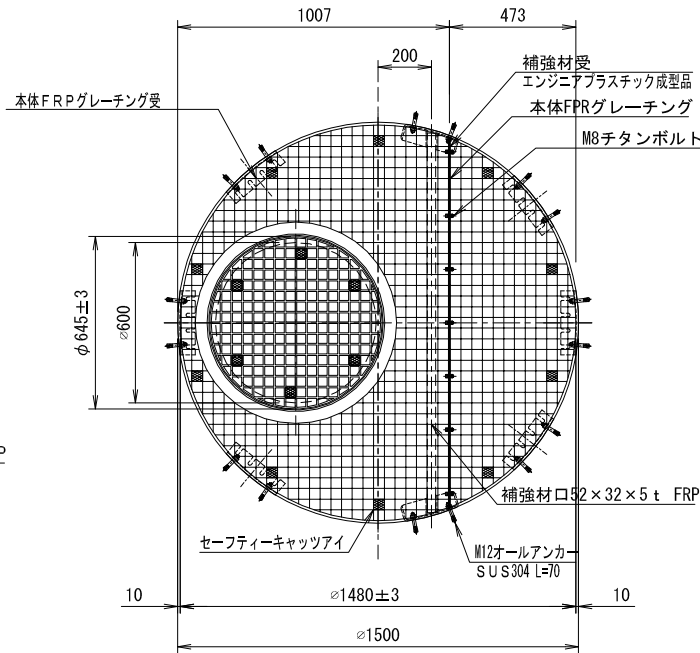
内径120 cm用

平面図

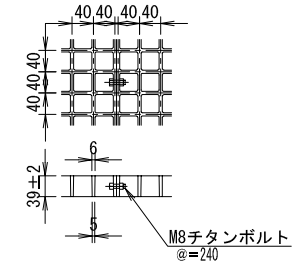


内径150 cm用

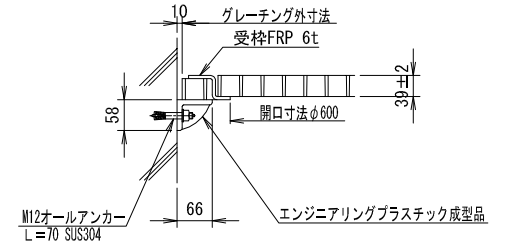
平面図



FRPグレーチング詳細図 縮尺1:10  
(ジョイント部)



端部断面詳細図 縮尺1:10  
(φ600開口部)



補強材受詳細図 縮尺1:10

